作業室用

茨城県教育財団文化財調査報告第189集

館野遺跡

主要地方道下館つくば線緊急地方道路
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書2

平成14年3月

茨城県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第189集

館野遺跡

主要地方道下館つくば線緊急地方道路
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書2

平成14年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

序

茨城県は，県内の主要な都市間をおよそ60分で連結する道路網の整備を目的とする「県土60分構想」の実現のため，高速道路やこれを補完する国道，主要地方道等の幹線道路網の整備を図っております。

主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業も，そうした交通体系の整備と県土の一体的な振興を図るため，計画され整備が行われているものです。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査についての委託契約を結び，平成12年10月から翌年３月まで館野遺跡の調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構，遺物が確認され，郷土の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。

本書は，館野遺跡の調査成果を収録したものです。本書が，学術的な研究資料としてはもとより，郷土への理解を深めると共に，教育，文化の向上の一助として広く活用されますことを希望いたします。

なお発掘調査及び整理作業を進めるにあたり，委託者である茨城県から賜りました多大なる御協力に対し，深く感謝申し上げます。

また明野町教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成14年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県道路建設課の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成12年度に発掘調査を実施した茨城県真壁郡明野町大字海老ヶ島に所在する舘野遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　査　平成12年10月1日～平成13年3月31日

整　理　平成13年6月1日～平成13年12月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久の指揮のもと，調査第3班長矢ノ倉正男，首席調査員小林孝，主任調査員茂木悦男が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第一課長川井正一の指揮のもと，主任調査員茂木悦男が担当した。

5　発掘調査及び整理に際し，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X軸＝＋27,520m，Y軸＝＋19,480mの交点を基準点（A１a１）とした。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，「A１区」，「B２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へａ，ｂ，ｃ…ｊ，西から東へ１，２，３…０とし，名称は大調査区の名称を冠し，「A１a１区」，「B２b２区」のように　呼称した。

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　竪穴住居跡－SI　掘立柱建物跡－SB　土坑－SK　井戸跡－SE　溝－SD

遺物　土器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品－M　木器・木製品－W

拓本記録上器－TP

土層　撹乱－K

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

炉・焼土　竈・粘土・黒色処理　抜き取り痕・煤・油煙

● 土器　○ 土製品　□ 石器　△ 金属製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は300分の１，各遺構の実測図は60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は，原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

6　「主軸方向」は，長軸（長径）方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　N－10°－E）

7　土器の計測値の単位はcmである。なお，現存値は（ ）で，推定値は［ ］を付して示した。

8　遺物観察表の備考欄は，土器の写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

9　遺物番号については，土器，拓本のみ掲載の土器片，土製品，石器，金属製品，木製品ごとに通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

10　遺構一覧表における計測値は，現存値は（ ）で，推定値は［ ］を付して示した。

抄　　録

ふりがな	たてのいせき
書名	館野遺跡
副書名	主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	2
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第189集
著者名	茂木悦男
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL　029-225-6587
発行日	2002（平成14）年3月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
たてのいせき 館野遺跡	いばらきけんつくばしたてのいせき 茨城県筑波郡明野町大字海老ヶ島字館野410番地ほか	08502 － 074	36度 14分 47秒	140度 3分 0秒	25m	20001001 ～ 20010331	5,956㎡	主要地方道下館つくば線道路整備事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
館野遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居跡　5軒	弥生土器（広口壺），土製品（紡錘車）	弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落跡である。井戸跡からは，斎串・糸巻などの木製品が出土している。
		古墳	竪穴住居跡　2軒	土師器（坏）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　29軒 掘立柱建物跡　11棟 土坑　18基 井戸跡　4基 溝　1条	土師器（坏・高台付坏・椀・皿・高坏・甕・甑・羽釜），須恵器（坏・高台付坏・蓋・坏蓋・甕・鉢・横瓶），土製品（管状土錘・支脚・羽口・置き竈・紡錘車），石器（砥石），木製品（斎串・糸巻），鉄滓	
		不明	竪穴住居跡　3軒 掘立柱建物跡　3棟 土坑　42基 井戸跡　1基 溝　3条	土師器（坏・甕），須恵器（坏・甕）	
	その他	旧石器		剥片	
		縄文		縄文土器（深鉢）	
		不明	土坑　88基	土製品（紡錘車・管状土錘・土玉・泥面子），石器（石鏃・凹石・砥石），鉄製品（刀子），鉄滓	

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
第1章　調査経緯……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査経過……1
第2章　位置と環境……3
　第1節　地理的環境……3
　第2節　歴史的環境……3
第3章　調査の成果……7
　第1節　遺跡の概要……7
　第2節　基本層序……7
　第3節　遺構と遺物……8
　　1　弥生時代の遺構と遺物……8
　　(1)　竪穴住居跡……8
　　2　古墳時代の遺構と遺物……17
　　(1)　竪穴住居跡……17
　　3　奈良・平安時代の遺構と遺物……20
　　(1)　竪穴住居跡……20
　　(2)　掘立柱建物跡……68
　　(3)　土坑……83
　　(4)　井戸跡……97
　　(5)　溝……102
　　4　時期不明の遺構と遺物……105
　　(1)　竪穴住居跡……105
　　(2)　掘立柱建物跡……108
　　(3)　土坑……111
　　(4)　井戸跡……144
　　(5)　溝……145
　　5　遺構外出土遺物……148
　第4節　まとめ……151
付　章……157
写真図版

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

茨城県は，茨城県真壁郡明野町海老ヶ島地区内において，県道下館つくば線の建設を進めている。

平成9年6月6日，茨城県下館土木事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに，県道下館つくば線緊急地方道路新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会があった。

平成9年9月16日，茨城県教育委員会は，茨城県真壁郡明野町中根地区において現地踏査を実施した。館野遺跡については，詳細な表面調査により，遺跡の範囲をおさえた。

平成9年11月4日，中根十三塚遺跡について試掘調査を実施した。中根十三塚遺跡については，平成10年10月1日から平成11年3月31日まで調査を実施した。

平成9年12月3日，茨城県教育委員会教育長から茨城県下館土木事務所長あてに，事業地内に館野遺跡が所在する旨回答した。

平成12年3月15日，茨城県下館土木事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに，事業地内における埋蔵文化財（館野遺跡）の取扱いについて協議書が提出された。

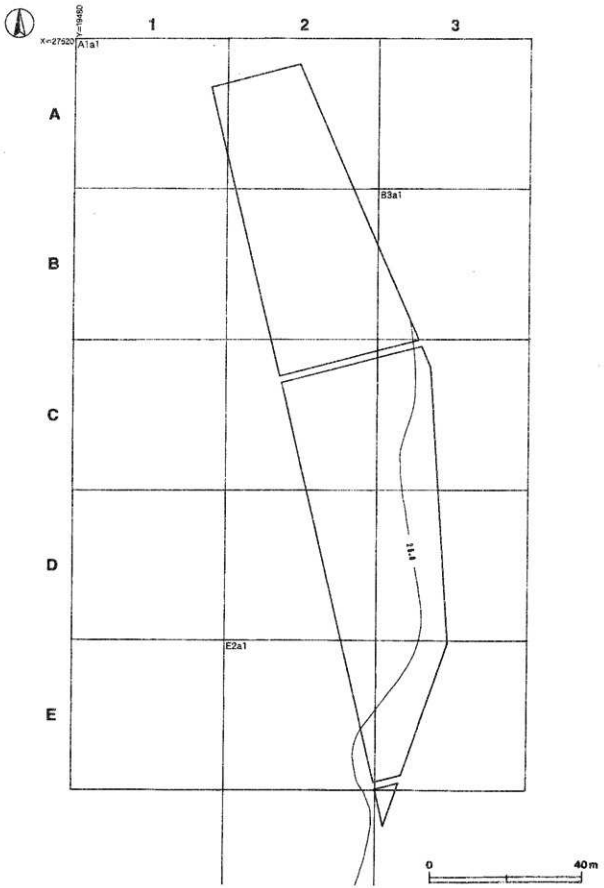
平成12年3月21日，茨城県教育委員会教育長から茨城県下館土木事務所あてに，事業地内における館野遺跡について，記録保存のための発掘調査を実施するよう回答した。

調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

第2節　調　査　経　過

館野遺跡の調査は，平成12年10月1日から平成13年3月31日までの6か月間実施した。以下，調査の経過について，概要を表で記載する。

項　目	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月
調査準備	■					
試　掘	■■■■	■■■				
表土除去及び遺構確認		■■				
遺構調査			■■■■	■■■■	■■■■	■■■
遺物洗浄及び注記作業写真整理	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■
補足調査及び後片付け						■■



第１図　館野遺跡調査区設定図

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

館野遺跡は，茨城県真壁郡明野町大字海老ヶ島字館野410番地ほかに位置する。

明野町の地形は，茨城県と福島県境にある八溝山から南に伸びる八溝山地の西端部に位置する筑波山を中心とする筑波山塊に接し，東側を南流して霞ヶ浦に流入する桜川と，西側を緩流して利根川に合流する小貝川の低地及びそれらに挟まれた，桜川低地・真壁台地からなる。

明野町域は，洪積台地と，沖積低地によって地勢が形成され，洪積台地には，畑地を中心に平地林が点在し，沖積低地には肥沃な田園地帯が帯状にひらけている。

館野遺跡が立地するのは，真壁台地から桜川低地にかかる中位段丘で，桜川に注ぐ観音川右岸の標高約25mの微高地である。この微高地は，東は観音川，西は大川に挟まれ，筑波学園郡市北部まで南東方向に細長く舌状に伸びている。

その構成層は，関東ローム の下に青灰色から灰色を呈する粘土ないし砂質粘土層の茨城粘土層で，その下に砂礫層が広がる。これらの地層はいずれもほぼ水平である。

当遺跡の調査前の現況は，陸田及び畑地である。

第2節　歴史的環境

館野遺跡が立地する桜川と小貝川に挟まれた微高地には，旧石器時代から中・近世にかけての遺跡が数多く所在する。特に古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が多い。地形からみると小貝川に隣る台地西側，桜川に隣る台地東側，桜川に流れ込む観音川，大川などの小河川がつくる小支谷の縁辺部に多い。

旧石器時代の遺跡は，当財団が平成10年度に調査し，当遺跡から南に1.4kmの位置にある赤町（中根）十三塚遺跡〈2〉と中妻（倉持）遺跡〈5〉がある。赤町（中根）十三塚遺跡からはナイフ形石器や剥片[1]，中妻（倉持）遺跡からはナイフ形石器や尖頭器が出土している[2]。

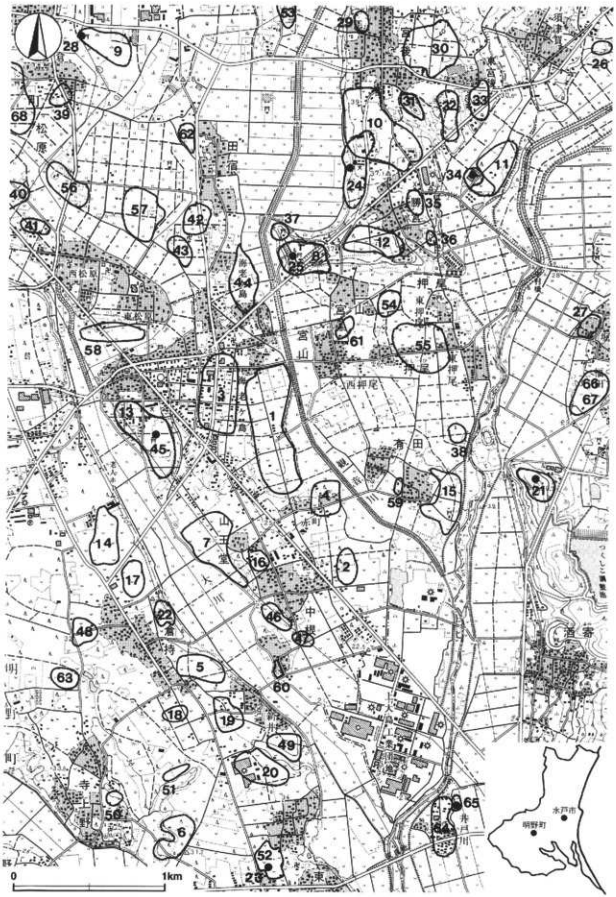
縄文時代の遺跡は，前述した中妻（倉持）遺跡，山王堂遺跡〈7〉，当財団が平成10年度に調査した上台畑遺跡がある。中妻（倉持）遺跡は，中期から後期にかけての遺跡で，住居跡，土坑などが検出されている。土坑は80基で，土器のほか，骨片や炭化物が出土するものもある。土器は，中期から後期にかけてのもので，骨片が検出された埋甕が5か所で見つかっている。山王堂遺跡，上台畑遺跡からは，中期から晩期にかけての遺物が多量に検出されている[3]。

弥生時代の遺跡は，中妻（倉持）遺跡，赤町（中根）十三塚遺跡，えんなみ台遺跡，鯉田石巣山遺跡，宮山遺跡〈8〉などがある。このうち住居跡が検出されたのは，中妻（倉持）遺跡と赤町（中根）十三塚遺跡で，中妻（倉持）遺跡は，明野町教育委員会によって2回の調査が行われ，隅丸長方形を呈する住居跡が3軒検出されている。弥生土器は60点ほど出土しており，すべて後期のもので，二軒屋式土器と考えられる。赤町（中根）十三塚遺跡では，住居跡が3軒検出され，弥生土器の甕，土製紡錘車などが出土している。弥生土器は，やはり後期のもので二軒屋式土器と思われる。えんなみ台遺跡では附加条縄文，羽状縄文が施された土器，鯉田石巣山遺跡では附加条縄文が施された土器，宮山遺跡では二軒屋式と思われる土器片がそれぞれ採集されて

表1　館野遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	館野遺跡		○	○	○	○		
2	赤町(中根)十一塚遺跡	○		○	○	○	○	
3	海老ヶ島東原遺跡				○	○	○	
4	赤町遺跡				○	○	○	
5	中妻(倉持)遺跡	○	○	○	○	○	○	
6	池ノ上遺跡		○		○	○		
7	山王堂遺跡		○	○	○	○		
8	宮山遺跡		○	○	○	○	○	
9	鍋山東原遺跡		○		○	○		
10	天神遺跡		○		○	○		
11	駒込遺跡		○	○	○	○		
12	陷西遺跡		○		○	○		
13	岡山遺跡		○		○	○	○	
14	久保山遺跡		○		○	○		
15	有田東遺跡					○	○	
16	宮先遺跡		○		○	○		
17	宮北遺跡		○		○	○	○	
18	原久遺跡		○		○	○		
19	富士山遺跡		○		○	○	○	
20	宮台遺跡		○		○	○		
21	松石古墳群				○			
22	宮前遺跡			○	○	○		
23	東石田古墳群				○			
24	宮山古墳群				○			
25	羽鳥天神塚古墳				○			
26	源法寺廃寺跡					○		
27	日明廃寺遺跡					○		
28	八坂神社古墳				○			
29	西後遺跡				○	○	○	
30	宮後東原遺跡				○	○	○	
31	宮後前畑遺跡				○	○	○	
32	原山遺跡				○	○	○	
33	宮後金井遺跡				○	○		
34	駒込古墳群				○			

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
35	陣場遺跡				○	○		
36	向台遺跡				○	○		
37	宮山石倉遺跡							
38	下宮遺跡				○	○		
39	石倉東遺跡				○	○		
40	中根遺跡				○	○		
41	新堀遺跡				○	○		
42	蓮冠北遺跡				○	○	○	
43	蓮冠南遺跡				○	○	○	
44	戸張遺跡				○	○	○	
45	稲荷塚古墳				○			
46	狭岡遺跡				○	○	○	
47	台遺跡				○	○	○	
48	水落遺跡				○	○	○	
49	倉持前畑遺跡				○	○		
50	狐ヶ宮遺跡				○	○	○	
51	山ノ入遺跡				○	○		
52	堂ノ下(西原北)遺跡				○	○		
53	鵜鳥新田前遺跡					○	○	
54	矢尻遺跡					○	○	○
55	押尾古屋敷遺跡					○	○	○
56	炭焼戸西遺跡					○	○	
57	炭焼戸東遺跡					○	○	
58	城ノ内遺跡					○	○	
59	有田西遺跡					○	○	
60	堂前遺跡					○	○	
61	坪内遺跡					○	○	
62	田宿炭焼戸遺跡						○	
63	池ノ台遺跡							
64	大鳥城跡						○	
65	上大島井戸川古墳群				○			
66	南椎尾八幡前遺跡				○	○		
67	南椎尾小山遺跡				○	○		
68	石倉西遺跡				○	○		



第2図　館野遺跡周辺遺跡分布図

いる[4]。さらに，明野町が昭和55年から57年にかけて実施した遺跡分布調査では，岡山遺跡〈13〉，宮前遺跡〈22〉，鑪ノ下（西原北）遺跡〈52〉，雙葉遺跡，我仁内前遺跡，駒込遺跡〈11〉などからも弥生時代後期の土器片が報告されている。

古墳時代の遺跡は多数知られているが，調査されたものは少ない。赤町（中根）十三塚遺跡，台畑古墳，灯火山古墳，稟石田古墳群〈23〉などが確認されている。赤町（中根）十三塚遺跡では，竪穴住居跡が1軒，土坑が1基検出され，土師器の高坏，甕，埴が出土している。平成2年度の灯火山古墳の確認調査では，前期の壺形土器が検出されている[5]。

奈良・平安時代は当遺跡の中心となる時期であり，多数の遺跡が知られている。この時代は律令制による中央集権化とともに，地方には国・郡がおかれて統治された。律令制下の明野町は真壁郡に属し，町域の遺跡は真壁郡下の逃田農民の集落跡と考えられている。遺跡の分布をみると，台地の中央部にはなく，現在の水田に面した微高地に存在している。この時期，水田をどれだけ専有していたかは不明であるが，真壁，筑波に残された条里遺構をみると，ほぼ現在の水田面積に近いものが考えられる。これらのことから推定すると，この時代の明野町域の集落は，水田管理に適した場所である低地に設けられていたようである。当時代を代表する遺跡は，天神遺跡〈10〉，駒込遺跡，押尾古屋敷遺跡〈55〉，赤町（中根）十三塚遺跡がある。天神遺跡では，坏，高台付坏，甕，鉢などが出土しており，時期は8世紀初頭から9世紀末と思われる。駒込遺跡は，狭い谷津を挟んで同じ時期の集落が存在しているのが特徴で，土師器，須恵器が出土している。押尾古屋敷遺跡では土師器，須恵器が採集され，8世紀後半頃のものと思われるが，小字に寺内，寺内寺がみられ，寺院跡の可能性も考えられる[6]。赤町（中根）十三塚遺跡では，竪穴住居跡1軒が検出され，土師器の甕，須恵器の坏，灰釉陶器などが出土している。平安時代の様子を伝える文献はないが，当町域周辺には平将門にかかわる伝承が多い。東石田には，平将門の伯父にあたる平国香の屋館があったと言われており，将門との抗争の場となっていた。

中世になると遺跡数は減少する。当遺跡の南側に赤町（中根）十三塚遺跡，宗町遺跡〈4〉，狄間遺跡〈46〉，台遺跡〈47〉，笠前遺跡〈60〉がある。赤町（中根）十三塚遺跡では，多数の土壙が検出され，大規模な墓域であることが確認された。遺物は中世以降の土師質の内耳土器，皿，擂鉢や陶器などが検出されている。

註

1）茨城県教育財団『主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業塩内埋蔵文化財調査報告書　中根十三塚遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第154集　1999年7月

2）明野町教育委員会『倉持遺跡』1883年3月

3）茨城県教育財団『主要地方道つくば真岡線緊急地方道路整備事業塩内埋蔵文化財調査報告書　明石遺跡　明石北遺跡　上台畑遺跡』　『茨城県教育財団文化財調査報告』第164集　2000年3月

4）明野町史編さん委員会『明野町史』1985年7月

5）明野町教育委員会『灯火山古墳　確認調査報告書』1990年12月

6）註4）に同じ

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

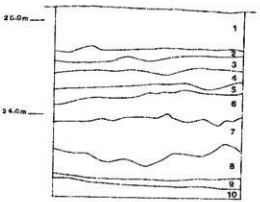
館野遺跡は，奈良・平安時代を中心とした，縄文時代から奈良・平安時代にかけての複合遺跡である。調査面積は，5,936㎡である。

今回の調査によって，弥生時代の竪穴住居跡5軒，古墳時代の竪穴式住居跡2軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡29軒，掘立柱建物跡11棟，土坑18基，井戸跡4基，溝1条などが検出された。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で43箱分が出土した。弥生時代後期の広口壺，土製の紡錘車，奈良・平安時代の土師器（坏・高台付坏・椀・皿・甕・瓶・羽釜）や須恵器（坏・高台付坏・鍔・坏蓋・甕）が中心で，土製品（管状土錘・支脚，敲き石・紡錘車），井戸跡から糸巻や倉庫などの木製品も出土している。この他遺構外から，縄文土器（深鉢），土製品（土玉・管状土錘・泥面子），石器（石鏃・凹石・砥石），黒曜石の剥片，鉄製品（刀子），鉄滓などが出土している。

第2節　基本層序

調査区南部E２a０区にテストピットを設定し，約２m掘り下げて，土層の堆積状況の観察を行った（第３図）。



第３図　基本土層図

１層は，黒色の耕作土層である。層厚は40～45cmである。

２層は，黒色で，耕作土からソフトロームへの漸移層である。ローム粒子を少量含んでいる。粘性・締まりとも弱い。層厚は，５～18cmである。

３層は，黒褐色のソフトローム層である。層厚は，７～20cmである。

４層は，明褐色で，ソフトロームからハードロームへの漸移層である。ロームブロックを多量に含んでいる。層厚は，10～20cmである。

５層は，褐色で，ハードロームの上層である。締まりがある。層厚は，５～16cmである。

６層は，灰褐色で，第２黒色帯である。ロームブロックを少量含み，締まりがある。層厚は，15～30cmである。なお，第１黒色帯は観察できなかった。

７層は，明褐色のハードローム層で，粘性が強い。層厚は，20～50cmである。

８層は，明褐色の粘土層で，粘性・締まりとも強い。層厚は，15～35cmである。

９層は，にぶい褐色の砂質粘土層で，粘性・締まりとも強い。層厚は，５～10cmである。

10層は，にぶい橙色で，礫を多量に含む砂層である。層厚は，10～25cmである。

住居跡などの遺構は，２層上面で確認した。

第3節　遺構と遺物

1　弥生時代

調査の結果，調査区域中央部から北部にかけて後期と思われる竪穴住居跡５軒が検出された。しかし，耕地にするための削平により遺存状態はよくない。遺物は弥生土器のほか，土製の紡錘車などが出土した。

(1)　竪穴住居跡

第１号住居跡（第４図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｇ３区。調査区域内の弥生時代の住居跡の中では，最も北側に位置する。

規模と形状　長軸3.28m，短軸2.92mの長方形である。主軸方向は，Ｎ－32°－Ｗである。壁高は10～12cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏み固められた部分は検出されなかった。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ42～68cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

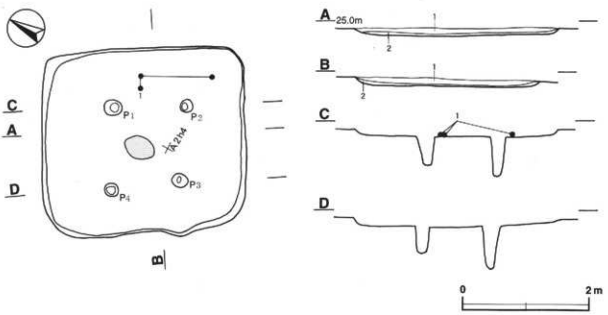
炉　中央部に焼土が検出され炉跡と判断したが，覆土が薄く範囲を確認しただけで，土層の観察はできなかった。炉の平面形は長径50cm，短径28cmの楕円形である。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

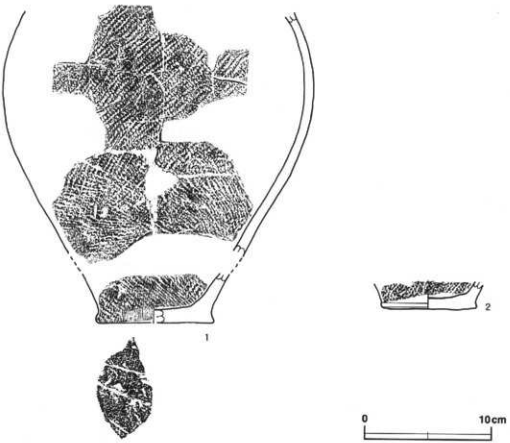
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，締まりあり

遺物出土状況　弥生土器片77点が，炉の周辺から東部を中心に出土している。第５図Ｐ１の広口壺は，東部の覆土下層から出土した。Ｐ２の広口壺は，覆土中から出土した。

所見　時期は，出土遺物から後期と思われる。



第４図　第１号住居跡実測図



第５図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	－	[24.7]	[9.4]	胴部上半と下半に異なる施加条痕実施後条の縄文	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	東部覆土下層	PL23
2	弥生土器	広口壺	－	[2.3)	7.6	側部にLRの単節縄文を横方向に施文	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	覆土中	

第11号住居跡（第６図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｆ８区。本跡の西側に隣接して，後期の第13号住居跡がある。

重複関係　北西部の覆土上に，第12号住居が構築されている。

規模と形状　長軸4.71ｍ，短軸3.91ｍの長方形である。主軸方向は，Ｎ－46°－Ｗである。壁高は16～18cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ31～38cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ70cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。主柱穴及び出入り口施設に伴うピットの掘り方は，しっかりしている。

炉　ほぼ中央部で検出された。長径80cm，短径70cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，焼けて赤変している。

炉土層解説

１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量

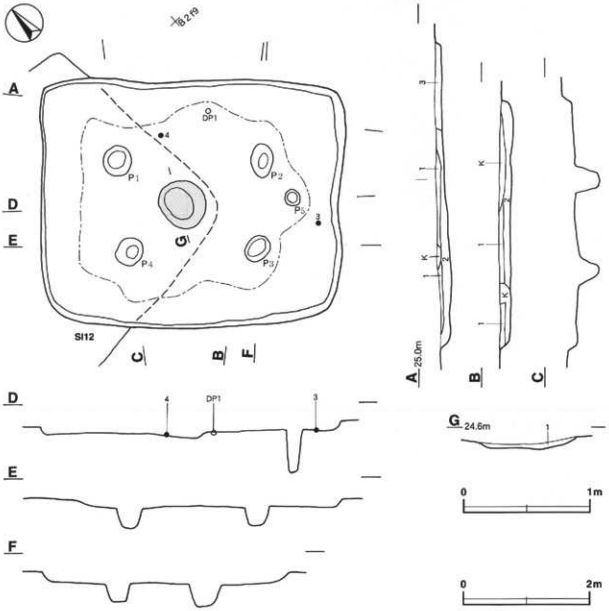
覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

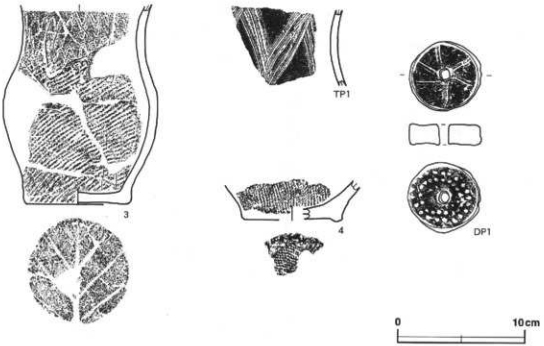
1　黒　褐　色　ロームブロック微量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　弥生土器片49点，土製紡錘車１点が，東部を中心に出土している。第７図Ｐ３の広口壺は南東部壁際の床面から，Ｐ４の広口壺は炉北側の床面から，DP１の土製紡錘車は，東部壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土遺物から後期と思われる。



第６図　第11号住居跡実測図



第７図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第７図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
3	弥生土器	広口壺	－	(15.8)	8.2	頸部に櫛描波状文を施し、胴部に3段の櫛描直線文とLRの縄文	長石・石英	にぶい橙	普通	南東部壁際床面	PL23
4	弥生土器	広口壺	－	(3.2)	「8.0」	底部及び胴部にRLの単節縄文	長石・石英	にぶい橙	普通	炉北側床面	PL23

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
TP1	弥生土器	広口壺	－	(6.0)	－	7本1組の櫛描状工具による波状文	長石・石英	橙	普通	覆土中	PL31

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴		出土位置	備考
		径	厚さ	孔径	重量(g)					
DP1	紡錘車	5.2	1.7	0.8	63.4	長石　にぶい橙	断面長方形	1面に墨書状工具による放射状文，1面に櫛状工具による同心円文	東部壁際床面	PL31

第13号住居跡（第８図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｇ５区。

重複関係　西部が，第１号溝に掘り込まれている。本跡の東側に隣接して，後期の第11号住居跡がある。

規模と形状　西部が，第１号溝に掘り込まれていることから，確認できた長軸3.38m，短軸3.31mで，平面形及び主軸方向は不明である。壁高は10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

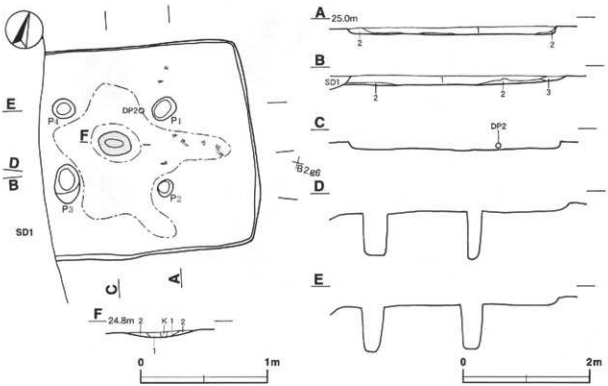
床　平坦で，炉跡の周辺から東壁及び南壁にかけて踏み固められている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ68～76cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。主柱穴は深く，掘り方もしっかりしている。

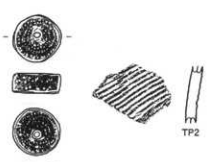
炉　ほぼ中央部と推定される位置で検出された。長径51cm，短径39cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，ほとんど赤変していない。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量



第8図　第13号住居跡実測図



第9図　第13号住居跡出土遺物実測図

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片11点の他，炭化材が出土している。本跡は，床面から炭化材が検出されたことから，焼失住居の可能性が高い。遺物はいずれも破片で，図示できたのは弥生土器の胴部片と土製紡錘車1点である。DP2の土製紡錘車は，炉の北側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から後期と思われる。

第13号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
TP2	弥生土器	広口壺	－	(4.5)	－	附加条1種（附加2条）の縄文	長石・石英	明赤褐	普通	覆土中	PL31

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		径	厚さ	孔径	重量(g)				
DP2	紡錘車	3.7	1.3	0.5	21.9	長石・石英　褐灰	断面長方形　上下2面と側面に棒状工具による刻突文	炉北側覆土下層	PL31

第19号住居跡（第10図）

位置　調査区域の中央部，C 2 b5 区。

重複関係　南東コーナー部が，第１号溝に掘り込まれている。

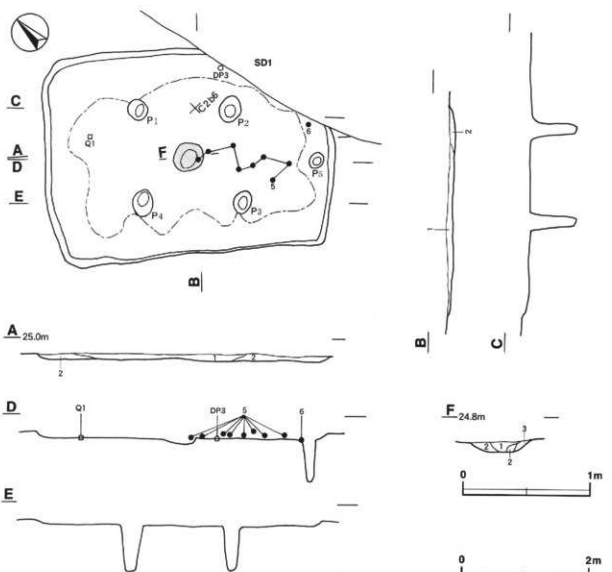
規模と形状　長軸4.62m，短軸3.29mの長方形である。主軸方向は，N－47°－Wである。壁高は４～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ72～76cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ70cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。主柱穴及び出入り口施設に伴うピットの掘り方は，しっかりしている。

炉　ほぼ中央部から検出された。径49cmほどの円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，焼けて赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量



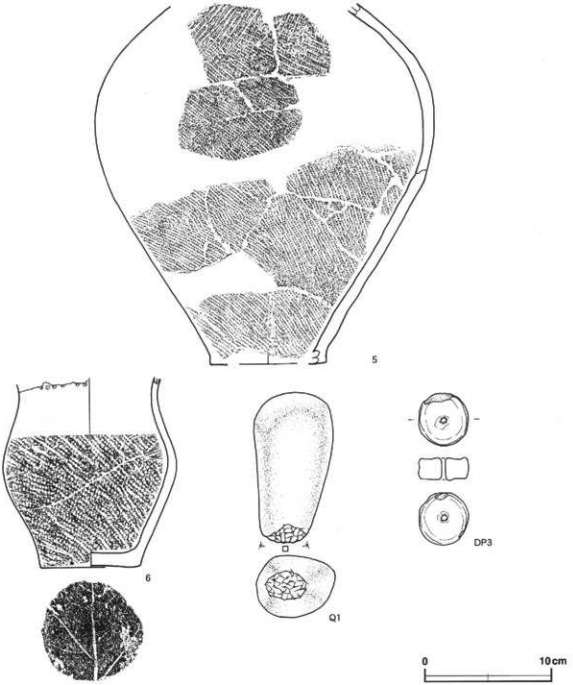
第10図　第19号住居跡実測図

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　弥生土器片56点，土製紡錘車１点，敲石１点が，炉の周辺と南東部の床面を中心に出土している。また，南部の床面から炭化材が少量出土している。第11図Ｐ５の広口壺は南部の覆土下層から，Ｐ６の広口壺は南東部壁際の床面から出土している。DP３の土製紡錘車は東部の床面から，Ｑ１の敲石は北西部の床面から出土している。

所見　時期は，出土遺物から後期と思われる。



第11図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
5	弥生土器	広口壺	－	(28.4)	［9.4］	頸部に附加条1種（附加2条）の縄文	長石・石英	にぶい橙	普通	南部覆土下層	PL23
6	弥生土器	広口壺	－	(15.1)	8.0	頸部に沢山の原縄文 頸部に縦位工具による刺突文	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	南東部覆土床面	PL23

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		径	厚さ	孔径	重量(g)				
DP3	紡錘車	4.1	1.8	0.6	(38.4)	長石・雲母 褐灰	断面長方形 上下2面及び側面は無文	東部床面	PL31

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
Q1	敲石	11.7	6.3	5.0	490.9	安山岩	3面使用 端部に使用痕 磨石兼用	北西部床面	PL32

第25号住居跡（第12図）

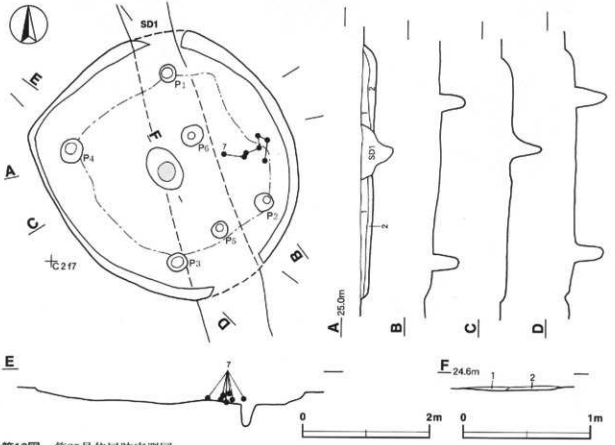
位置 調査区域の中央部，C2e7区。

重複関係 中央部からやや東寄りを第1号溝が南北に走り，掘り込まれている。

規模と形状 長径4.18m，短径3.86mの楕円形である。長径方向は，N－41°－Wである。壁高は8cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦で，炉の周辺から壁際にかけて踏み固められている。

ピット 6か所。P1～P4は深さ41～52cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P5は深さ45cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は深さ47cmで，補助柱穴と思われる。



第12図 第25号住居跡実測図

炉　ほぼ中央部で検出された。長径72cm，短径50cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，焼けて赤変している。

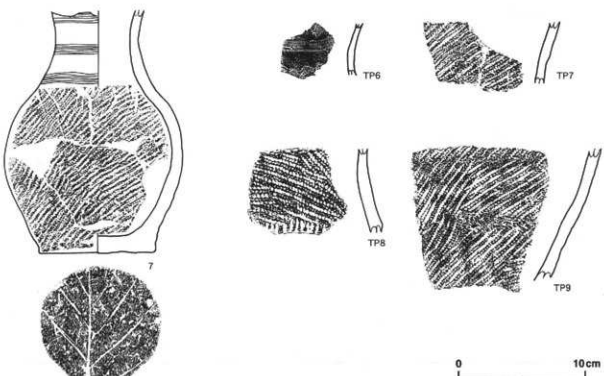
炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量

遺物出土状況　弥生土器片13点が東部を中心に出土しているが，破片が多かった。第13図Ｐ７の広口壺は，東部の覆土下層から出土した。

所見　時期は，出土遺物から後期と思われる。



第13図　第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
7	弥生土器	広口壺	－	(19.4)	9.2	櫛歯状工具による波状文と櫛描文を交互に施文	長石・石英	にぶい橙	普通	東部覆土下層	PL23

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
TP6	弥生土器	広口壺	－	(4.1)	－	櫛歯状工具による波状文と櫛描文を交互に施文	長石・石英	橙	普通	覆土中	PL31
TP7	弥生土器	広口壺	－	(4.8)	－	胴部に附加条1種（附加2条）の縄文	長石・石英	にぶい橙	普通	覆土中	PL31
TP8	弥生土器	広口壺	－	(6.7)	－	胴部に附加条1種（附加2条）の縄文	長石・石英	にぶい橙	普通	覆土中	PL31
TP9	弥生土器	広口壺	－	(11.2)	－	胴部に附加条1種（附加2条）の縄文	長石・石英	にぶい橙	普通	覆土中	PL31

表2　弥生時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模(m)（短軸×長軸）	壁高(cm)	床面	内部施設 整備	炉	柱穴	主ピット	炉	貯蔵穴	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(→は新)
1	A 2 g3	N－32°－W	長方形	3.38 × 3.92	20～12	平坦	－	4	－	－	炉1	－	自然	弥生土器片77点	
12	B 2 h8	N－46°－W	長方形	4.71 × 5.91	16～18	平坦	－	4	1	－	炉1	－	自然	弥生土器片40点，土製紡錘車1点	本跡→SI 22
13	B 2 g5	不明	小 明	3.38 × 3.31	10	平坦	－	4	－	－	炉2	－	自然	弥生土器片11点，炭化材	不明→SD 1
19	C 2 b6	N－47°－W	長方形	4.62 × 3.29	4～10	平坦	－	4	1	－	炉1	－	自然	弥生土器片50点，土製紡錘車1点，鉄石1点	本跡→SD 1
22	C 2 e7	N－11°－W	楕円形	4.14 × 3.46	8	平坦	－	4	1	1	炉1	－	自然	弥生土器片13点	本跡→SD-1

2　古墳時代の遺構と遺物

遺構調査の結果，古墳時代のものと思われる住居跡2軒が検出された。弥生時代及び奈良・平安時代に比べて少なく，いずれも調査区域の中央部に位置する。

(1)　竪穴住居跡

第20号住居跡（第14図）

位置　調査区域の中央部，C 2 a 8 区。

重複関係　南部が調査区域外となっているため，住居跡全体を調査することはできなかった。また，北西コーナー部を第53号土坑に，壁東側を第54号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外となっていることから，確認できた長軸4.98m，短軸2.32mで，平面形は不明である。主軸方向は，N－9°－Wと推定される。壁高は8cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められ，硬化している。第53・54号土坑に掘り込まれている部分を除いて，壁溝が検出された。上幅8～26cm，下幅4～7cm，深さ6～8cmで，断面形はU字形である。

ピット　3か所。P 1・P 2は深さ34～40cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P 3は深さ26cmで，補助柱穴と思われる。

竈　北壁のほぼ中央部を，壁外に66cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ104cm，両袖部の幅102cmである。火床部は円形を呈し，床面と同じレベルの平坦面を使用している。火床部は火熱を受けてわずかに赤変し，硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・砂質粘土少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

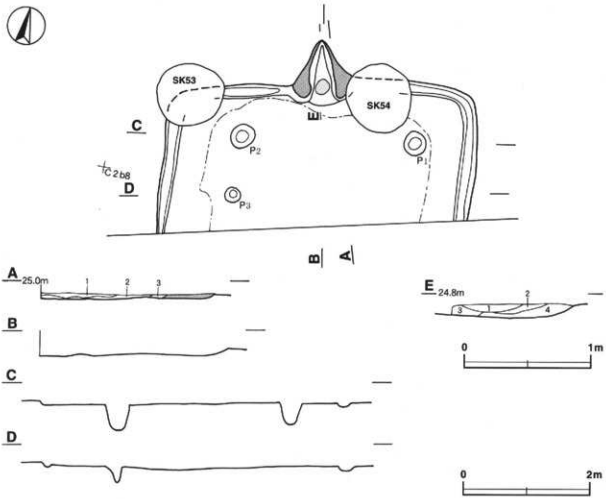
覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土少量

遺物出土状況　土師器片11点が，出土している。破片が多く，図示できるものはなかった。

所見　本跡の時期は，遺構の規模や形状及び出土遺物から判断して，後期（7世紀頃）と思われる。



第14図　第20号住居跡実測図

第35号住居跡（第15図）

位置　調査区域の中央部，D２a８区。

確認状況　耕作によると思われる削平によって遺存状態が悪く，平面形を捉えただけある。北部を，第123号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.66m，短軸3.38mの長方形である。主軸方向は，N－17°－Eである。壁の立ち上がりは，明確に検出できなかった。

床　平坦である。踏み固められた部分は，検出できなかった。

竈　焼土や粘土の散らばりから，竈は北壁の中央部に構築されていたと推定される。規模や形状，土層の堆積状況などは，観察できなかった。

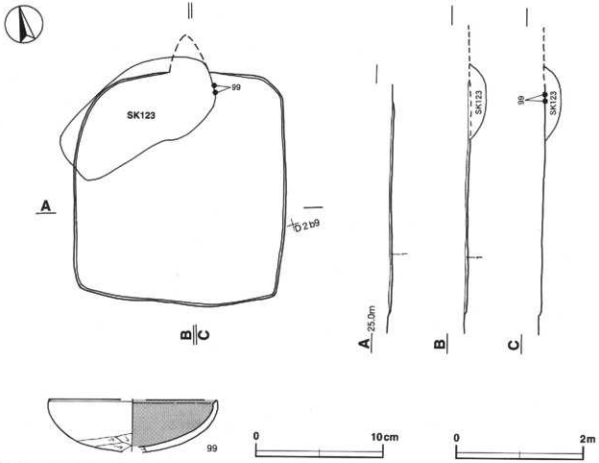
覆土　単一層である。遺存状態が悪く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

1　黒色　ロームブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　遺構の遺存状態が悪いため，土師器坏１点が出土しただけである。第15図Ｐ99の坏は，北部の床面から出土した。

所見　時期は，出土遺物から後期（６世紀後半）と思われる。



第15図　第35号住居跡・出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
99	土師器	坏	[13.3]	(4.1)	－	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	北部床面	

表3　古墳時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模(m)（長軸×短軸）	壁高(cm)	床面	内部施設					覆土	出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
							壁溝	主柱穴	炉入口ピット	貯蔵穴	炉・竈			
20	C 2 a8	[N－9°－W]	不明	(4.90)×2.32	8	平坦	一部	2	－	1	竈1	－	自然	土師器片11点	本跡→SK-53・54
35	D 2 a8	N－17°－E	[及び形]	3.66×3.38	－	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	土師器片1点	本跡→SK-123

3　奈良・平安時代

奈良・平安時代は，当遺跡の中心となる時期で，竪穴住居跡29軒，土坑18基，掘立柱建物跡11棟，井戸跡４基，溝１条が検出された。遺物は，土師器（坏・高台付坏・皿・甕・甑・羽釜・置き竈），須恵器（坏・高台付坏・盤・坏蓋・甕），土製品（土玉・管状土錘・支脚）などが出土している。この他，井戸跡から木製品（斎串・糸巻）などが出土している。

(1)　竪穴住居跡

第２号住居跡（第16図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｉ４区。

規模と形状　長軸2.86m，短軸2.58mの長方形である。主軸方向は，Ｎ－３°－Ｗである。壁高は５～９cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であるが，南部でわずかに凹凸がある。踏み固められた部分は，検出されなかった。

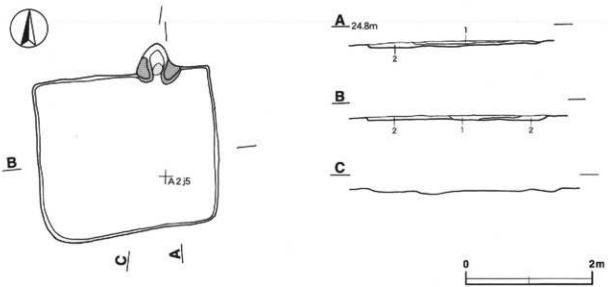
竈　北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に40cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。上部は，耕作のため削平されており，遺存状態はよくない。土層は，観察できなかった。天井部は崩落しており，両袖部がわずかに残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ52cm，両袖部の幅70cmである。火床部は楕円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している程度である。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　本跡では，柱穴，壁溝などは検出されなかった。時期は，遺物は出土していないが，規模や形状から平安時代と推定される。



第16図　第２号住居跡実測図

第４号住居跡（第17図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｊ５区。

重複関係　北部の壁と竈の一部を第46号土坑に掘り込まれ，第５号住居跡の南部及び第６号住居跡の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.94ｍ，短軸2.62ｍの長方形である。主軸方向は，Ｎ－17°－Ｗである。壁高は４～５cmで，上部は削平されたものと考えられる。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から竈前面及び西部と南部の壁際にかけて踏み固められている。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設され，長径65cm，短径53cmの不整楕円形，深さ20cm，断面形は逆台形である。貯蔵穴の長径方向は，住居跡の主軸方向とほぼ同じである。

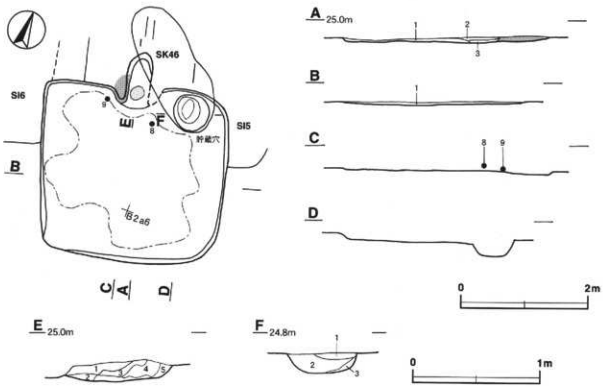
貯蔵穴土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ローム粒子少量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，粘性・締まりあり

竈　北壁のほぼ中央部を，壁外に54cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ106cm，両袖部の幅80cmである。火床部は，円形を呈し，床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している程度である。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・白色粘土中ブロック少量，焼土小ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量



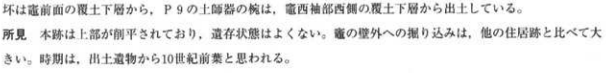
第17図　第４号住居跡実測図

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片36点，須恵器片7点が，竈の前面を中心に出土している。第18図P8の土師器高台付坏は竈前面の覆土下層から，P9の土師器の椀は，竈西袖部西側の覆土下層から出土している。

所見　本跡は上部が削平されており，遺存状態はよくない。竈の壁外への掘り込みは，他の住居跡と比べて大きい。時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第18図　第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
8	土師器	高台付坏	－	(2.2)	－	長石・石英・多色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	竈前面覆土下層	
9	土師器	椀	[14.4]	(5.8)	－	長石・石英・多色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	竈西袖部西側覆土下層	

第5号住居跡（第19図）

位置　調査区域の北部，A2j5区。

重複関係　南部が第4号住居に，中央部が第46号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.22m，短軸2.55mの長方形と推定される。主軸方向は，N－6°－Wである。壁高は2～7cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。上部は耕作のために，削平されたものと思われる。

床　ほぼ平坦である。踏み固められた部分は，検出されなかった。

竈　北壁の中央部を，壁外に18cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ68cm，両袖部の幅84cmである。火床部は円形を呈し，床面と同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

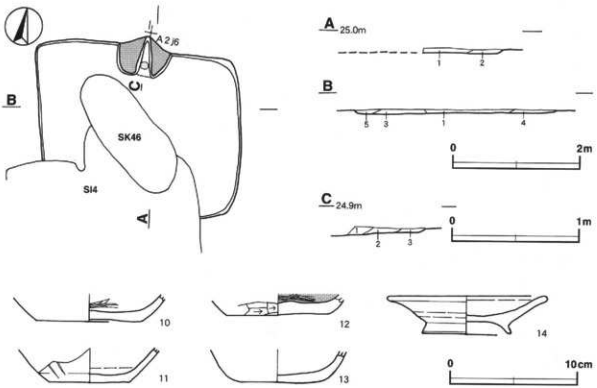
竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，粘性・締まりあり

覆土　5層からなる。ロームブロック・焼土粒子などを含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片11点が，遺構全体に散在した状態で出土している。須恵器は，出土していない。第19図P10～13の土師器の坏，P14の土師器の高台付皿は，いずれも覆土中から出土している。

所見　本跡は，第４号住居跡同様上部が削平されており，遺存状態はよくない。また，竈の壁外への掘り込みは小さい。時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第19図　第５号住居跡・出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
10	土師器	坏	－	(2.1)	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土中	
11	土師器	坏	－	(2.7)	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面にヘラ記号	覆土中	
12	土師器	坏	－	(1.6)	8.0	雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	
13	土師器	坏	－	(2.6)	5.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	
14	土師器	高台付皿	12.6	3.0	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部切り離し後高台貼り付け	覆土中	PL24

第６号住居跡（第20図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｊ５区。

重複関係　南東部を第４号住居に，北西部を第44号土坑に，南部を第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.29m，推定短軸2.24mの方形である。主軸方向は，Ｎ－９°－Ｗである。壁高は６～12cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。第４・５号住居跡同様上部を削平されている。

床　平坦で，踏み固められた部分は検出できなかった。

ピット　１か所。Ｐ１は深さ36cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴　南東コーナー部に付設され，長径50cm，短径40cmの不整楕円形で，深さは14cm，断面形はU字形である。貯蔵穴の長径方向は，主軸方向と直交する。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり

竈　北壁のほぼ中央部を，壁外に60cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部もほとんど残存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ80cm，両袖部の幅78cmと推定される。火床部は円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

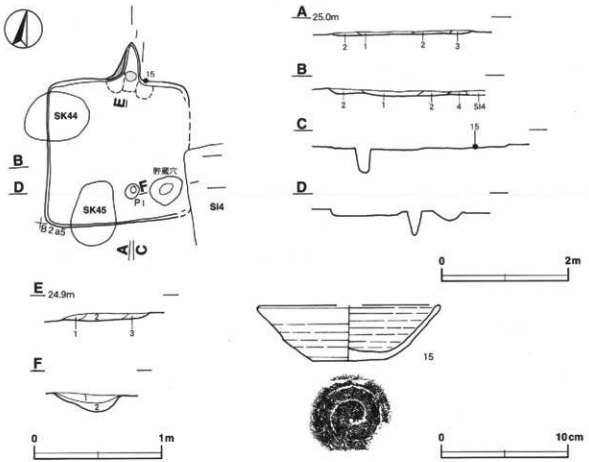
竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗 赤 褐 色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　出土遺物は少なく，須恵器片2点だけである。第20図P15の坏は，竈の袖部内から出土している。

所見　時期は，遺物は少ないが，出土した須恵器から9世紀中葉と思われる。



第20図　第6号住居跡・出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
15	須恵器	坏	[14.4]	4.4	6.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り　体部内面に強いロクロ目	竈袖部内	

第７号住居跡（第21図）

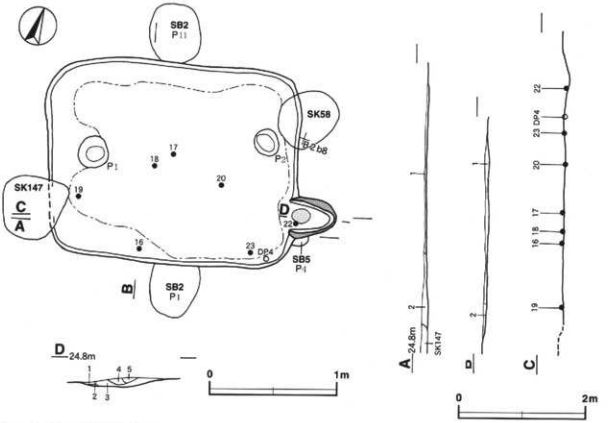
位置　調査区域の北部，Ｂ２b7区。

重複関係　第２号掘立柱建物跡の東部及び第５号掘立柱建物跡の南部を掘り込んでいる。また，北東部を第58号土坑に，南西部を第147号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.04m，短軸3.20mの長方形である。主軸方向は，N－68°－Eである。壁高は１～５cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。上部が耕作によって削平されており，遺存状態はよくない。

床　平坦である。中央部から東壁及び南壁際にかけて踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ１は深さ80cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ２は深さ16cmで，主柱穴と思われる。Ｐ１は深く，掘り方もしっかりしている。



第21図　第７号住居跡実測図

竈　北東壁の中央部から南寄りを，壁外に62cmほど掘り込み構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ74cm，両袖部の幅68cmである。火床部は，楕円形を呈し，床面を８cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック中量
5　にぶい赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量

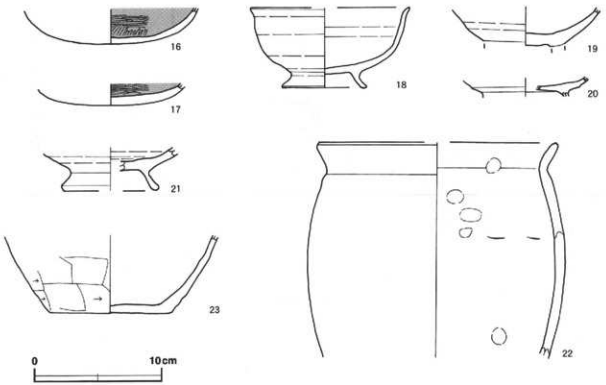
覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

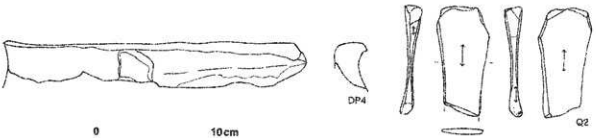
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　白色粘土ブロック多量，ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片106点，須恵器片６点，羽釜１点，砥石１点，鉄滓１点が南部を中心に出土している。第22・23図Ｐ16の土師器坏は南壁際の床面から，Ｐ17の土師器坏とＰ18の土師器椀は，中央部の床面からそれぞれ出土している。Ｐ19の土師器椀は南西部の床面から，Ｐ20の土師器椀は東部の床面から，Ｐ22の土師器甕は竈の火床面からそれぞれ出土している。Ｐ23の土師器甕とＤＰ４の置き竈は，南東コーナー部の床面から出土している。Ｐ21の土師器椀とＱ２の砥石は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第22図　第７号住居跡出土遺物実測図(1)



第23図　第７号住居跡出土遺物実測図(2)

第７号住居跡出土遺物観察表（第22・23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
16	土師器	坏	－	(2.8)	－	長石・石英・小礫子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	南壁際床面	
17	土師器	坏	－	(1.7)	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	中央部床面	
18	土師器	椀	[12.8]	6.3	6.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台張り付け	中央部床面	PL24
19	土師器	椀	－	(3.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台張り付け	南西部床面	
20	土師器	椀	－	(1.5)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	内面ヘラ磨き	東部床面	
21	土師器	椀	－	(3.5)	[7.4]	長石・石英・小礫子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台張り付け	覆土中	PL24
22	土師器	甕	[19.0]	(17.0)	－	長石・石英	橙	普通	体部内面に横位圧痕	焼失床面	PL24
23	土師器	甕	－	(6.2)	9.6	長石・石英・雲母	褐	普通	体部下位横方向のヘラ削り	北東コーナー部	

番号	器種	計測値			胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		径	高さ	重量(g)				
DP4	焼き土	[29.0]	(3.6)	(225.4)	長石・石英　にぶい橙	焼け口部に平坦面　内面に被熱痕	北東コーナー部	PL32

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
Q2	砥石	(8.8)	4.2	1.5	(43.0)	凝灰岩	断面長方形　砥面４面	覆土中	PL32

第８号住居跡（第24図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｅ６区。

重複関係　第９号住居跡の北東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.29m，短軸3.11mの方形である。主軸方向は，Ｎ－11°－Ｗである。壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，踏面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は，全周する。上幅18～26cm，下幅４～10cm，深さ５cmで，断面形はＵ字形である。

ピット　１か所。Ｐ１は深さ59cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。Ｐ１は深く，掘り方もしっかりしている。

竈　北壁の中央部からやや西寄りを，壁外に48cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，両袖部の幅104cmである。火床部は円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，粘性・締まりあり
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ローム粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
11　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

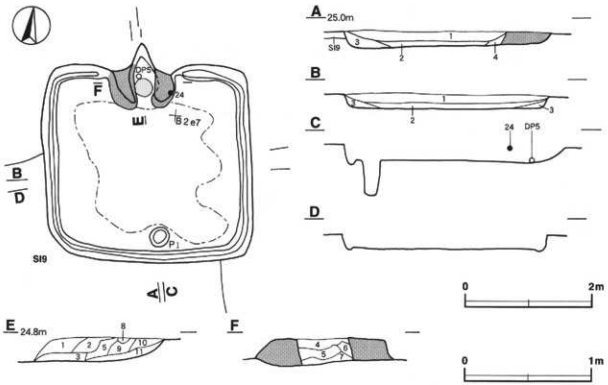
覆土　4層からなる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含んでおり，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

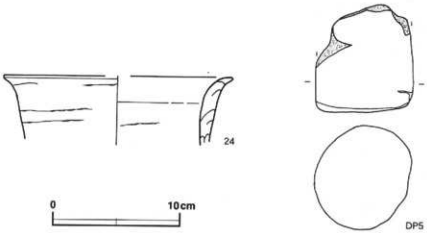
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化材少量

遺物出土状況　土師器片48点，須恵器片7点，土製支脚1点が出土している。須恵器の出土量は少ないが，蓋が出土している。第25図P24の土師器甕は，竈東袖部東部の覆土上層から，DP5の土製支脚は竈の火床面から出土している。

所見　本跡は，覆土中から焼土ブロックなどが検出されていることから，焼失住居の可能性が高い。本跡は第9号住居跡を掘り込んでおり，また遺構の規模や形状及び出土遺物から，時期は8世紀前葉と思われる。



第24図　第8号住居跡実測図



第25図　第８号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
24	土師器	甕	〔18.2〕	（5.3）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	内・外面に輪積み痕	覆土(埋没過程覆土)層	

番号	器種	計測値			胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		径	長さ(厚)	重量(g)				
DP5	支脚	7.8	（8.6）	（498.2）	長石　にぶい褐	輪積み痕　外面ナデ	竈火床面	PL32

第９号住居跡（第26図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｅ６区。

重複関係　北東部が第８号住居に掘り込まれ，南西コーナー部が第21号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北東部と南西コーナー部が掘り込まれているが，長軸3.96m，短軸3.71mの方形である。主軸方向は，Ｎ－16°－Ｗである。壁高は８～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　北東部が第８号住居に掘り込まれているが，平坦で，中央部が踏み固められていたと推定される。壁溝は，第８号住居に掘り込まれている部分を除いて巡っている。上幅８～18cm，下幅４～10cm，深さ６cmで，断面形はＵ字形である。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ74～79cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。主柱穴は深く，掘り方もしっかりしている。

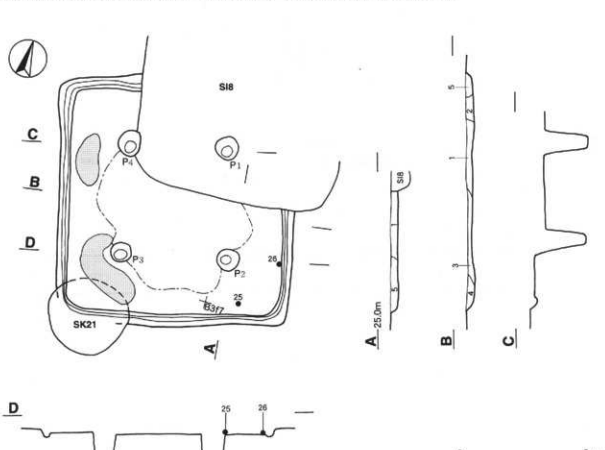
覆土　５層からなる。ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を含み，ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片２点，須恵器片４点が出土している。第26図Ｐ25・Ｐ26の須恵器蓋は，いずれも南東コーナー部の床面から出土している。西部の床面の２か所から，焼土塊が検出された。

所見　本跡は，床面から焼土塊，覆土から焼土ブロックが検出されていることから，焼失住居の可能性が高い。また，北東部を第８号住居に掘り込まれているため，竈は検出されなかったものと推定される。出土遺物から，第８号住居跡と時期差はあまりないと考えられる。時期は，８世紀前葉と思われる。



第26図　第９号住居跡・出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
25	須恵器	蓋	[18.6]	(3.1)	－	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	南東コーナー部覆土	PL24
26	須恵器	蓋	－	(2.0)	－	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	南東コーナー部覆土	

第10号住居跡（第27図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｄ８区。

規模と形状　長軸3.67m，短軸3.66mの方形である。主軸方向は，Ｎ－４°－Ｗである。壁高は４～13cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。耕作による削平で，遺存状態はよくない。

床　平坦で，竈前面から南西壁際にかけて踏み固められている。壁溝は，北東コーナー部を除いて巡っている。上幅20～30cm，下幅６～12cm，深さ４～６cmで，断面形はU字形である。

竈　北壁のほぼ中央部を，壁外に64cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ106cm，両袖部の幅108cmである。火床部は円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

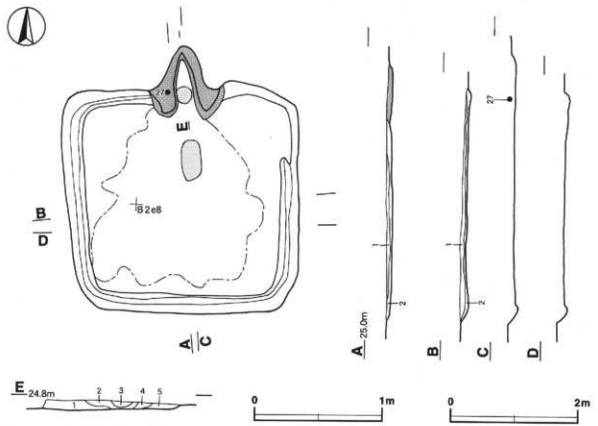
覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。焼土ブロックは，竈の覆土の可能性が高い。

土層解説

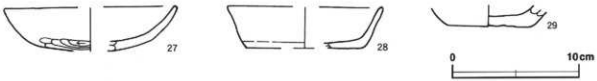
1　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　土師器片54点，須恵器片１点が出土している。第28図Ｐ27の土師器坏は竈西袖部内から，Ｐ28の土師器坏，Ｐ29の土師器甕はいずれも覆土中から出土している。竈前面の床面から，焼土塊が検出されている。

所見　竈の前面を中心に焼土塊が検出されており，焼失住居の可能性が高い。柱穴は，検出されていない。時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第27図　第10号住居跡実測図



第28図　第10号住居跡出土遺物実測図

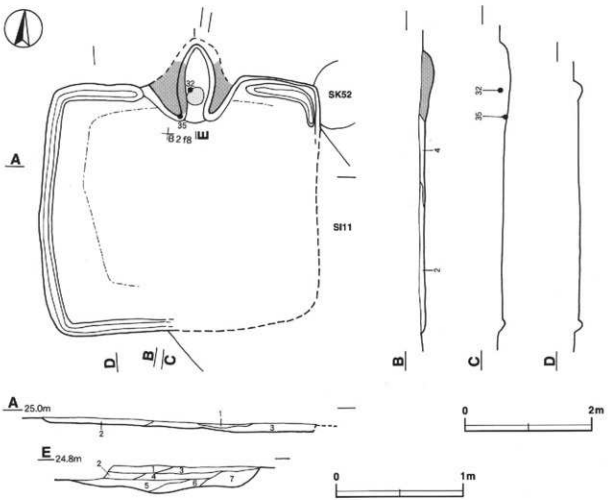
第10号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
27	土師器	坏	[13.8]	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤橙	普通	体部外面ヘラ削り	竈西袖部	PL24
28	土師器	坏	[12.6]	3.3	[9.4]	長石・赤色粒子	にぶい赤橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	
29	土師器	甕	－	(1.6)	6.4	長石・石英	橙	普通	底部外面に木葉痕	覆土中	

第12号住居跡（第29図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｆ７区。

重複関係　第52号土坑を掘り込んでいる。本跡の南東部は，第11号住居跡の覆土上に構築されている。



第29図　第12号住居跡実測図

規模と形状　確認できた長軸4.31m，短軸3.96mで，方形である。主軸方向は，N－4°－Wである。壁高は6～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。耕作による削平によって，遺存状態はよくない。

床　第11号住居跡と重複している部分を除いて，平坦で，中央部が踏み固められていると推定される。壁溝は，第11号住居跡と重複している部分を除いて巡っている。上幅20～30cm，下幅8～12cm，深さ8～12cmで，断面形は逆台形である。

竈　北壁の中央部を，壁外に70cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ128cm，両袖部の幅128cmである。火床部は，円形を呈し，床面を6cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，締まりあり
3　暗 赤 褐 色　砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，締まりあり
4　暗 赤 褐 色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック少量，締まりあり
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量，締まりあり
6　暗　褐　色　焼土粒子中量，粘性・締まりあり
7　黒　褐　色　焼土ブロック少量

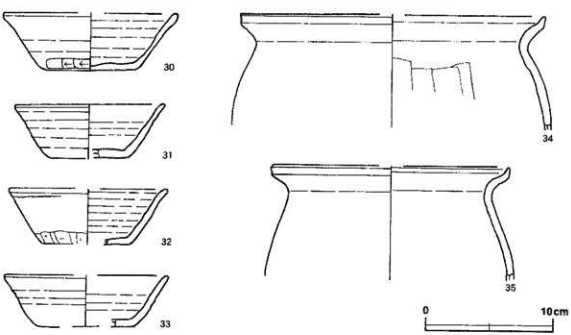
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量，締まりあり，粘性なし
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子多量
4　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子中量

遺物出土状況　土師器片126点，須恵器片58点，管状土錘1点が出土している。遺物は，竈の周辺から多量に出土しているが，破片が多く図示できるものは少なかった。第30図P32の須恵器坏は竈内の覆土中層から，P35の土師器甕は竈西袖部前面の床面から出土している。P30の須恵器坏，P31の須恵器坏，P33の須恵器坏，P34の土師器甕はいずれも覆土中から出土している。

所見　柱穴は，検出されなかった。時期は，出土遺物から9世紀前葉と思われる。



第30図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
30	須恵器	坏	(13.6)	4.6	7.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	PL24
31	須恵器	坏	12.2	4.2	(6.4)	長石・石英	黄灰	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	PL24
32	須恵器	坏	12.8	4.4	(7.0)	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り　底部に強いロクロ目	竈内覆土中層	
33	須恵器	坏	(13.2	4.1	(7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面に強いロクロ目	覆土中	
34	土師器	甕	24.4	(8.9)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁端部は外上方につまみ上げ	覆土中	
35	土師器	甕	(18.8	(8.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁端部は外上方につまみ上げ	竈右側袖近く	PL24

第15号住居跡（第31図）

位置　調査区域の北部，B２i７区。

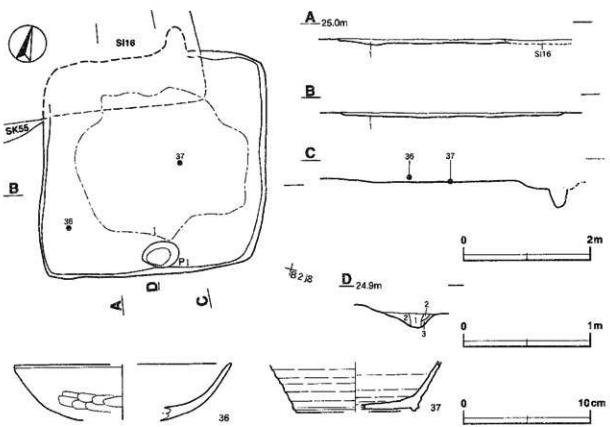
重複関係　北西部を第16号住居に掘り込まれ第55号土坑の南部を掘り込んでいる。北壁付近から焼土や粘土の散らばりが検出され，竈の存在が推定されたが，遺存状態が悪く規模や形状などは観察できなかった。

規模と形状　長軸3.55m，短軸3.50mの方形である。主軸方向は，N－14°－Wである。壁高は５～８cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。耕作によると思われる削平で，遺存状態はよくない。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　１か所。Ｐ１は深さ15cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

Ｐ１土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量，粘性・締まりなし
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量



第31図　第15号住居跡・出土遺物実測図

覆土　単一層からなる。ロームブロックや焼土を含んでおり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量，焼まりあり

遺物出土状況　出土遺物は少なく，土師器片3点，須恵器片1点だけである。第31図P36の土師器坏は南西部の覆土中層から，P37の須恵器高台付坏は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見　遺存状態が悪く，竈や柱穴，壁溝などは，検出されなかった。時期は，出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第15号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
36	土師器	坏	[17.2]	[4.4]	-	長石・石英	淡褐	普通	内・外面ナデ	南西部覆土中層	PL25
37	須恵器	高台付坏	-	[3.9]	[9.6]	石英	灰白	普通	底台は狭めで八の字状に開く	中央部床面	

第16号住居跡（第32図）

位置　調査区域の北部，B2i6区。

重複関係　第55・88・89号土坑を掘り込んでいる。また，第15号住居跡の北西部及び，北東コーナー部を第17号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　第55・88・89号土坑と重複しており，確認できた長軸4.26m，短軸3.69mで，長方形と推定される。主軸方向は，N－17°－Wである。壁高は18cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前面から西部にかけて踏み固められている。

ピット　4か所。P1～P4は深さ22～38cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。掘り込みは深くないが，掘り方はしっかりしている。

竈　北壁のほぼ中央部を，壁外に90cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部は残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ120cm，両袖部の幅100cmである。火床部は楕円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

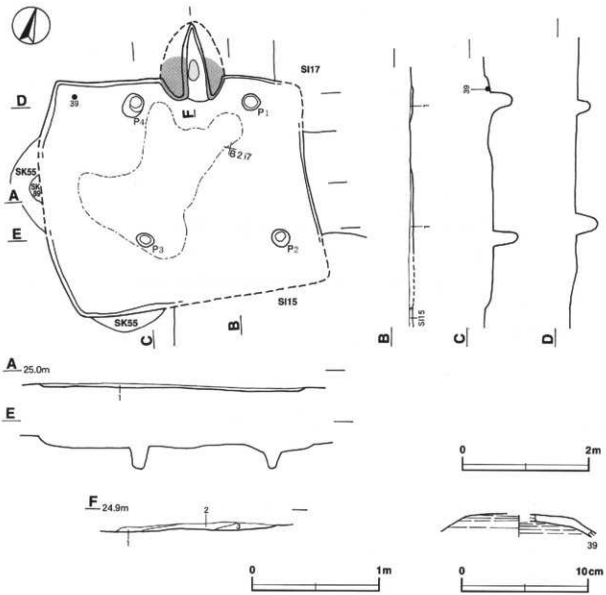
竈土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
2　暗赤灰色　炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
3　灰　赤　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，粘性あり

覆土　単一層である。層は薄いが，ロームブロックや焼土ブロックを含んでおり人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片44点，須恵器片19点が出土している。第32図P39の須恵器蓋は北西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土遺物から9世紀中葉と思われる。



第32図　第16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
39	須恵器	蓋	－	（1.7）	－	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	北西部覆土下層	

第17号住居跡（第33図）

位置　調査区域の北部，B2h7区。

重複関係　南西部を第16号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.31m，短軸4.22mの方形である。主軸方向は，N－19°－Wである。壁高は4～8cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。耕作による削平で，遺存状態はよくない。

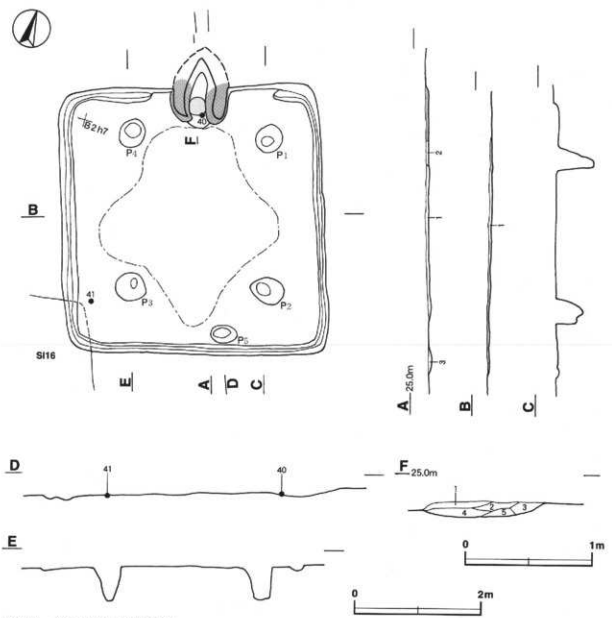
床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。竈の両袖部付近を除いて，壁溝が巡っている。上幅16～28cm，下幅４～10cm，深さ２～８cmで，断面形はU字形である。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ41～52cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。Ｐ５は深さ６cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁のほぼ中央部を，壁外に58cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ113cm，両袖部の幅96cmである。火床部は円形を呈し，床面を10cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は火熱を受けて赤変し，硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤灰色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒中量，炭化物・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，粘性あり
4　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物・粘土ブロック少量，粘性・締まりあり
5　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物・粘土ブロック少量，粘性あり



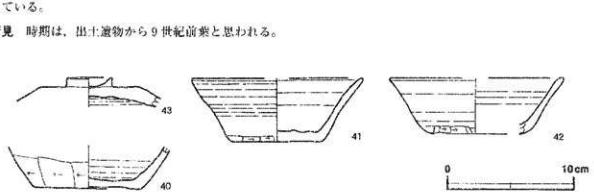
第33図　第17号住居跡実測図

覆土　3層からなる，ロームブロックや焼土ブロックなどを含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘性あり
2　明　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土少量，粘性・締まりあり
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片31点，須恵器片9点が出土している。第34図P40の土師器甕は竈の火床面から，P41の須恵器坏は南西コーナー部の床面から出土している。P42の須恵器坏とP43の須恵器壺は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から9世紀前葉と思われる。



第34図　第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
40	土師器	甕	－	（3.4）	8.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下位横方向のヘラ削り	竈火床面	
41	須恵器	坏	〔13.6〕	5.0	7.2	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	南西コーナー部	PL24
42	須恵器	坏	〔14.2〕	4.6	〔7.4〕	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	
43	須恵器	壺	－	（2.3）	－	長石・石英	灰	普通	天井部外面回転ヘラ削り	覆土中	

第21号住居跡（第35図）

位置　調査区域の中央部，C2d0区。

重複関係　第22号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.20m，短軸4.01mの方形である。主軸方向は，N－80°－Eである。壁高は4～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は，検出されなかった。

ピット　1か所。P1は深さ28cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

竈　東壁の中央部からやや南寄りを，壁外に52cmほど半円状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ124cm，両袖部の幅100cmである。火床部は円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

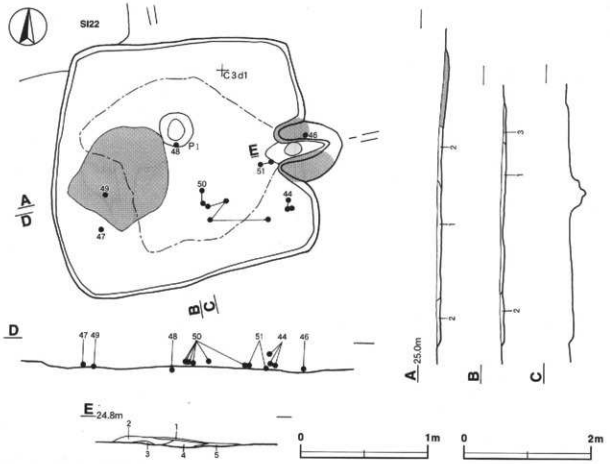
竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子中量，焼土ブロック・炭化材微量
2　黒　　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化材微量
3　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・砂質粘土少量，炭化材微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

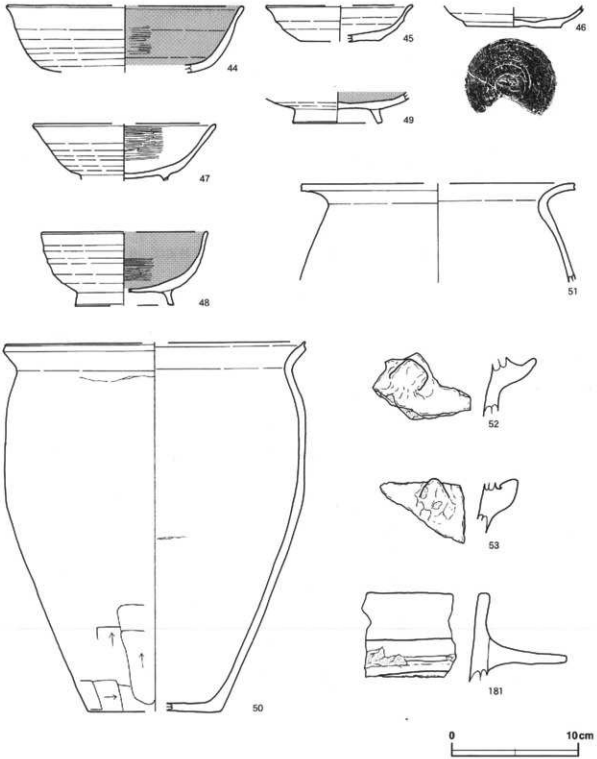
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土少量

遺物出土状況　土師器片300点が，竈の前面と東部の覆土下層から出土している。この他，炭化材が検出されている。第35図Ｐ44の土師器坏は南東部の覆土上層と下層から出土した。Ｐ46の土師器坏は竈内の覆土下層から，Ｐ47の土師器椀は南西部の覆土下層から，Ｐ48の土師器椀はＰ１南側の床面から，Ｐ49の土師器椀は西部の床面からそれぞれ出土している。Ｐ50の土師器甕は中央部と南東部の覆土中層から，Ｐ51の土師器甕は竈前面の覆土下層から出土した。Ｐ45・52・53の土師器甑及びＰ181の羽釜は，覆土中から出土している。西部の床面から粘土塊が多量に検出されている。

所見　粘土塊が西部の床面から出土しているが，性格などは不明である。時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第35図　第21号住居跡実測図



第36図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
44	土師器	坏	[16.8]	(5.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	PL25
45	土師器	坏	[11.5]	2.9	6.1	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	
46	土師器	坏	-	(1.7)	7.4	長石・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	竈内覆土下層	
47	土師器	椀	[14.6]	(4.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	竈西部覆土下層	PL25
48	土師器	鉢	[13.4]	5.8	[7.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ削り後指ナデ調整 口縁ヨコナデ	P1埋土中	PL25
49	土師器	甕	-	(2.5)	7.2	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部ヘラ削り後指ナデ調整 口縁ヨコナデ	西部床面	
50	土師器	甕	[24.0]	29.3	10.6	長石・石英	にぶい橙	普通	平位置方向ヘラ磨 平位磨方向のヘラ削り	竈袖部覆土下層	PL25
51	土師器	甕	[11.8]	(7.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部は強く外反する	竈袖部覆土下層	PL25
52	土師器	甑	-	(5.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面に把手貼り付け	覆土中	
53	土師器	甑	-	(5.1)	-	長石・長石・赤色粒子	灰褐	普通	外面に把手貼り付け	覆土中	
181	土師器	羽釜		(7.0)		長石・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面上位に鍔貼り付け	覆土中	PL25

第22号住居跡（第37図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｃ９区。

重複関係　南東コーナー部の一部が，第21号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.80m，短軸4.51mの方形である。主軸方向は，Ｎ－13°－Ｗである。壁高は4～6cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。上部が耕作によって削平されており，遺存状態はよくない。

床　平坦で，中央部から南壁際にかけて踏み固められている。壁溝は，北壁の一部とＰ１の南側を除いて巡っている。上幅16～35cm，下幅5～15cm，深さ7cmで，断面形はＵ字形である。壁溝は，他の住居跡に比べて幅が大きい。

ピット　１か所。Ｐ１は深さ22cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁の中央部を，壁外に56cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ80cm，両袖部の幅80cmである。火床部は円形を呈し，床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，粘まりあり
5　暗　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物微量

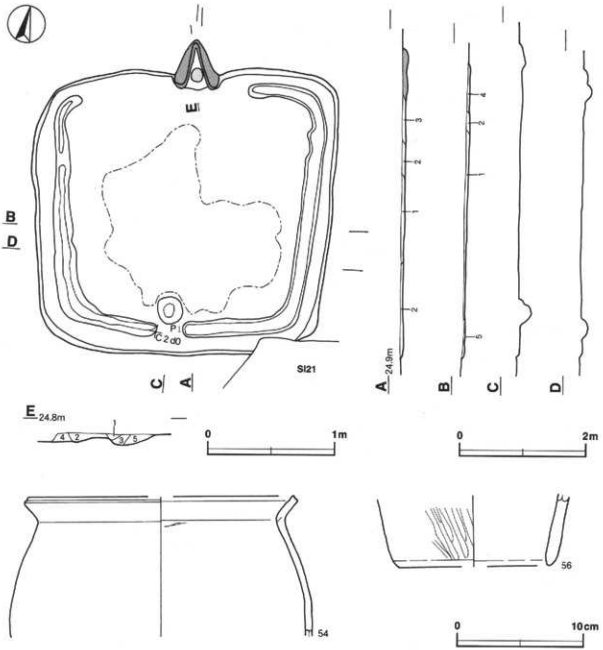
覆土　５層からなる。ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片121点が出土している。第37図Ｐ54の甕，Ｐ56の甑はいずれも覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から９世紀末葉と思われる。



第37図　第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
54	土師器	甕	[21.2]	(11.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁端部はわずかにつまみ上げ 内面横撫み底	覆土中	PL25
56	土師器	甑	－	(5.6)	[12.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	無底式　縦方向のヘラ磨き	覆土中	

第23号住居跡（第38図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｅ５区。

確認状況　西部が調査区域外となっているため，全体は検出できなかった。耕作のための削平によって，覆土は薄い。

規模と形状　確認できた長軸3.28m，短軸2.72mで，長方形と推定される。主軸方向は，Ｎ－90°－Ｅである。壁高は覆土が薄く，観察できなかった。

床　平坦である。竈前面とＰ１周辺で，踏み固められた部分が検出された。

ピット　１か所。Ｐ１は深さ12cmで，主柱穴と思われる。

竈　東壁のほぼ中央部を，壁外に40cmほど三角形状に掘り込み，構築されている。しかし，覆土が薄く，範囲を確認しただけである。土層は，観察できなかった。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。火床面は，火熱を受けてやや赤変している程度である。煙道は，立ち上がりなど不明である。

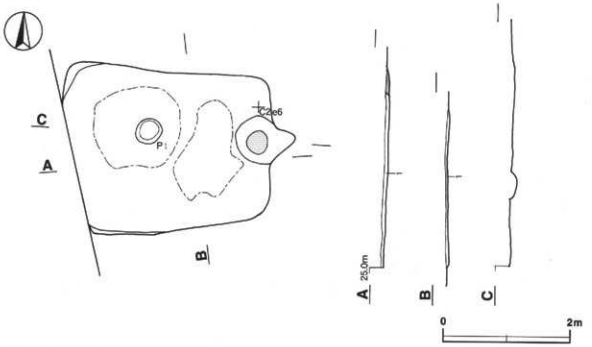
覆土　単一層である。覆土が薄く，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片６点，須恵器片１点のほか，鉄滓６点が出土している。遺物は，破片が多く図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第38図　第23号住居跡実測図

第24号住居跡（第39図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｆ６区。

重複関係　第８号掘立柱建物跡のＰ７を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.32ｍ，短軸2.75ｍの長方形である。主軸方向は，Ｎ－２°－Ｅである。壁高は10～16cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。竈の両袖部の外側に，南北幅0.3ｍ，東西幅１ｍほどの床面より一段高い平坦面が検出された。棚状施設の可能性が考えられる。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は，検出されなかった。

竈　北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に50cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ72cm，両袖部の幅60cmである。火床部は円形を呈し，床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は火熱を受けて赤変し，硬化している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・砂質粘土少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・砂質粘土少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土少量

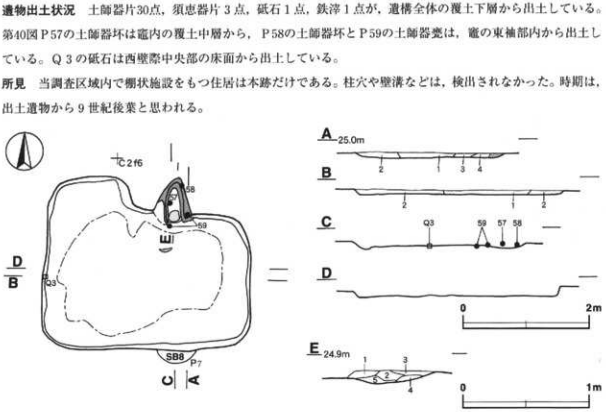
覆土　４層からなる。ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子を含み，ブロック状の堆積状況がみられることから，人為堆積と思われる。

土層解説

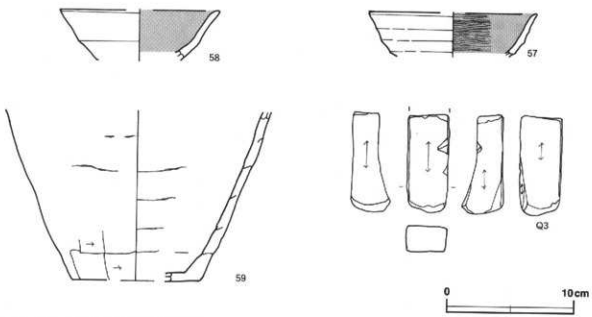
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子多量，ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片30点，須恵器片３点，砥石１点，鉄滓１点が，遺構全体の覆土下層から出土している。第40図Ｐ57の土師器坏は竈内の覆土中層から，Ｐ58の土師器坏とＰ59の土師器甕は，竈の東袖部内から出土している。Ｑ３の砥石は西壁際中央部の床面から出土している。

所見　当調査区域内で棚状施設をもつ住居は本跡だけである。柱穴や壁溝などは，検出されなかった。時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第39図　第24号住居跡実測図



第40図　第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
57	土師器	坏	[13.6]	(3.4)	－	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	竈内覆土中層	
58	土師器	坏	[12.8]	(4.0)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	内面ヘラ磨き	竈東袖部内	
59	土師器	甕	－	[13.4]	[10.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部下位東方向のヘラ削り 内面に輪積み痕	竈東袖部内	

番号	器種	計測値 長さ	計測値 幅	計測値 厚さ	計測値 重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	紡錘石	(7.8)	3.3	3.2	(107.1)	凝灰岩	断面長方形　紡面4面	西壁際中央部床面	PL32

第26号住居跡（第41図）

位置　調査区域の中央部，C２e9区。

重複関係　第27号住居跡の北部及び第28号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.34m，短軸3.12mの長方形である。主軸方向は，N－91°－Eである。壁高は5～8cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　床は平坦である。本跡では竈が2基検出され，それぞれの竈の前面から中央部にかけて，踏み固められている。南壁と西壁の一部で壁溝が検出された。上幅14～24cm，下幅6～12cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

竈　2基検出されている。竈Aは，北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に70cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ86cm，両袖部の幅64cmである。火床部は楕円形を呈し，床面を5cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈A土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘性・締まりあり
4　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量

竈Bは，東壁の中央部からやや南寄りを，壁外に16cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部も一部が残るだけである。焚口部から煙道部までの長さ70cm，両袖部の幅58cmである。火床部は楕円形を呈し，床面をわずかに掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。竈Bは，遺存状態が悪く土層の観察はできなかった。

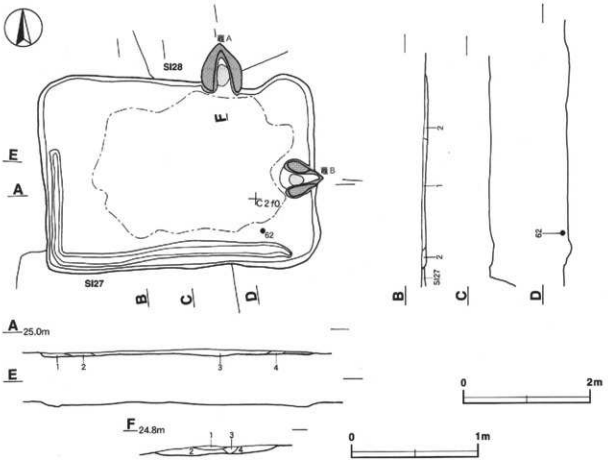
覆土　4層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説

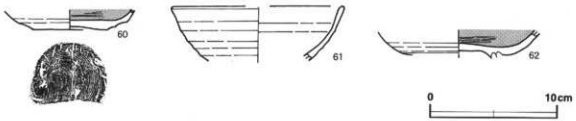
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘性なし
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック多量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片65点，須恵器片1点が出土している。第42図P62の土師器椀は，南東部の覆土下層から出土している。P60・61の土師器坏は，覆土中から出土している。

所見　竈が2基検出されているが，時期差など不明な点が多い。柱穴は，検出されなかった。時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第41図　第26号住居跡実測図



第42図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
60	土師器	坏	－	（1.5）	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り　内面ヘラ磨き	覆土中	
61	土師器	坏	[13.8]	（4.2）	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面に強いロクロ目	覆土中	
62	土師器	椀	－	（2.3）	－	雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	電部回転ヘラ切り後，高台貼り付け　内面ヘラ磨き	南東部覆土下層	

第27号住居跡（第43図）

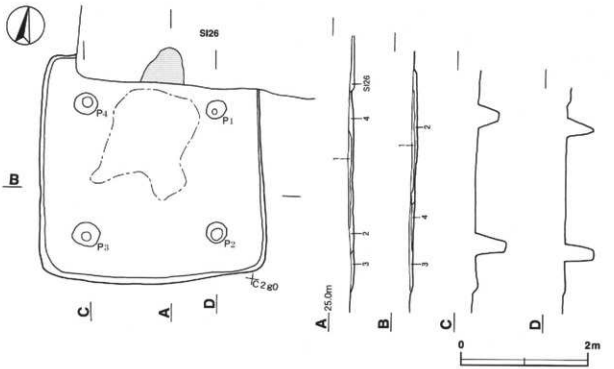
位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｆ９区。

重複関係　北部が，第26号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.55m，短軸3.50mの方形である。主軸方向は，Ｎ－７°－Ｗである。壁高は３～７cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部から北部にかけて踏み固められている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ34～58cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。柱穴の掘り方は深い。



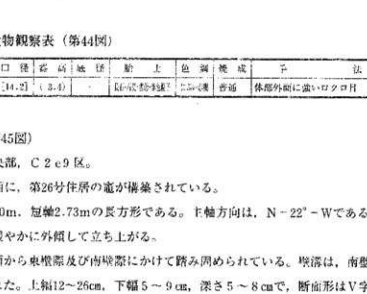
第43図　第27号住居跡実測図

覆土　4層からなる。ロームブロックや焼土などを含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・砂粒少量，締まりあり
2　黒　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
3　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子多量，粘土粒子微量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　土師器片20点，須恵器片1点が出土しているが，ほとんどが破片で，図示できたのは1点だけである。第44図P63の土師器坏は，覆土中から出土している。北壁付近に焼土の散らばりが検出され，この位置に竈があった可能性が高い。

所見　本跡の竈は，第26号住居に掘り込まれているため，明瞭に検出できなかった。時期は，出土遺物と第26号住居との重複関係から9世紀後葉と推定される。



第44図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
63	土師器	坏	(14.2)	(3.4)	-	長石・石英・多量	2.5YR橙	普通	体部外面に強いロクロ目	覆土中	

第28号住居跡（第45図）

位置　調査区域の中央部，C 2 e 9 区。

重複関係　南部の床面に，第26号住居の竈が構築されている。

規模と形状　長軸3.10m，短軸2.73mの長方形である。主軸方向は，N－22°－Wである。覆土は薄く，壁高は5～10cmで，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈の前面から東壁際及び南壁際にかけて踏み固められている。壁溝は，南壁から北西コーナー部壁際にかけて検出された。上幅12～26cm，下幅5～9cm，深さ5～8cmで，断面形はV字形である。

ピット　1か所。P 1は深さ13cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に34cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ88cm，両袖部の幅100cmである。火床部は円形を呈し，床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてわずかに赤変している程度である。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　褐暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック中量，炭化粒子微量，粘性なし
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘性なし
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック多量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ロームブロック少量，粘性なし
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，炭化物微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，粘性あり
7　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，粘性あり
8　暗　褐　色　粘土ブロック多量

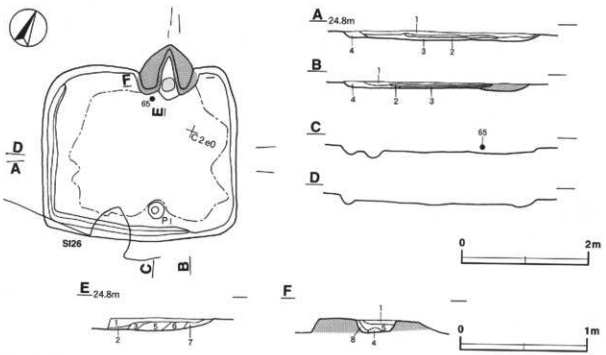
覆土　4層からなる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説

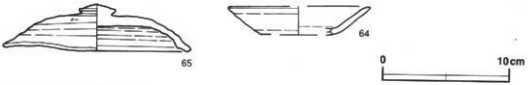
1　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量，粘性あり
3　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片24点，須恵器131点，土製支脚２点が，竈の前面を中心に出土している。第46図Ｐ64の土師器坏は覆土中から，Ｐ65の須恵器蓋は竈前面の覆土中層から出土している。

所見　柱穴は検出されていない。時期は，出土遺物から８世紀前葉と思われる。



第45図　第28号住居跡実測図



第46図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
64	土師器	坏	[11.4]	2.3	[5.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	覆土中	
65	須恵器	蓋	15.0	3.7	－	長石・石英・雲母	黄灰	良好	内面に指頭圧痕	竈前面覆土中層	PL25

第29号住居跡（第47図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ３ｆ２区。

規模と形状　北部と東部が耕作によって削平されており，壁の立ち上がりは明確に検出できなかった。南北軸3.72m，東西軸2.90mで，長方形と推定される。竈はわずかに残った焼土などから，位置を推定した。竈は，２基あった可能性が高い。主軸方向は，Ｎ－９°－Ｗである。壁高は２～３cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦である。踏み固められた部分は，検出されなかった。西壁際で，壁溝が検出された。上幅14～20cm，下幅８～12cm，深さ６cmで，断面形はＵ字形である。

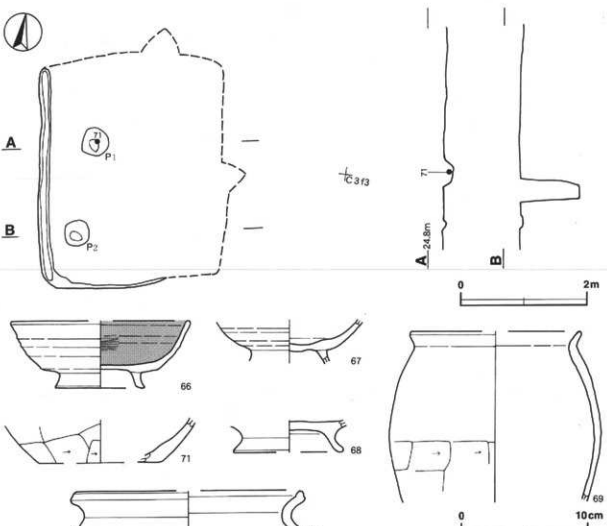
ピット　２か所。Ｐ１は深さ24cm，Ｐ２は深さ92cmで，両方とも柱穴と思われるが，Ｐ２は深く，掘り方もしっかりしている。

竈　北壁と東壁付近で焼土の散らばりが検出され，竈の位置を推定したが，土層などは観察できなかった。

覆土　極端に薄く，土層の観察はできなかった。

遺物出土状況　遺構全体の遺存状態が悪く，土師器片12点が出土しているだけである。第47図Ｐ71の甕はＰ１の覆土中から出土している。Ｐ66・67・68の椀，Ｐ69・70の甕はいずれも覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第47図　第29号住居跡・出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
66	土師器	椀	[14.4]	5.3	7.2	石英・雲母・赤色粒子	淡橙	普通	底部ヘラ削り後、高台貼り付け 口縁ヨコナデ	覆土中	PL25
67	土師器	椀	－	(3.3)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	
68	土師器	椀	－	(2.5)	[8.8]	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	
69	土師器	甕	[13.4]	(13.5)	－	長石・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	体部下位横方向のヘラ削り	覆土中	PL26
70	土師器	甕	[18.0]	(3.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部は折くつろげ上げ	覆土中	
71	土師器	甕	－	(3.4)	[9.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下位は縦方向のヘラ削り	P1覆土中	

第31号住居跡（第48図）

位置　調査区域の中央部，C3g1区。

規模と形状　長軸2.73m，短軸2.68mの方形である。主軸方向は，N－31°－Wである。壁高は3～7cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前面から南壁際にかけて踏み固められている。

貯蔵穴　南東コーナーからやや西寄りに付設され，長径46cm，短径42cmの不整円形で，深さは17cm，断面形はU字形である。貯蔵穴の長径方向は，主軸方向とほぼ直交する。

貯蔵穴土層解説

1　黒赤褐色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ローム ブロック多量，焼土ブロック微量

竈　北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に70cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ126cm，両袖部の幅116cmである。火床部は楕円形を呈し，床面と同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子多量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量，締まりあり
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック多量
5　黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック多量，粘性・締まりあり
6　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック中量
7　黒褐色　ローム ブロック・焼土粒子少量，粘性・締まりあり
8　黒褐色　ローム ブロック多量，焼土粒子・粘土ブロック少量，粘性・締まりあり
9　赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ローム粒子少量
10　赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量

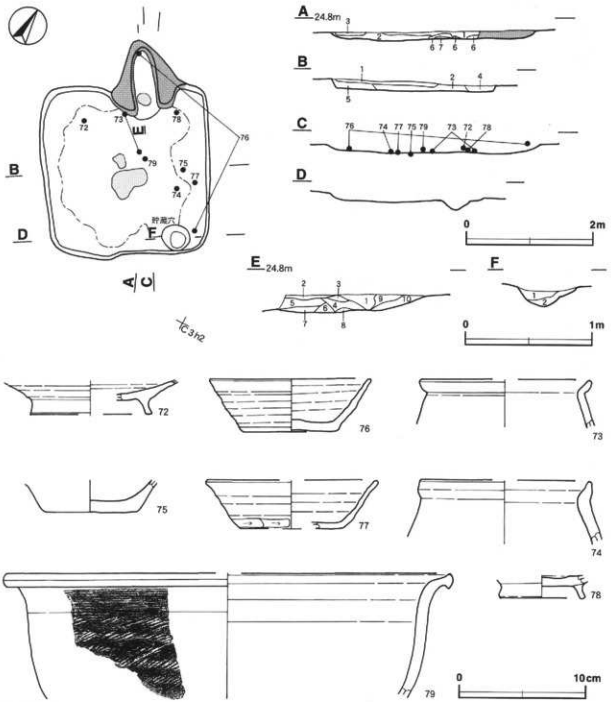
覆土　7層からなる。ローム ブロック・焼土ブロックを含み，ブロック状の堆積状況がみられることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム ブロック中量
3　暗褐色　ローム ブロック中量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　にぶい橙色　粘土ブロック多量，ローム粒子多量，粘性・締まりあり
7　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片107点，須恵器片13点が，竈前面から東壁際にかけて出土している。第48図P72の土師器椀は西部の覆土中層から，P74の土師器甕は東部の覆土下層から，P75の土師器甕とP77の須恵器坏は東部の床面から出土している。P73の土師器甕は中央部と竈前面の床面から出土した。P76の須恵器坏は竈内の覆土下層と東コーナー部の覆土中層から出土している。P78の須恵器高台付坏は竈東袖部前面の覆土下層から，P79の須恵器甕は，中央部の覆土下層から出土している。中央部の２か所で焼土塊が検出されているが，性格などは不明である。

所見　本跡からは柱穴，壁溝などは検出されていない。時期は，出土遺物から９世紀前葉と思われる。



第48図　第31号住居跡・出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
72	土師器	椀	－	（2.7）	[9.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	西部覆土中層	
73	土師器	甕	[13.4]	（3.7）	－	石英・長石・赤色粒	明赤褐	普通	口縁部は短くくの字状に外反する	全体に覆土下層	
74	土師器	甕	[13.8]	（5.0）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部はつまみ上げ	東部覆土下層	
75	土師器	甕	－	（7.5）	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端横方向のヘラ削り	東部床面	
76	須恵器	坏	12.7	4.1	7.5	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り 底部にヘラ記号	西壁下一帯	P1.26
77	須恵器	坏	[13.6]	3.9	[8.2]	長石	褐灰	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	東部床面	
78	須恵器	高台付坏	－	（1.9）	6.8	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	東部覆土中層	
79	須恵器	甕	[35.2]	（9.5）	－	長石・石英	灰	普通	体部外面に斜め方向のタタキ	中央部覆土下層	

第32号住居跡（第49図）

位置 調査区域の中央部，C2g0区。

規模と形状 長軸4.39m，短軸3.22mの長方形である。主軸方向は，N－4°－Wである。壁高は3～9cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床 平坦で，竈前面と北東コーナー部を中心に踏み固められている。西壁から東方向に向かって，溝が南北2条並んで構築されている。北側の溝は上幅24～26cm，下幅6～10cm，深さ3cm，長さ86cmほどで，断面形がU字形である。南側の溝は，上幅18～24cm，下幅6～8cm，深さ4cm，長さ244cmほどで，断面形がU字形である。竈周辺と西壁を除いて壁溝が検出された。上幅16～24cm，下幅4～12cm，深さ4～10cmで，断面形はU字形である。

竈 北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に54cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ86cm，両袖部の幅76cmである。火床部は，楕円形を呈し，床面と同じレベルの平坦面を呈している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している程度である。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

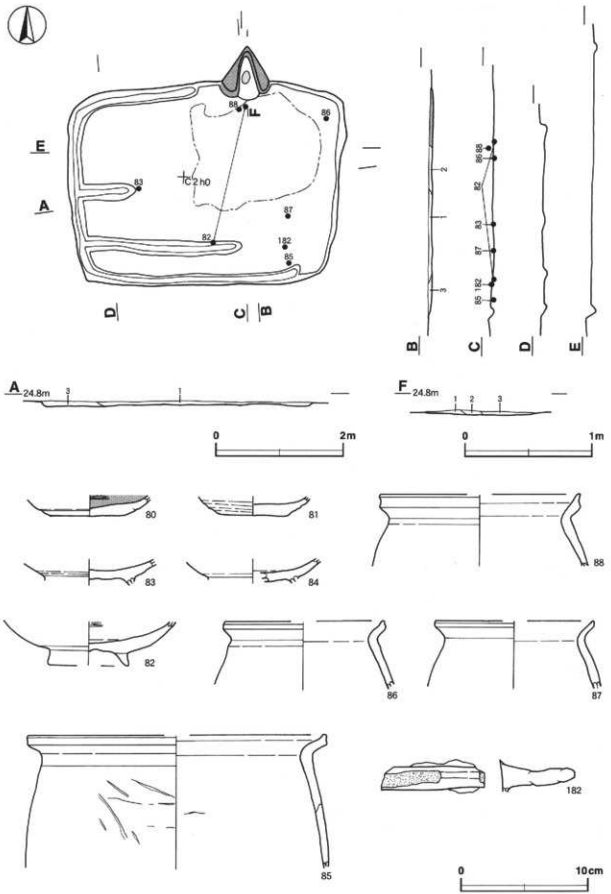
竈土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 にぶい褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子少量

覆土 3層からなる。ロームブロック・焼土ブロックなどを含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片90点が，竈前面から南東コーナー部を中心に出土している。第49図P82の椀は竈前面と南部の床面から，P83の椀は西部の床面から，P85の甕とP182の羽釜は南東部の床面からそれぞれ出土している。P86の甕は北東コーナー部の床面から，P87の甕は南東部の覆土下層から，P88の甕は竈前面の覆土中層からそれぞれ出土している。P80・81の坏，P84の椀はいずれも覆土中から出土している。

所見 本跡では，西壁から東方向に向かって溝が2本構築されている。柱穴などは，検出されなかった。時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第49図　第32号住居跡・出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
80	土師器	坏	－	（1.6）	6.1	石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	底部外面に粘土貼り付け	覆土中	
81	土師器	坏	－	（1.6）	5.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	
82	土師器	椀	－	（3.6）	6.4	石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部ヨコナデ　底部ヘラ削り　高台貼り付け	竈脇土師器集中	PL26
83	土師器	椀	－	（2.2）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	西部床面	
84	土師器	椀	－	（2.0）	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	
85	土師器	壺	（23.8）	（10.6）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部ヨコナデ　胴部縦ヘラ磨き	南東部床面	PL26
86	土師器	甕	（12.6）	（5.4）	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部はつまみ上げ	北コーナー部	PL26
87	土師器	甕	（12.6）	（5.3）	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部はわずかにつまみ上げ	竈脇覆土中	PL26
88	土師器	甕	（16.0）	（5.7）	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部は外上方につまみ上げ	竈脇覆土中	PL26
182	土師器	羽釜	－	（2.7）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	内・外面ナデ	南東部床面	

第33号住居跡（第50図）

位置　調査区域の中央部、C 2 j7区。

重複関係　第34号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.10m、短軸3.48mの長方形である。主軸方向は、N－93°－Eである。壁高は5～7cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で、竈前面から西壁際にかけて踏み固められている。

ピット　2か所。P 1・P 2は深さ11～13cmで、配置や規模から柱穴と思われる。

貯蔵穴　南西コーナー部に付設され、長径70cm、短径50cmの不整楕円形で、深さ19cm。断面形はU字形である。貯蔵穴の長径方向は、住居跡の主軸方向とほぼ直交する。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子多量、焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量

竈　東壁の中央部からやや南寄りを、壁外に48cmほど三角形状に掘り込み、砂混じりの砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ84cm、両袖部の幅65cmである。火床部は楕円形を呈し、床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は火熱を受けてやや赤変している程度で、長く使用したとは考えられない。煙道は、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

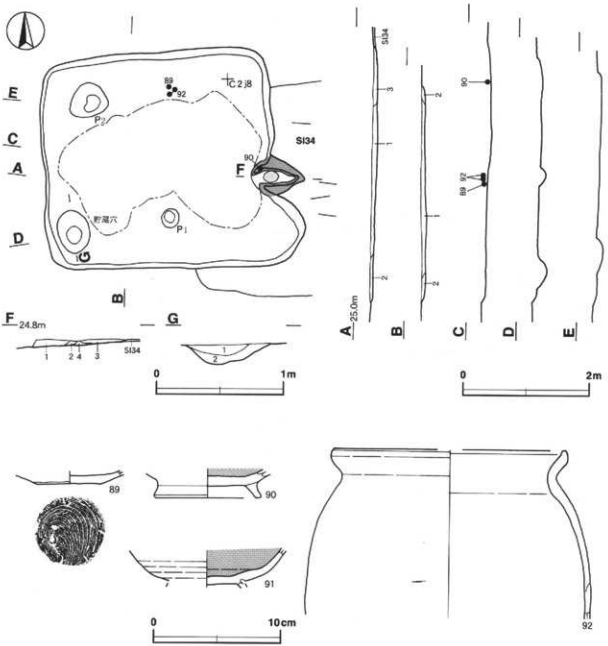
覆土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量、焼土ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック多量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック多量、粘性あり
4　暗赤褐色　ローム粒子多量、焼土ブロック中量、粘性・締まりあり

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量、焼土ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量、ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片106点が、出土している。第50図P 89の坏とP 92の甕は北部の覆土中層から、P 90の椀は竈の袖部内から、P 91の椀は覆土中から出土している。

所見　P 1・P 2は掘り込みが浅く、大きさも異なるが柱穴とした。時期は、出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第50図　第33号住居跡・出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
89	土師器	坏	－	(1.0)	5.2	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北部覆土中層	PL26
90	土師器	椀	－	(2.3)	8.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，内面ヘラ磨き	竈袖部内	
91	土師器	椀	－	(3.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	覆土中	
92	土師器	甕	[18.6]	(13.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁端部は上方につまみ上げ	北部覆土中層	PL26

第34号住居跡（第51図）

位置　調査区域の中央部，C２j８区。

重複関係　西部が，第33号住居に掘り込まれている。

規模と形状　西部が第33号住居に掘り込まれていることから，確認できた長軸3.38m，短軸3.30mで方形と推定される。主軸方向は，N－94°－Eである。壁高は４～５cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　確認できた範囲では，竈の前面だけが踏み固められている。

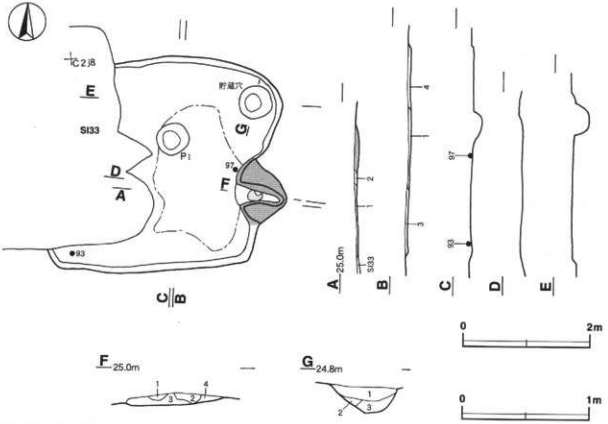
ピット　１か所。Ｐ１は深さ15cmで，配置や規模から柱穴と思われる。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設され，径52cmの不整円形で，深さは25cm，断面形はU字形である。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

竈　東壁の中央部からやや南寄りを，壁外に50cmほど半円状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ80cm，両袖部の幅110cmである。火床部は円形を呈し，床面をわずかに掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，締まりなし
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，砂粒少量，締まりなし
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化材微量，粘性・締まりなし
4　暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土ブロック少量，粘性なし



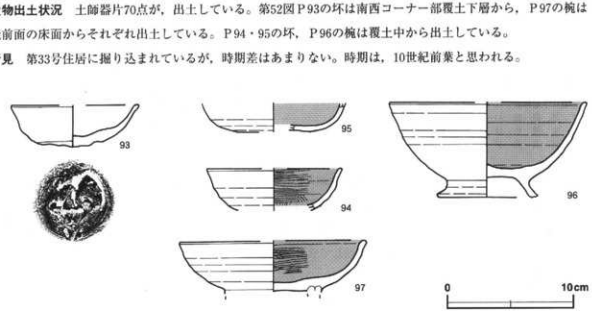
第51図　第34号住居跡実測図

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　粘土ブロック中量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片70点が，出土している。第52図P93の坏は南西コーナー部覆土下層から，P97の椀は竈前面の床面からそれぞれ出土している。P94・95の坏，P96の椀は覆土中から出土している。

所見　第33号住居に掘り込まれているが，時期差はあまりない。時期は，10世紀前葉と思われる。



第52図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
93	土師器	坏	[10.0]	3.4	5.7	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部に粘土貼り付け	南西コーナー覆土下層	PL26
94	土師器	坏	[10.8]	(3.3)	－	石英・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き　体部外面に強いロクロ目	覆土中	PL26
95	土師器	坏	－	(2.3)	[5.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	
96	土師器	椀	[15.8]	7.6	8.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　内面ヘラ磨き	竈内覆土中	PL26
97	土師器	椀	[15.0]	(4.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け　内面ヘラ磨き	竈前面床面	PL26

第36号住居跡（第53図）

位置　調査区域の中央部，D3a2区。

規模と形状　長軸3.23m，短軸2.68mの長方形である。主軸方向は，N－17°－Wである。壁高は5～8cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前面から東西南北の壁際にかけて踏み固められている。壁溝は，全周する。上幅10～24cm，下幅2～8cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

ピット　1か所。P1は深さ10cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に46cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ96cm，両袖部の幅102cmである。火床部は円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から外傾して立ち上がる。

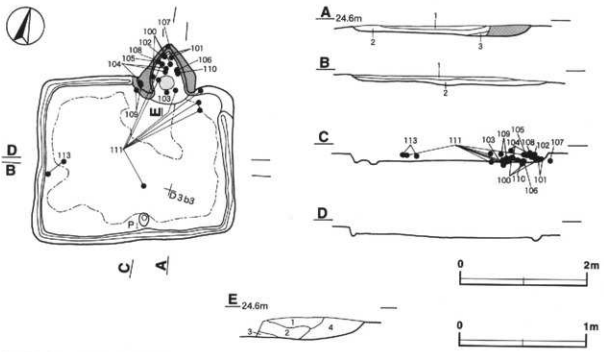
竈土層解説
1 黒　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
2 黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3 暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量
4 暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

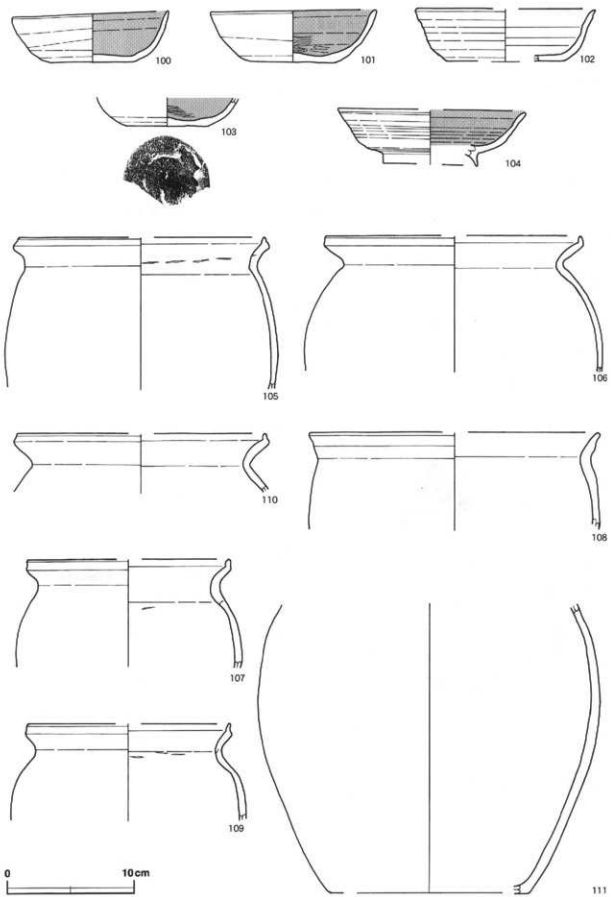
土層解説
1 黒　　色　ロームブロック少量
2 黒　　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
3 極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片168点，須恵器片7点が，竈内と竈袖部周辺を中心に出土している。第54・55図P100・P101の土師器坏は竈内の覆土下層から，P102の土師器坏とP105の土師器甕は竈内の覆土上層からそれぞれ出土している。P103の土師器坏，P106・P110の土師器甕は竈の底面から出土している。P104の土師器椀とP109の土師器甕は，竈西袖部西側の覆土上層から出土している。P107の土師器甕は竈煙道部底面から，P108の土師器甕は竈内の覆土上層からそれぞれ出土している。P111の土師器甕は竈内と竈東袖部前面及び南部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。P113の須恵器盤は西壁際の覆土上層から出土している。P112の土師器甑とP114の須恵器蓋は覆土中から出土している。

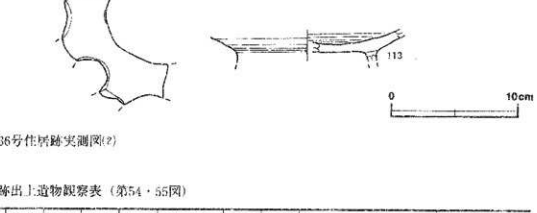
所見　本跡は，当調査区域内では遺物の出土量が多い住居跡で，特に竈内から多く出土している。時期は，出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第53図　第36号住居跡実測図



第54図　第36号住居跡実測図(1)



第55図　第36号住居跡実測図(2)

第36号住居跡出土遺物観察表（第54・55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
100	土師器	坏	12.6	4.6	6.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土下層	PL27
101	土師器	坏	13.2	4.3	6.2	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	覆土下層	PL27
102	土師器	坏	14.4	4.2	[9.4]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面に強いロクロ目	覆土下層	
103	土師器	坏	—	(2.3)	[5.4]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り　内面ヘラ磨き	覆底面	
104	土師器	椀	15.1	4.3	[7.4]	長石・雲母・赤色粒子	明褐灰	普通	体部外面に強いロクロ目	覆土中層	PL27
105	土師器	甕	[19.8]	(12.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁端部は上方につまみ上げ	覆土中上層	PL27
106	土師器	甕	[20.6]	(10.7)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁端部は上方につまみ上げ	覆底面	PL27
107	土師器	甕	16.2	(8.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁端部は外上方につまみ上げ	覆底面	
108	土師器	甕	[23.0]	(7.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁端部は外上方につまみ上げ	覆内覆土上層	
109	土師器	甕	[16.2]	(7.6)	—	長石	橙	普通	口縁端部は外上方につまみ上げ	覆内覆土中層	PL27
110	土師器	甕	[19.8]	(4.7)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁端部は上方につまみ上げ	覆底面	
111	土師器	甕	—	(22.0)	[15.8]	長石・石英	淡黄	普通	体部下位横方向のヘラ削り	覆内覆土下層	PL27
112	土師器	鉢	—	(0.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	多孔式	覆土中	PL27
113	須恵器	壺	—	(2.6)	—	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	内覆覆土下層	
114	須恵器	蓋	—	(1.7)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通		覆土中	

第37号住居跡（第56図）

位置　調査区域の南部，C 2 f 9 区。

重複関係　北西部が，第132号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.72m，短軸2.59mの方形である。主軸方向は，N－90°－Eである。壁高は4～10cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められているが，範囲は狭い。南東コーナー部で壁溝が検出された。上幅8～14cm，下幅2～5cm，深さ4cmで，断面形はU字形である。

ピット　1か所。P 1は深さ7cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　東壁の中央部からやや南寄りを，壁外に54cmほど半円状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ84cm，両袖部の幅76cmである。火床部は楕円形を呈し，床面を8cmほど掘りくぼめて使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘性・締まりなし
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量，粘性・締まりなし

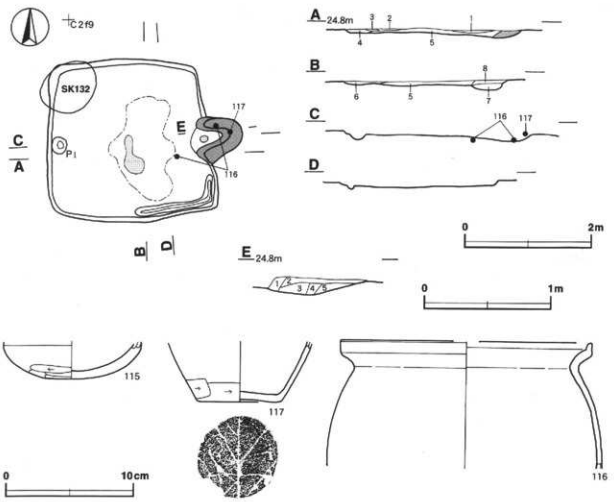
覆土　8層からなる。ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含み，ブロック状の堆積状況がみられることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量，粘性・締まりなし
2　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量，粘性・締まりなし
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物多量，ローム粒子少量，粘性なし
6　黒　　色　ロームブロック中量，ローム粒子少量
7　黒　　色　ローム粒子多量，ロームブロック・焼土粒子少量
8　黒　　色　ローム粒子多量，ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片26点が出土している。第56図P116の甕は竈内の覆土下層と竈前面の床面から，P117の甕は竈内の覆土中層から出土した。P115の坏は覆土中から出土している。床の中央部から焼土塊が検出されたが，性格等は不明である。

所見　本跡は，出土遺物や遺構から10世紀前葉と思われる。



第56図　第37号住居跡・出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
115	土師器	坏	－	（3.0）	－	長石・石英	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	
116	土師器	甕	［20.0］	（10.0）	－	長石・石英	橙	普通	口縁端部は上方につまみ上げ	動物屋上下層と覆土	
117	土師器	甕	－	（4.8）	6.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部下端横方向のヘラ削り	竈内覆土中層	

第41号住居跡（第57図）

位置　調査区域の南部，D３ｊ2区。

重複関係　東部を，第138号土坑に掘り込まれている。

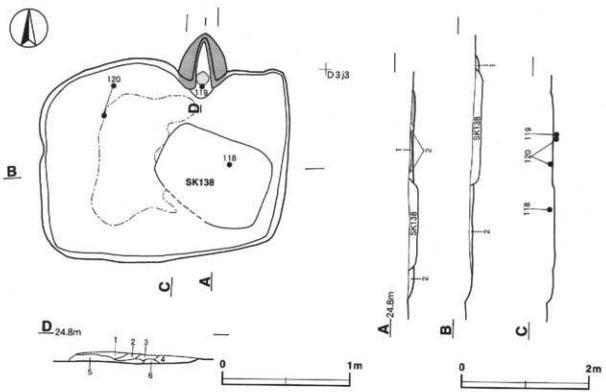
規模と形状　長軸3.95m，短軸3.25mの長方形である。主軸方向は，N－2°－Eである。壁高は5～8cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦である。第138号土坑に掘り込まれているが，中央部は踏み固められていたと推定される。壁溝は，検出されなかった。

竈　北壁の中央部からやや東寄りを，壁外に56cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ102cm，両袖部の幅80cmである。火床部は円形を呈し，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量，締まりあり
2　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子多量，炭化粒子中量，粘性なし
4　灰　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
5　灰　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック中量
6　暗赤褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック少量，粘性・締まりあり



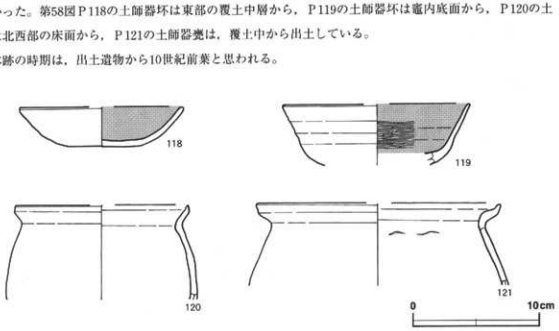
第57図　第41号住居跡実測図

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片32点，須恵器片14点が竈の周辺から中央部にかけて出土しているが，図示できるものは少なかった。第58図Ｐ118の土師器坏は東部の覆土中層から，Ｐ119の土師器坏は竈内底面から，Ｐ120の土師器甕は北西部の床面から，Ｐ121の土師器甕は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第58図　第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
118	土師器	坏	〔12.9〕	3.1	5.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	東部覆土中層	
119	土師器	坏	〔14.8〕	（4.8）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き	竈底面	
120	土師器	甕	〔13.8〕	（7.3）	－	長石・雲母	橙	普通	口縁端部は上方につまみ上げ	北西部床面	
121	土師器	甕	〔19.4〕	（6.4）	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁端部は外上方につまみ上げ	覆土中	

第44号住居跡（第59図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３b1区。

規模と形状　長軸3.13m，短軸2.92mの方形である。主軸方向は，Ｎ－90°－Ｅである。壁高は２～４cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。上部が耕作のための削平により，遺存状態はよくない。

床　平坦で，竈の前面だけが踏み固められている。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ16～48cmで，配置や規模から柱穴と思われる。

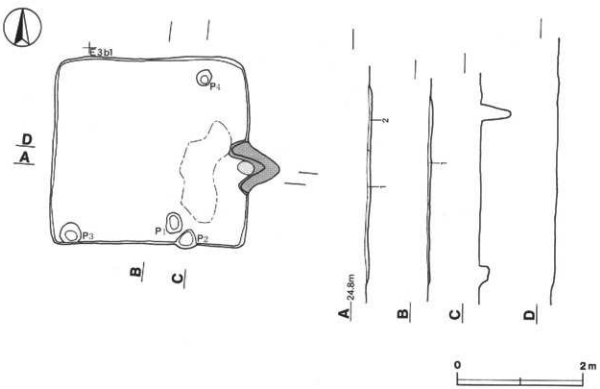
竈　東壁の中央部からやや南寄りを，壁外に51cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ70cm，両袖部の幅80cmである。火床部は楕円形を呈し，床面と同じレベルの平坦面を使用している。火床部は，火熱を受けてやや赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。竈の土層は，遺存状態が悪く観察できなかった。

覆土　2層からなる。覆土が薄く，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物は出土していないが，遺構の規模や形状から平安時代と思われる。



第59図　第44号住居跡実測図

第46号住居跡（第60図）

位置　調査区域の南部，E2a9区。

確認状況　当調査区域内では，最も南側に位置する。

規模と形状　長軸2.81m，短軸2.10mの長方形である。主軸方向は，N－1°－Eである。壁高は2～3cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。耕作のための削平により，覆土はほとんど残っていない。

床　平坦で，中央部からやや南側が踏み固められ硬化している。西部の床面から焼土と炭化物が検出されている。

ピット　1か所。P1は深さ10cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈　北壁の中央部を，壁外に38cmほど三角形状に掘り込み，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ74cm，両袖部の幅88cmである。火床部は楕円形を呈し，床面と同じレベルの平坦面を使用している。火床部も含めて竈内部全体が火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

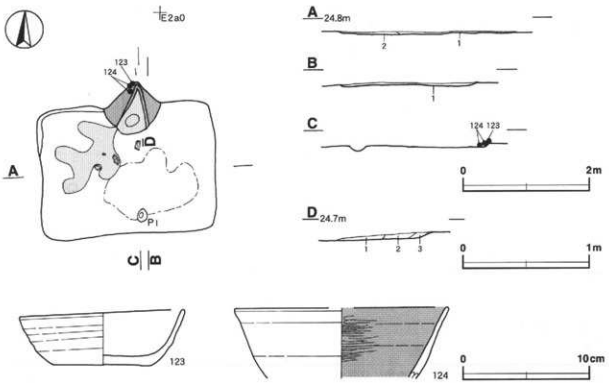
竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量，粘性・締まりなし

覆土　2層からなる。覆土が薄く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　遺構の遺存状態が悪く，遺物は土師器片9点，須恵器片1点だけである。第60図P123・124の土師器の坏はいずれも，竈の覆土下層から出土している。西部の床面から焼土と炭化材が検出されている。

所見　床面から焼土と炭化材が検出されており，焼失住居の可能性が高い。時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第60図　第46号住居跡・出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
123	土師器	坏	13.2	4.4	7.6	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	竈覆土下層	PL27
124	土師器	坏	[17.2]	(5.5)	－	英石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	竈覆土下層	

表4　奈良・平安時代住居跡一覧表

市図番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	保存	内部施設							覆土	遺物		時期	備考
							炉	柱穴	貯蔵穴	ピット	竈	貯蔵穴			土師器	須恵器		関係遺構（SB→SK）
2	A 2 14	N－3°－W	長方形	2.86 × 2.58	5～9	平坦	－	－	－	－	竈1	－	自然				平安	
4	A 2 15	N－17°－W	長方形	2.81 × 2.62	1～5	平坦	－	－	－	－	竈1	1	自然		土師器片36点，須恵器片7点		10世紀前葉	SH4→SB→SK8
5	A 2 15	N　6°－W	長方形	3.02 × 2.55	2～7	平坦	－	－	－	－	竈1	－	人為		土師器片11点		9世紀後葉	SB7→SK→SK8
6	A 2 15	N　9°－W	方形	3.29 × 12.24	6～12	平坦	－		1	－	竈1	1	自然		須恵器片2点		9世紀中葉	埋甕→SB4→SK
7	B 2 17	N－86°－E	長方形	4.04 × 3.20	1～5	平坦		1	1		竈1	－	自然		土師器片、須恵器片18点，粘土2，砥石2，鉄製品1		10世紀前葉	SB→SK→SK8
8	B 2 e6	N－11°－W	方形	3.29 × 3.11	18	平坦	全周	－	1	－	竈1	－	人為		土師器片46点，須恵器片7点，土製品1点		8世紀後葉	SI→→本跡
9	B 2 e6	N－16°－W	方形	3.96 × 3.71	8～20	平坦	全周	4	－	－	不明	－	人為		土師器片3点，須恵器片4点		8世紀後葉	埋→SK→SI2
10	B 2 d6	N－4°－W	方形	3.47 × 3.06	4～13	平坦	一部	－	－	－	竈1	－	自然		土師器片26点，須恵器片5点，鉄製品1点		10世紀前葉	
12	B 2 f7	N－4°－W	方形	4.31 × 3.96	6～10	平坦	全周	－	－	－	竈1	－	自然		土師器片26点，須恵器片5点，砥石1点		9世紀前葉	SI→埋甕→本跡
15	B 2 f7	N－14°－W	方形	3.55 × 3.50	5～8	平坦	－	－	1	－	－	－	人為		土師器片3点，須恵器片1点		8世紀後葉	埋甕→SB→SK8
16	B 2 e6	N　17°－W	長方形	4.26 × 3.69	18	平坦	－	4	－	－	竈1	－	人為		土師器片64点，須恵器片19点		9世紀中葉	SI→本跡→SK
17	B 2 h7	N－19°－W	方形	4.31 × 4.22	4～8	平坦	西隅	4	1	－	竈1	－	人為		土師器片31点，須恵器片9点		9世紀後葉	本跡→SI→SK
21	C 2 d0	N－80°－E	方形	4.30 × 4.01	1～10	平坦	－	1			竈1	－	自然		土師器片300点		10世紀前葉	SI 22→本跡
22	C 2 e0	N－13°－W	方形	4.80 × 4.51	4～8	平坦	西隅	－	1		竈1	－	人為		土師器片123点		9世紀末葉	本跡→SI→SK
23	C 2 e3	N－90°－E	長方形	3.20 × 2.72	不明	平坦	－	1	－	－	竈1	－	不明		土師器片6点，須恵器片1点，鉄滓6点		10世紀後葉	
24	C 2 f6	N　2°－E	長方形	3.32 × 2.75	10～16	平坦	－		－	－	竈1		人為		土師器31点，須恵器3点，砥石1点，鉄製品1点		9世紀後葉	SB 8→本跡
25	C 2 e6	N－91°－E	長方形	4.34 × 3.12	5～8	平坦	一部	－	－	－	竈2	－	人為		土師器片605点，須恵器片1点		10世紀前葉	SI 22→本跡
27	C 2 f0	N－7°－W	方形	3.95 × 3.50	3～7	平坦	－	4	－	－	－	－	人為		土師器片26点，須恵器片1点		9世紀後葉	本跡→SI→SK
28	C 2 e9	N－22°－W	長方形	3.70 × 2.73	5～10	平坦	一部	－	1	－	竈1	－	人為		土師器片24点，須恵器片3点，金属製品2点		8世紀後葉	本跡→SI 26
29	C 3 f2	N　9°－W	方形	3.72 × 2.50	2～3	平坦	一部	－	－	2	－	－	不明		土師器片12点		10世紀前葉	
31	C 3 g1	N－31°－W	方形	2.73 × 2.48	3～7	平坦		－	－	－	竈1	1	人為		土師器片107点，須恵器片13点		9世紀前葉	
32	C 3 g0	N－4°－W	長方形	4.30 × 3.22	3～9	平坦	一部	－	－	－	竈1	－	人為		土師器片50点		10世紀前半	
33	C 3 f7	N－93°－E	長方形	4.10 × 3.48	5～7	平坦	－	－	－	2	竈1	1	自然		土師器片106点		10世紀前葉	SI→SH→本跡
34	C 2 h8	N－96°－E	方形	13.38 × 3.30	4～5	平坦	－		－	1	竈1	1	自然		土師器片20点		10世紀前葉	本跡→SI 32
36	D 3 e2	N　17°－W	長方形	3.23 × 2.68	5～8	平坦	一部		1	－	竈1		自然		土師器片186点，須恵器片7点		9世紀後葉	
37	C 2 f0	N－90°－E	方形	2.72 × 2.59	4～10	平坦	一部	－	1	－	竈1	－	人為		土師器片26点		10世紀前葉	埋甕→SK 42
41	D 3 f2	N－2°－E	長方形	3.95 × 3.25	5～8	平坦	－	－	－		竈1	－	自然		土師器片32点，須恵器片14点		10世紀前葉	埋甕→SK→本跡
44	E 3 e1	N－90°－E	方形	3.12 × 2.92	2～4	平坦	－	－	－	4	竈1	－	不明				平安	
46	E 3 a0	N－1°－W	長方形	2.84 × 2.10	2～3	平坦	－	－	1		竈1	－	不明		土師器片9点，須恵器片1点		10世紀前葉	

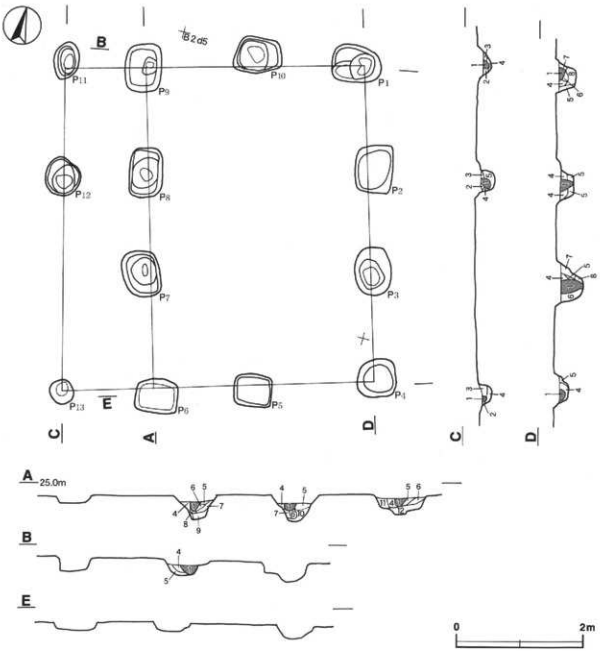
(2) 掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第61図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｄ５区。本跡の北側に隣接して，桁行方向が直交するように第２～５号掘立柱建物跡が位置する。また，西側に隣接して，第１号溝が南北に走っている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の南北棟の側柱建物跡で，西側に庇を持っている。規模は桁行5.24m，梁行3.48m，面積は18.24㎡である。庇の出は1.40mである。桁行方向は，N－15°－Wである。身舎の柱間寸法は，桁行1.52～1.95m，梁行1.66～1.78mで，両方ともやや不揃いである。庇の柱間寸法は，Ｐ11とＰ12の間が1.80m，Ｐ12とＰ13の間は3.40mと広い。Ｐ12とＰ13の間に柱穴は検出できなかった。

柱穴　柱穴は13か所で，身舎の柱穴はＰ１～10，庇の柱穴はＰ11～13である。庇の部分で検出された柱穴は３か所である。Ｐ１・２，Ｐ５～10は長軸62～80cm，短軸50～60cmの長方形，深さ15～49cm，Ｐ３は長径76cm，



第61図　第１号掘立柱建物跡

短径56cmの不整楕円形、深さ52cm。P４は径60cmの不整円形、深さ25cmである。南部のＰ５・６の掘り込みは、やや浅い。底の柱穴は、Ｐ11が長径62cm、短径38cmの不整楕円形、深さ25cm、Ｐ12・13が径40～60cmの不整円形、深さ29～38cmである。底の柱穴は、身舎に比べるとやや浅い。

覆土　柱抜き取り痕はＰ５・６を除いて確認され、ロームブロックを含む黒褐色土の第１層が相当する。その他の土層は、埋土と考えられる。粘性・締まりとも普通で、強く突き固められた形跡はない。柱の太さは15cm前後と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量、ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子少量、炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量
12　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片18点、須恵器片１点が埋土内から出土しているが、いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　本跡の東側に隣接して桁行方向が直交するように、第２・３・４・５号掘立柱建物跡が存在する。これらは重複しており、建て替えが行われたと思われる。また第２・３・５号掘立柱建物跡は出土土器から、時期差があまりないと考えられるが、第３号掘立柱建物跡は配置や規模などからみて、本跡と同時期に存在した可能性が考えられる。時期は、出土土器から判断して９世紀後葉と思われる。

第２号掘立柱建物跡（第62図）

位置　調査区域の北部、Ｂ２ｂ６区。

重複関係　第３号掘立柱建物跡の東部及び第４号掘立柱建物跡の西部を掘り込んでいる。また東部のＰ１・11・12が第７竪穴住居に掘り込まれている。第３～５号掘立柱建物跡と桁行方向が、ほぼ同じである。

規模と構造　桁行４間、梁行２間の東西棟の側柱建物跡である。規模は桁行6.78m、梁行4.34m、面積は29.43㎡である。桁行方向は、Ｎ－64°－Ｅである。柱間寸法は桁行1.95～2.13m、梁行2.05～2.25mで、両方とも不揃いである。

柱穴　柱穴は12か所で、Ｐ１・４～６、８～12が長径72～114cm、短径62～80cmの不整楕円形、深さ20～48cmである。Ｐ２・７が長軸76～84cm、短軸48～75cmの長方形、深さ30～55cmである。Ｐ３が径78cmの不整円形、深さ32cmである。柱穴は、掘り方や平面形にばらつきがある。

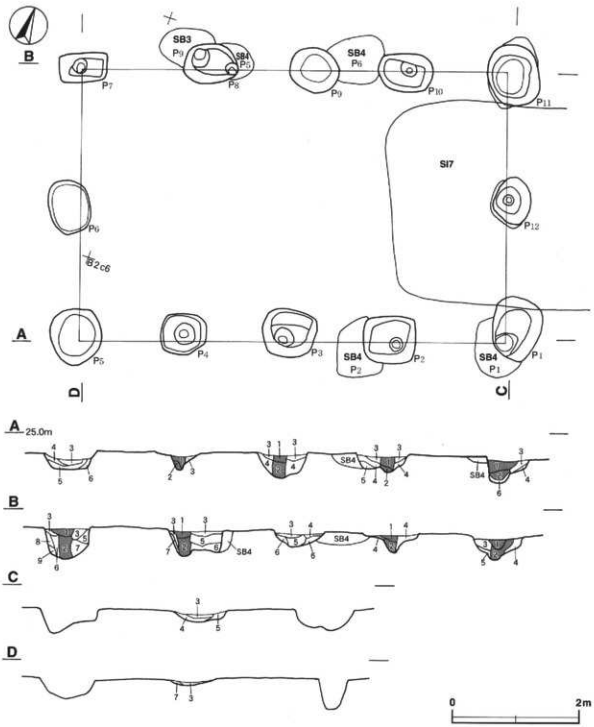
覆土　柱抜き取り痕はＰ１～４、Ｐ７・８、Ｐ10・11で確認され、第１・２層が相当する。その他の土層は埋土にあたる。粘性・締まりとも普通で、強く突き固められた形跡はない。柱の太さは、20cm前後と推定される。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック少量、締まりなし
2　黒　褐　色　ロームブロック中量、締まりなし
3　にぶい褐色　ロームブロック多量
4　にぶい褐色　ロームブロック多量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　にぶい褐色　ロームブロック多量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　　色　ロームブロック少量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片５点，須恵器片２点が出土している。第63図Ｐ125の土師器坏はＰ12の埋土内から，Ｐ126の須恵器高台付坏はＰ８の埋土内から出土している。

所見　第３・４・５号掘立柱建物跡と重複し，桁行方向がほぼ同じであることから，建て替えの可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀後葉と思われる。



第62図　第２号掘立柱建物跡実測図

第63図　第２号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第２号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
125	土師器	坏	(12.0)	(3.6)	—	砂・赤褐・白粒	にぶい橙	普通	体部外面に強いロクロ目	P12 埋土内	
126	須恵器	高台付坏	—	(2.8)	(9.0)	長石・石英	オリーブ黒	普通	高台は高めで真下にのびる	P6 埋土内	

第３号掘立柱建物跡（第64図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｂ５区。本跡の南側に隣接して，桁行方向が直交するように第１号掘立柱建物跡が位置する。

重複関係　東部を第２号掘立柱建物跡に掘り込まれ，第４号掘立柱建物跡の西部を掘り込んでいる。Ｐ10は，第１号井戸跡上部に構築されている。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の東西棟の側柱建物跡である。規模は桁行4.74m，梁行3.72m，面積は17.63㎡である。桁行方向は，Ｎ－72°－Ｅである。柱間寸法は桁行1.44～1.86m，梁行1.85～1.90mで，柱穴はほぼ規則的に配置され，柱筋はおおむね芯々を通っている。

柱穴　柱穴は10か所で，Ｐ４・７は長軸70～82cm，短軸60～72cmの長方形，深さ42～65cmである。Ｐ１・２は一辺58～75cmの方形，深さ38～42cmである。Ｐ５・６・９は長径80～88cm，短径60～65cmの不整楕円形，深さ29～55cmである。Ｐ３・８は径68～104cmの不整円形，深さ40～57cmである。Ｐ10は不明であるが，これ以外の柱穴の掘り込みは，すべてしっかりしている。

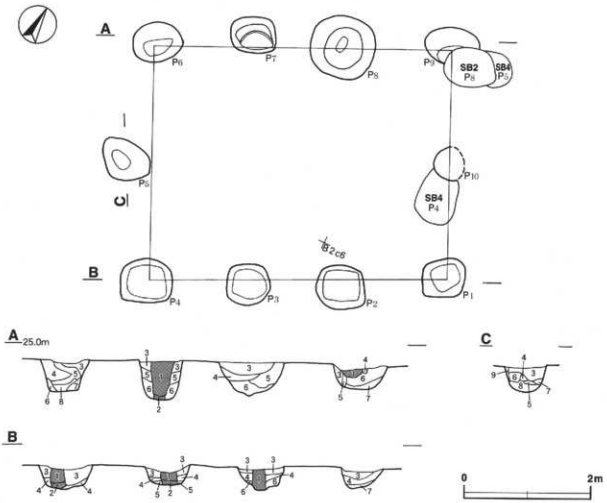
覆土　柱抜き取り痕はＰ２～４，Ｐ７・９で確認され，第１・２層が相当する。その他の土層は埋土にあたり，粘性・締まりとも弱く，強く突き固められた形跡はない。柱の太さは，15cm前後と推定される。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒・ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒・ロームブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　明褐色　ローム粒・ロームブロック少量
6　黒褐色　ローム粒・ロームブロック少量
7　暗褐色　ローム粒・ロームブロック中量，粘性・締まりなし
8　暗褐色　ローム粒・ロームブロック中量，粘性・締まりなし
9　明褐色　ローム粒・ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片20点，須恵器片１点が埋土内から出土しているが，図示できるものはなかった。

所見　第２・４・５号掘立柱建物跡と重複し，桁行方向がほぼ同じであることから，建て替えの可能性が考えられる。また，本跡の南側に隣接して，桁行方向が直交するように第１号掘立柱建物跡が位置しており，配置や規模から判断して，本跡と同時期に存在した可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀後葉と思われる。



第64図　第３号掘立柱建物跡実測図

第４号掘立柱建物跡（第65図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｂ６区。

重複関係　西部を第２・３号掘立柱建物跡に，東部を第７号住居及び第５号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の東西棟の側柱建物跡である。規模は桁行4.82ｍ，梁行4.32ｍ，面積は20.82㎡である。桁行方向は，Ｎ－70°－Ｅである。柱間寸法は桁行2.30～2.56ｍ，梁行1.90～2.42ｍで，柱穴はほぼ規則的に配置されている。

柱穴　柱穴は８か所で，Ｐ１・４・６～８が長径76～108cm，短径60～90cmの不整楕円形，深さ29～43cmである。Ｐ３・５は長軸70～84cm，短軸60～76cmの長方形，深さ49～50cmである。Ｐ２が一辺76cmほどの方形，深さ30cmである。妻の部分のＰ４・８は，やや小ぶりである。

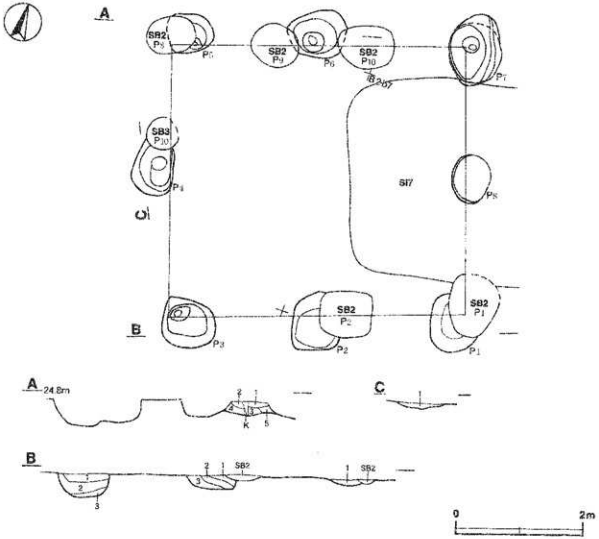
覆土　柱痕及び柱抜き取り痕は，確認できなかった。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量，粘性・締まりあり
4　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片14点，須恵器片6点が埋土内から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　本跡は第2・3・5号掘立柱建物跡と重複し，桁行方向がほぼ同じであることから，建て替えの可能性が考えられる。時期は，出土土器から9世紀中葉と思われる。



第65図　第4号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡（第66図）

位置　調査区域の北部，B2a7区。

重複関係　南部のP4・5を第7号住居に，P6を第147号土坑に掘り込まれている。

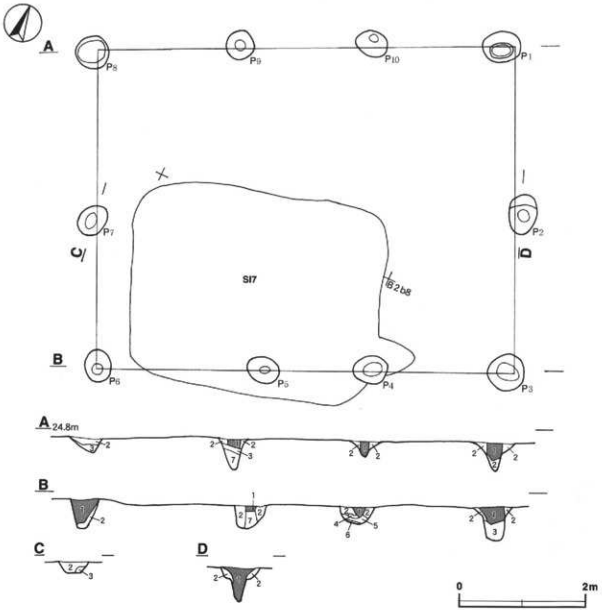
規模と構造　桁行3間，梁行2間の東西棟の側柱建物跡である。規模は桁行6.72m，梁行5.10m，面積34.27㎡である。桁行方向は，N－66°－Eである。柱間寸法は桁行1.78～2.28m，梁行2.30～2.78mで，柱穴はほぼ規則的に配置され，柱筋はおおむね芯々を通っている。

柱穴　柱穴は10か所で，Ｐ１・２，Ｐ４～７，Ｐ10は長径50～60cm，短径40～48cmの不整楕円形，深さ19～60cmである。Ｐ３・８・９は径44～60cmの不整円形，深さ36～54cmである。調査区域内の他の掘立柱建物跡と比べて，柱穴は小ぶりである。

覆土　柱抜き取り痕はＰ７・８を除いて確認され，第１層が相当する。その他の土層は，埋土と考えられる。粘性・締まりとも普通で，強く突き固められた形跡はない。柱の太さは，15cm前後と推定される。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　黒　　色　ローム粒子少量，締まりなし
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，締まりなし
5　褐　　色　ロームブロック多量，締まりなし
6　褐　　色　ロームブロック多量
7　にぶい褐色　ロームブロック中量，粘土粒子少量



第66図　第５号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片９点が埋土内から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

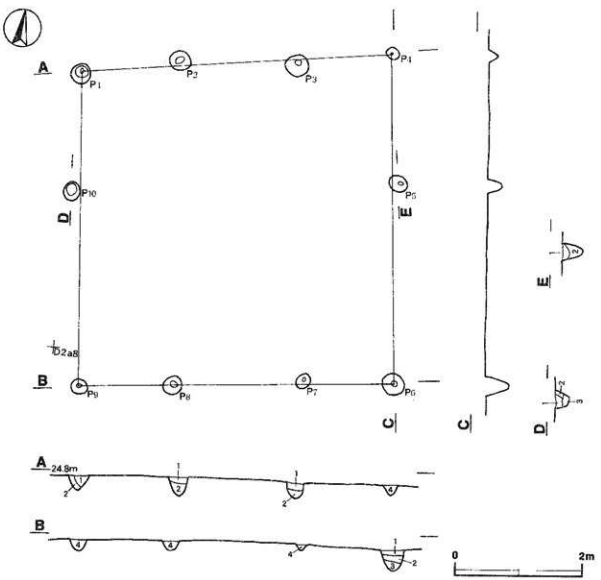
所見　本跡は第２・３・４号掘立柱建物跡と重複し，桁行方向がほぼ同じであることから，建て替えの可能性が考えられるが，他と比べて柱穴の規模が小さくやや様相が異なる。時期は，出土土器から９世紀後葉と思われる。

第６号掘立柱建物跡（第67図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｊ８区。東側に隣接して第７号掘立柱建物跡がある。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の東西棟の側柱建物跡である。規模は桁行5.04ｍ，梁行5.20ｍ，面積は26.21㎡である。桁行方向は，Ｎ－82°－Ｅである。柱間寸法は，桁行1.48～2.08ｍ，梁行2.40～2.85ｍである。Ｐ５とＰ10は，中央からやや北側に位置する。

柱穴　柱穴は10か所で，Ｐ１・４～７・10が径22～30㎝の不整円形で，深さ８～38㎝である。Ｐ２・３・８・９は長径30～40㎝，短径26～29㎝の不整楕円形，深さ18～37㎝である。



第67図　第６号掘立柱建物跡実測図

覆土　柱痕あるいは柱抜き取り痕は，確認できなかった。埋土は，ロームを含んだ黒色土や黒褐色土である。粘性・締まりとも普通で，強く突き固めた形跡はない。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

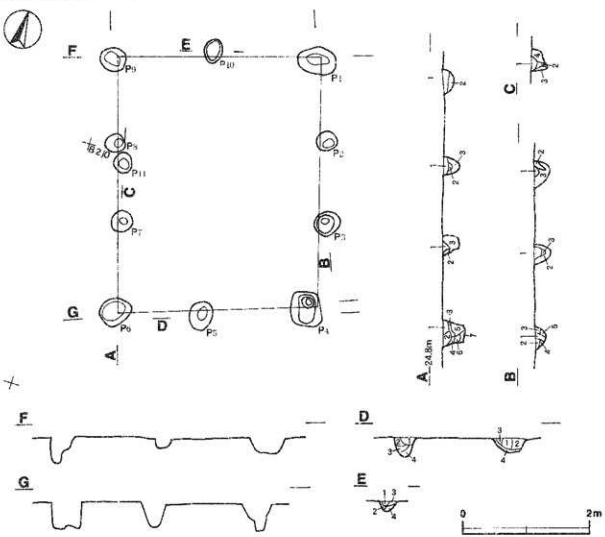
遺物出土状況　土師器片4点が出土しているが，図示できるものはなかった。

所見　柱穴は，調査区域北部の第2・3・4号掘立柱建物跡と比べて小ぶりである。東側に第7号掘立柱建物跡が位置するが，規模や構造などで共通する点は少ない。時期は，出土土器から9世紀後葉から10世紀前葉と思われる。

第7号掘立柱建物跡（第68図）

位置　調査区域の中央部，B2 j0区。西側に隣接して第6号掘立柱建物跡が位置する。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の南北棟の側柱建物跡である。規模は桁行4.16m，梁行3.21m，面積は13.48㎡である。桁行方向は，N－18°－Wである。柱間寸法は桁行1.32～1.44m，梁行1.48～1.74mで，柱穴はほぼ規則的に配置されている。



第68図　第7号掘立柱建物跡実測図

柱穴　柱穴は11か所で，Ｐ１・４・５・10が長径40～60cm，短径28～30cmの不整楕円形，深さ28～45cmである。Ｐ２・３・６～９・11は径30～48cmの不整円形，深さ28～47cmである。

覆土　柱痕あるいは柱抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量，締まりあり
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，締まりあり
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

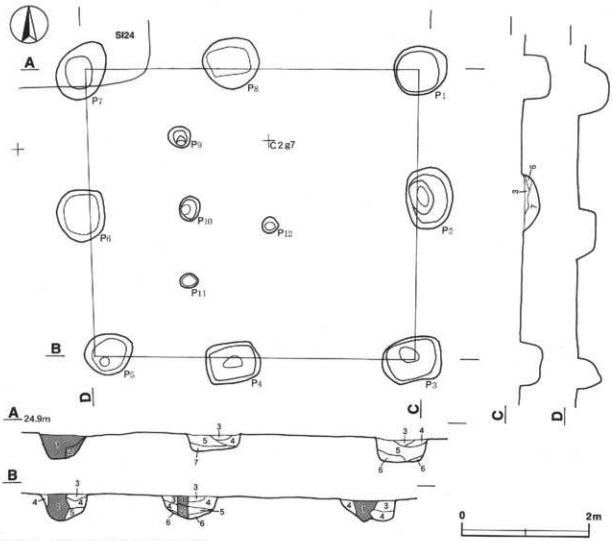
遺物出土状況　土師器片22点が埋土内から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　西側に第６号掘立柱建物跡が位置しているが，規模や構造などで共通する点は少ない。時期は，出土土器から10世紀前葉と思われる。

第８号掘立柱建物跡（第69図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｇ6区。東側に隣接して第１号溝が南北に走る。

重複関係　北東部を第24号住居に掘り込まれている。



第69図　第８号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行２間，梁行２間の東西棟の側柱建物跡である。規模は桁行5.24m，梁行4.60m，面積は24.1㎡である。桁行方向は，N－90°－Eである。柱間寸法は桁行2.26～2.96m，梁行2.14～2.42mで，柱穴はほぼ規則的に配置され，柱穴はおおむね芯々を通っている。

柱穴　柱穴はＰ１～８で，Ｐ９～12は位置と規模から補助柱穴と思われる。Ｐ１・２・５・７・８は長径78～100cm，短径64～77cmの不整楕円形，深さ30～47cmである。Ｐ３・４は長軸86～96cm，短軸62～68cmの長方形，深さ40～42cmである。Ｐ６は径76cmの不整円形，深さ32cmである。Ｐ９～12は長径28～36cm，短径24～32cmの不整楕円形，深さ９～73cmである。柱穴はほぼ規則的に配置され，掘り方もしっかりしている。

覆土　柱抜き取り痕はＰ３～５・７で確認され，第１・２層が相当する。その他の土層は，埋土にあたる。粘性は弱く，締まりも普通で，強く突き固められた形跡はない。柱の太さは，15cm前後と推定される。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム・ブロック微量，粘性なし
2　黒　褐　色　ローム・ブロック少量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ローム・ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム・ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム・ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム・ブロック少量
7　褐　　色　ローム・ブロック多量

遺物出土状況　土師器片25点，須恵器片６点，土製支脚１点が埋土内から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と思われる。

第９号掘立柱建物跡（第70図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｉ１区。北側に第14号掘立柱建物跡，東側に第10・11・13号掘立柱建物跡が位置する。

規模と構造　桁行３間，梁行２間の南北棟の側柱建物跡である。規模は桁行5.04m，梁行3.48m，面積は17.54㎡である。桁行方向は，N－16°－Wである。柱間寸法は桁行1.62～1.76m，梁行1.66～1.80mで，柱穴はほぼ規則的に配置され，柱筋はおおむね芯々を通っている。

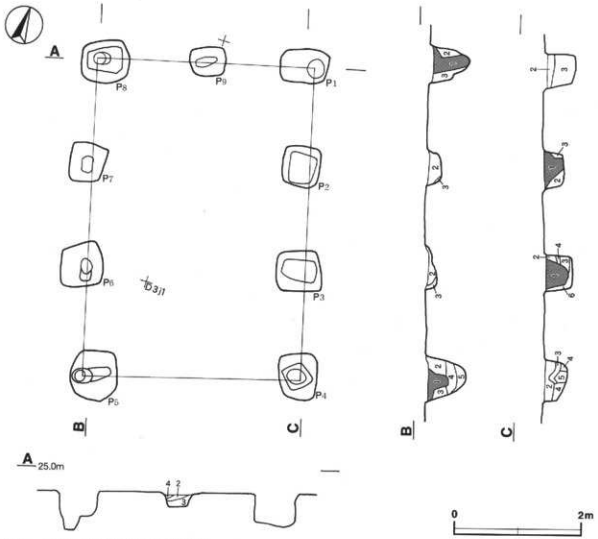
柱穴　柱穴は９か所で，南部のＰ４とＰ５の間では検出できなかった。Ｐ１・３・４・７～９は長軸56～76cm，短軸47～68cmの長方形，深さ25～68cmで掘り方はしっかりしている。Ｐ２・５・６は一辺60～68cmの方形で，深さ19～37cmである。

覆土　柱抜き取り痕はＰ２・３・５・８で確認され，第１層が相当し，粘性・締まりはない。その他の土層は，埋土にあたる。粘性・締まりとも弱く，強く突き固められた形跡はない。柱の太さは，20cm前後と推定される。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム・ブロック中量，粘性・締まりなし
2　黒　褐　色　ローム・ブロック中量
3　黒　褐　色　ローム・ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム・ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム・ブロック中量，焼土粒子少量，粘性・締まりなし
6　暗　褐　色　ローム・ブロック中量

遺物出土状況　土師器片16点，須恵器片３点が埋土内から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　北側に隣接して第14号掘立柱建物跡，東側に隣接して第10・11・13号掘立柱建物跡が位置する。第10・13号掘立柱建物跡の時期は９世紀中葉，第11・14号掘立柱建物跡は出土遺物がなく時期不明とした。本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀後葉と思われる。



第70図　第９号掘立柱建物跡実測図

第10号掘立柱建物跡（第71図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｇ３区。西側に隣接して第14号掘立柱建物跡，南側に隣接して第９・11・13号掘立柱建物跡が位置する。

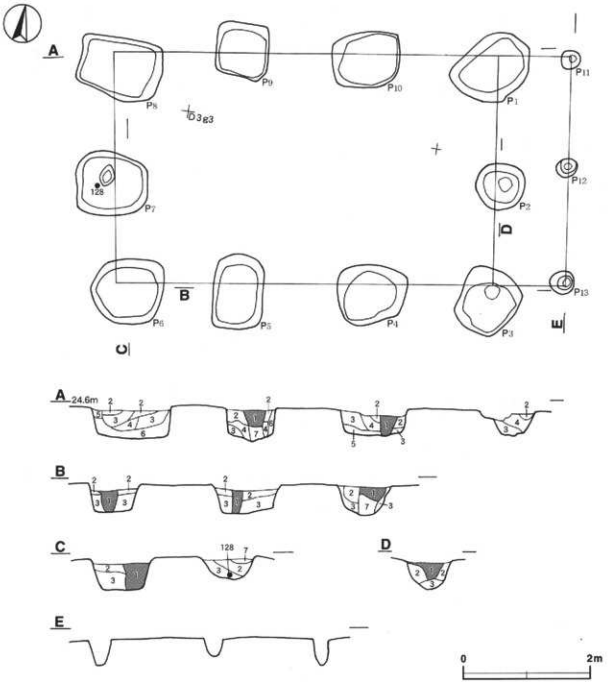
規模と構造　桁行３間，梁行２間の東西棟の側柱建物跡で，東側に庇を持つ。規模は桁行6.06m，梁行3.76m，面積22.79㎡である。庇の出は，1.12mである。桁行方向は，Ｎ－82°－Ｅである。身舎の柱間寸法は，桁行2.00～2.10m，梁行1.82～2.02mで，ほぼ規則的に配置され，柱筋はおおむね芯々を通っている。庇の柱間寸法は，1.72～1.84mである。

柱穴　柱穴は13か所で，身舎の柱穴はＰ１～10，庇の柱穴はＰ11～13である。Ｐ１・４・６・７は長径110～122cm，短径92～102cmの不整楕円形，深さ48～67cmである。Ｐ３・５・８・10は長軸106～130cm，短軸80～96cmの長方形，深さ45～54cmである。Ｐ２は径72cmの不整円形，深さ46cmである。Ｐ９は一辺84cmの方形，深さ58cmである。身舎の柱穴は，いずれも深く掘り方がしっかりしている。Ｐ11～13は径30～38cmの円形，深さは28～43cmである。庇の柱穴は，身舎の柱穴より小さく浅い。

覆土　柱抜き取り痕はＰ２～５，６・９・10で確認され，第１層が相当し，粘性・締まりとも弱い。その他の土層は，埋土にあたる。粘性・締まりとも弱く，強く突き固められた形跡はない。柱の太さは，20cm前後と推定される。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量，粘性・締まりなし
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック多量，粘性・締まりあり
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし



第71図　第10号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片37点，須恵器片２点が出土している。第72図Ｐ128の須恵器高台付坏はＰ７の埋土下層から，Ｐ127の土師器坏は埋土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して９世紀中葉と思われる。南側に隣接して位置する第13号掘立柱建物跡は，出土土器から９世紀中葉のものと考えられ，本跡と同時期に存在した可能性が高い。

第72図　第10号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
127	須恵器	坏	－	（2.9）	（5.4）	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	Ｐ7　埋土層	
128	須恵器	高台付坏	－	（4.2）	8.8	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台張り付け	埋土中	PL28

第13号掘立柱建物跡（第73図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｊ４区。北側に隣接して第10号掘立柱建物跡，南側に隣接して第11号掘立柱建物跡が位置する。

確認状況　東側が調査区域外になっているため，正確な規模は不明である。東部及び西部で第４号溝を掘り込んでいる。

規模と構造　東側が調査区域外になっているため，確認できた桁行２間，梁行２間の東西棟の側柱建物跡で，桁行方向はさらに東に延びると思われる。規模は確認できた桁行4.78m，梁行4.28mで，面積は不明である。桁行方向は，Ｎ－86°－Ｅである。柱間寸法は確認できた桁行1.98～2.90m，梁行2.15mである。

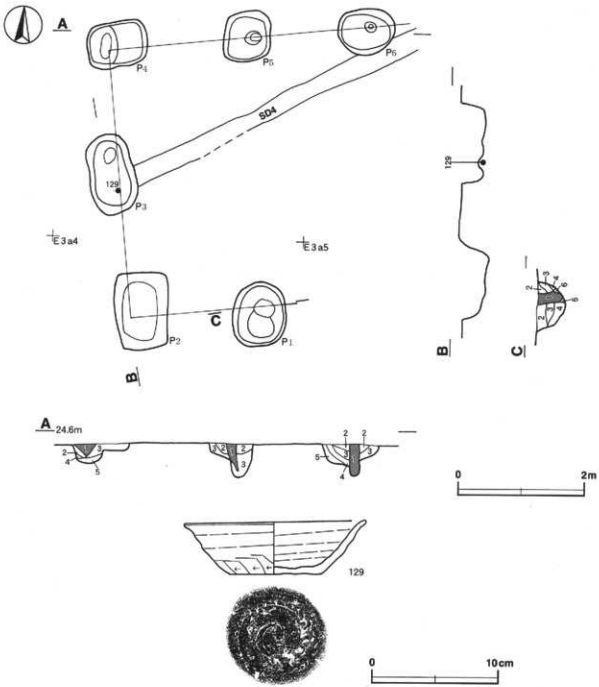
柱穴　確認できた柱穴は６か所である。Ｐ１・３・６は長径90～128cm，短径70～86cmの不整楕円形，深さ43～50cmである。Ｐ２・４は長軸100～122ｃｍ，短軸72～80cmの長方形，深さ37～40cmである。Ｐ５は一辺78cmの方形，深さ43cmである。

覆土　柱抜き取り痕はＰ１・４・５・６で確認され，ロームブロックを含む極暗褐色土の第１層が相当する。その他の土層は埋土にあたる。柱の太さは，20cm前後と推定される。粘性は普通で，強く突き固められた形跡はない。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ローム粒多量
3　黒褐色　ロームブロック多量
4　黒褐色　ローム粒多量
5　黒褐色　ローム粒多量
6　褐色　ローム粒多量

遺物出土状況　土師器片２点，須恵器片１点が出土している。第73図Ｐ129の須恵器坏は，Ｐ３の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と思われる。北側に隣接する第10号掘立柱建物跡の時期は９世紀中葉と考えられ，本跡と同時期に存在した可能性が高い。



第73図　第13号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
129	須恵器	坏	14.5	4.2	7.3	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り　体部下端手持ちヘラ削り	P 3 底面	PL28

表5　奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	区画	桁×梁（間）	規模（m）	棟方向	柱穴（cm） 柱間寸法（m）		総高（m）	構造	柱穴（cm） 平面形	底面形態	規模	深さ	出土遺物	備考 遺構間関係（旧→新）
1	B 2 d5	3 × 2	5.24 × 3.46	N－15°－W	1.52～1.95	1.66～1.78	18.24	掘立	楕円形、円形	60～80	38～80	15～52	土師器片5点、須恵器片1点	
2	B 2 e6	4 × 2	6.78 × 4.34	N－64°－E	1.95～2.13	2.05～2.25	29.43	掘立	楕円形、三角形	72～74	48～80	29～55	土師器片5点、須恵器片1点	竪穴SB10→掘立SB7
3	B 2 b5	3 × 2	4.74 × 3.72	N－72°－E	1.44～1.86	1.85～1.90	17.63	掘立	円形、長方形、不定	68～104	58～72	29～57	土師器片3点、須恵器片1点	竪穴SB→SB→SB2
4	B 2 b6	2 × 2	4.82 × 4.32	N－70°－E	2.30～2.56	1.90～2.42	20.82	掘立	円形、長方形、不定	70～108	60～90	29～50	土師器片10点、須恵器片6点	SB8→SB2→SB3→SB7
5	B 2 a7	3 × 2	6.72 × 5.10	N－66°－E	1.78～2.28	2.30～2.78	34.27	掘立	楕円形、円形	50～60	40～48	19～60	土師器片9点	SB8→SB2→SB3→SB7
6	C 2 h8	3 × 2	5.64 × 5.20	N－82°－E	1.48～2.38	2.00～2.85	26.21	掘立	楕円形、円形	30～40	22～29	8～38	土師器片4点	
7	B 2 j9	3 × 2	4.16 × 3.24	N－18°－W	1.32～1.44	1.48～1.74	13.48	掘立	楕円形、円形	40～60	26～30	28～47	土師器片22点	
8	C 2 g6	2 × 2	3.24 × 4.66	N－90°－E	2.26～2.96	2.14～2.42	24.10	掘立	隅丸、楕円形	76～100	62～77	30～47	土師器片、須恵器片、砥石1点	木柵→SB24
9	D 3 i1	3 × 2	5.06 × 3.68	N－16°－W	1.62～1.76	1.66～1.80	17.54	掘立	長方形、方形	58～76	47～68	19～68	土師器片5点、須恵器片1点	
10	D 3 g3	3 × 2	6.06 × 3.76	N－82°－E	2.00～2.10	1.82～2.02	22.79	掘立	不明、長方形、不定	72～130	72～102	45～67	土師器片2点、須恵器片2点	
13	D 3 j4	2 × 2	4.78 × 4.28	N－86°－E	1.98～2.00	2.15	不明	掘立	楕円形、長方形、不定	78～128	70～86	37～50	土師器片2点、須恵器片1点	SD→→本柵

(3)　土坑

第5号土坑（第74図）

位置　調査区域の中央部、C 3 b1 区。

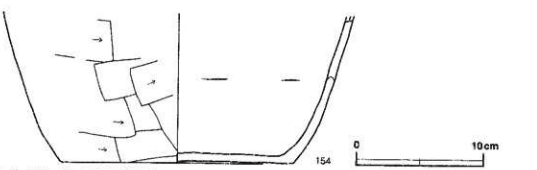
規模と形状　径2.30mほどの不整円形、深さ37cmである。壁は、緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。当調査区域内では、比較的大形の土坑である。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子中量、ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量、ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片6点が出土している。第74図P154の土師器甕は、中央部の底面から出土している。

所見　時期は、出土土器から10世紀前葉と思われる。



第74図　第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
154	土師器	甕	－	(11.9)	18.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端横方向の手持ちヘラ削り	中央部底面	

第7号土坑（第75図）

位置　調査区域の北部，B 2 c7 区。

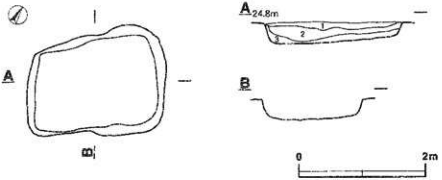
規模と形状　長軸2.23m，短軸1.73mの長方形，深さ31cmである。長軸方向は，N－53°－Eである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片10点が出土しているが，図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と思われる。



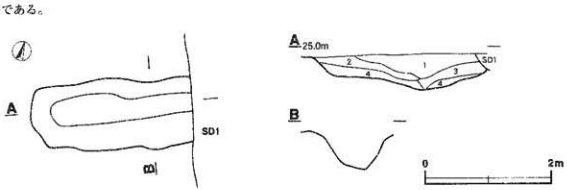
第75図　第7号土坑実測図

第10号土坑（第76図）

位置　調査区域の北部，B 2 g4 区。

重複関係　東部を南北に走る第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第1号溝に掘り込まれているため，確認できた長軸2.56m，短軸1.15mで長方形と推定され，深さは58cmである。長軸方向は，N－65°－Eと推定される。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。



第76図　第10号土坑実測図

覆土　4層からなる。不自然な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片20点，須恵器片2点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀中葉と思われる。

第13号土坑（第77図）

位置　調査区域の北部，B2e0区。

重複関係　第14号土坑の東部を掘り込んでいる。

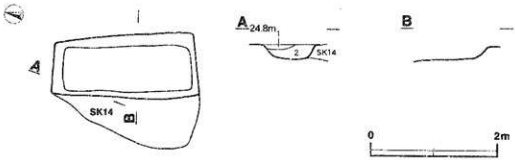
規模と形状　長軸2.34m，短軸1.05mの長方形，深さ25cmである。長軸方向は，N－13°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片4点，須恵器片1点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と思われる。



第77図　第13号土坑実測図

第15号土坑（第78図）

位置　調査区域の北部，B2e8区。

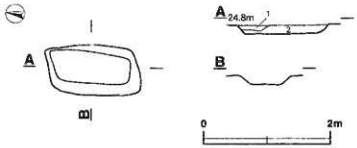
規模と形状　長軸1.45m，短軸0.81mの長方形，深さ13cmである。長軸方向は，N－9°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ロームブロック微量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　土師器片2点，須恵器片1点が出土しているが，図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉と思われる。



第78図　第15号土坑実測図

第17号土坑（第79図）

位置　調査区域の北部，B２c９区。

確認状況　東側が調査区域外になっている。

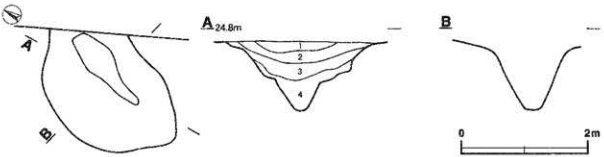
規模と形状　東側が調査区域外になっているため，確認できた長径2.46m，短径1.62mの不整楕円形と推定され，深さ108cmである。長径方向は，N－15°－Eである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片３点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から９世紀中葉と思われる。



第79図　第17号土坑実測図

第23号土坑（第80図）

位置　調査区域の北部，B２g９区。

重複関係　第22号土坑の南東部を掘り込んでいる。

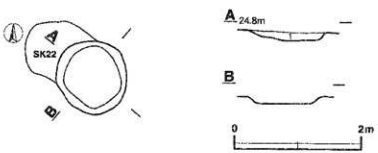
規模と形状　径1.21mほどの不整円形，深さ10cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　単一層である。上部が削平されており，遺存状態はよくないが，ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土小ブロック微量

遺物出土状況　土師器片13点，須恵器片6点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と思われる。



第80図　第23号土坑実測図

第29号土坑（第81図）

位置　調査区域の中央部，D3b1区。

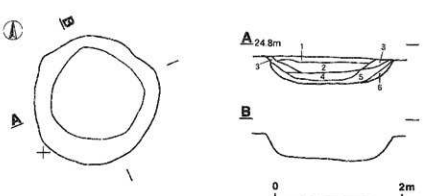
規模と形状　径2.0mほどの不整円形，深さ40cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量，粘性あり
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片4点，須恵器片1点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と思われる。



第81図　第29号土坑実測図

第43号土坑（第82図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｅ３区。

規模と形状　長径1.34m，短径0.78mの不整楕円形，深さ58cmである。長径方向は，Ｎ－39°－Ｗである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

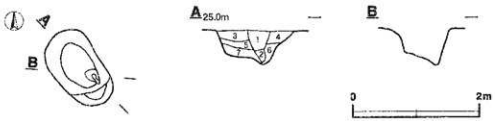
覆土　７層からなる。ロームブロックや焼土粒子，炭化物などを含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量，粘性なし，締まりあり
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物微量，粘性あり
3　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量，粘性なし
4　黒　褐　色　ロームブロック多量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片11点，須恵器片２点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と思われる。



第82図　第43号土坑実測図

第58号土坑（第83図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ａ７区。

重複関係　第７号住居跡の北東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.0m，短径0.84mの不整楕円形，深さ14cmである。長径方向は，Ｎ－48°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

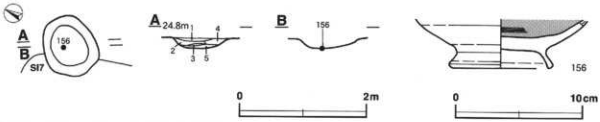
覆土　５層からなる。焼土粒子や炭化物を含み，各層がブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片12点が出土している。第83図Ｐ156の土師器椀は，中央部の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と思われる。



第83図　第58号土坑・出土遺物実測図

第58号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
156	土師器	椀	－	（3.9）	7.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	中央部底面	

第64号土坑（第84図）

位置　調査区域の北部，B 2 h9 区。

規模と形状　長径0.69m，短径0.55mの不整楕円形，深さ74cmである。長軸方向は，N－72°－Eである。壁は，直立する。底面は平坦である。

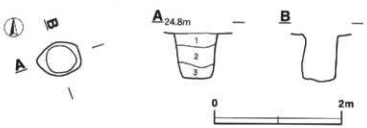
覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片1点，須恵器片2点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と思われる。



第84図　第64号土坑実測図

第67号土坑（第85図）

位置　調査区域の中央部東端，B 3 i2 区。

確認状況　第26・68号土坑と南北方向に一直線上に並ぶように検出された。

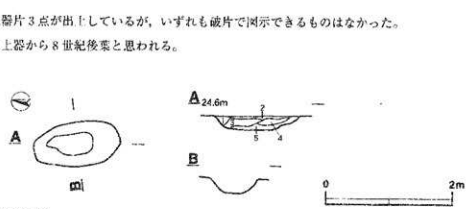
規模と形状　長径1.37m，短径0.72mの不整楕円形，深さ20cmである。長径方向は，N－21°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　5層からなる。焼土粒子・炭化物を含むブロック状の体積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量，粘性・締まりなし
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，粘性・締まりなし
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　須恵器片3点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と思われる。



第85図　第67号土坑実測図

第88号土坑（第86図）

位置　調査区域の北部，B 2 h6 区。

重複関係　本跡の上部に第16号住居が，構築されている。

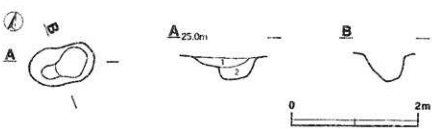
規模と形状　長径1.05m，短径0.58mの不整楕円形，深さ40cmである。長径方向は，N－60°－Eである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含み，ブロック状の堆積状況から，人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック多量，焼土ブロック少量，粘性・締まりあり
2　褐　　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　須恵器片1点が出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　時期は，土層の堆積状況から第16号住居が構築される以前と考えられ，出土土器から8世紀後葉と思われる。



第86図　第88号土坑実測図

第144号土坑（第87図）

位置　調査区域の南部，E 3 i 2 区。

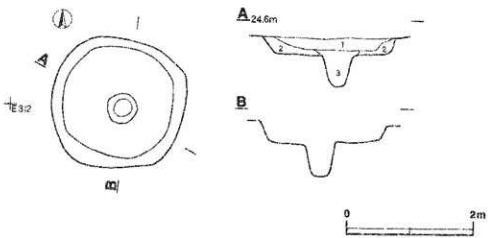
規模と形状　径2.22mほどの不整円形，深さ84cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は，平坦であるが，中央部に径50cm，深さ50cmほどの円形を呈する掘り込みが検出された。

覆土　3層からなる。ロームブロックなどを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　灰　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片22点，須恵器片3点が出土しているが，破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と思われる。



第87図　第144号土坑実測図

第162号土坑（第88図）

位置　調査区域の北部，B 2 e 3 区。

確認状況　住居跡として調査したが，床や炉・竈などが検出されず土坑とした。

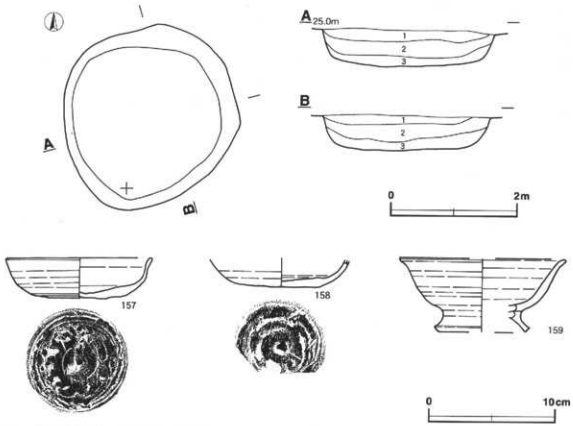
規模と形状　径2.70mの不整円形，深さ58cmである。調査区域内では大形の土坑である。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，締まりあり
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片35点が出土している。第88図P 157・158の土師器坏，P 159の土師器椀は，いずれも覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と思われる。



第88図　第162号土坑・出土遺物実測図

第162号土坑出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
157	土師器	坏	11.5	3.3	7.8	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部外面に粘土貼り付け	覆土中	PL28
158	土師器	坏	－	（2.2）	6.6	砂粒・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部外面に粘土貼り付け	覆土中	
159	土師器	椀	［13.4］	5.8	［7.0］	長石・赤色粒子	橙	普通	高台はハの字状に開く	覆土中	PL28

第165号土坑（第89図）

位置　調査区域の南部，E 3 a2 区。

規模と形状　長径3.95m，短径2.07mの不整楕円形，深さ48cmである。当調査区域内では，大形の土坑である。長径方向は，N－60°－Eである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は，一部に凹凸がある。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

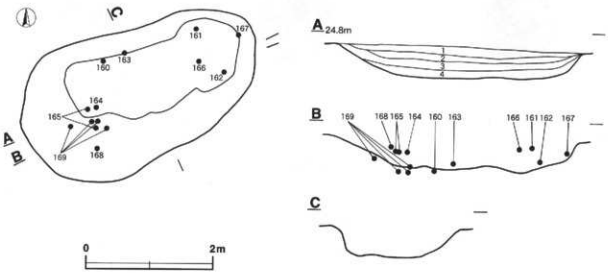
土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量

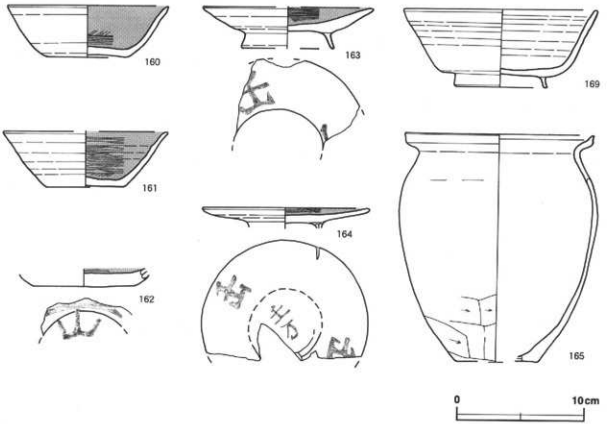
遺物出土状況　土師器片268点，須恵器片107点，不明土製品１点，鉄滓３点が北部及び東西の壁際を中心に出土している。当調査区域内の土坑では，出土遺物が多かった。第90図Ｐ160の土師器坏は東部の底面から，Ｐ163の土師器皿は北部壁際の覆土下層から出土した。Ｐ169の須恵器高台付坏は西部の底面から出土したものが接合した。Ｐ162の土師器坏と第91図Ｐ167の須恵器坏は東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。第90

図P162～164の土師器坏はいずれも墨書土器である。P161の土師器坏，第91図P166の須恵器坏は東部の，第90図P164の土師器皿，P165の土師器甕，第91図P168の須恵器坏は西部の覆土中層から出土している。

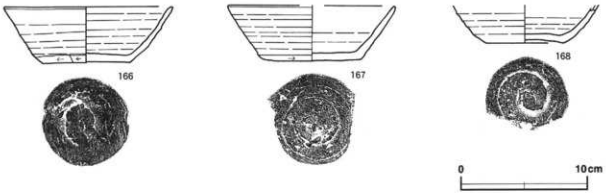
所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と思われる。



第89図　第165号土坑実測図



第90図　第165号土坑出土遺物実測図(1)



第91図　第165号土坑出土遺物実測図(2)

第165号土坑出土遺物観察表（第90・91図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
160	土師器	坏	[12.8]	4.2	6.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　内面ヘラ磨き	東部埋土中層	
161	土師器	坏	[13.2]	4.4	6.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り　内面ヘラ磨き	東部埋土中層	
162	土師器	坏	－	(1.4)	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き　体部外面に墨書「江」か	東部埋土下層	PL27
163	土師器	皿	[13.8]	3.3	[7.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面に墨書２か所「所」「所」	北部埋土下層	PL28
164	土師器	皿	13.4	(1.6)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部に墨書２か所「系」　底部に墨書「王万」	西部埋土中層	PL27
165	土師器	甕	15.0	18.1	[6.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁端部外上方につまみ上げ　体部下端横方向のヘラ削り	西部埋土中層	PL28
166	須恵器	坏	13.5	4.5	7.0	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り　体部下端手持ちヘラ削り	東部埋土中層	PL28
167	須恵器	坏	[13.4]	4.4	7.8	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り	東部埋土下層	缶
168	須恵器	坏	－	(3.0)	6.4	長石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り　体部下端手持ちヘラ削り	西部埋土中層	
169	須恵器	高台付坏	15.6	6.3	7.4	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け	西部底面	PL28

第166号土坑（第92図）

位置　調査区域の南部の東端，Ｅ３ｆ３区。

確認状況　東部が撹乱により壊されており，正確な規模は不明である。

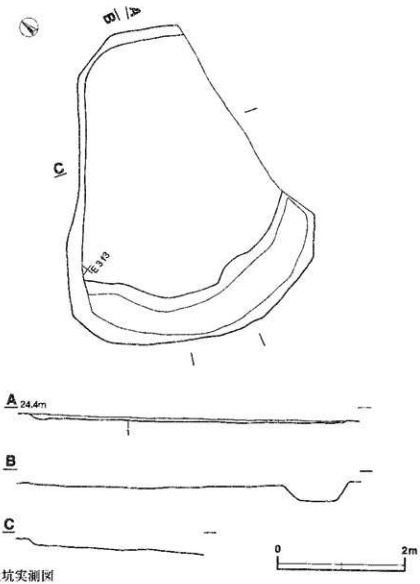
規模と形状　長軸5.02m，確認できた短軸4.0mの長方形と推定され，深さ10cmで，当調査区域内では大形の土坑である。長軸方向は，Ｎ－39°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。南部で長さ3.8m，幅0.7～0.9m，深さ22cmほどの掘り込みが検出されたが，性格等は不明である。

覆土　単一層である。遺存状態が悪く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・白色粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片40点，須恵器片７点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と思われる。



第92図　第166号土坑実測図

第167号土坑（第93図）

位置　調査区域の北端，Ａ２ｅ４区。

確認状況　住居跡として調査を進めたが，床や炉跡などが検出されず土坑とした。

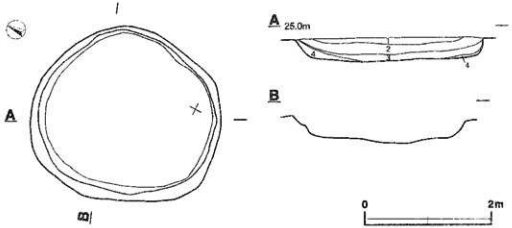
規模と形状　径3.02mほどの不整円形，深さ28cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，粘性あり
3　黒　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック中量，砂粒少量，粘性あり
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　土師器片３点が出土しているが，いずれも細片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から10世紀前葉と思われる。



第93図　第167号土坑実測図

表6　奈良・平安時代土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸方向（数値方位）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
5	C 3 b1		円形	2.20	37	緩斜	平面	自然	土師器片6点	
7	B 2 c7	N 53°－E	楕方形	2.23 × 1.73	30	外傾	平坦	自然	土師器片10点	
10	B 2 g4	N－65°－E	長方形	2.36 × 1.15	58	緩斜	平坦	人為	土師器片20点，須恵器片2点	本跡→SD 1
13	B 2 e9	N－15°－W	長方形	2.34 × 1.05	25	緩斜	平坦	自然	土師器片4点，須恵器片1点	SK 14→本跡
15	B 2 e8	N－9°－W	長方形	1.45 × 0.81	13	緩斜	平坦	自然	土師器片2点，須恵器片1	
17	B 2 c9	N－15°－E	楕円形	2.46 × 1.62	108	外傾	平坦	自然	土師器片3点	
23	B 2 g9		円形	1.24	10	緩斜	平坦	人為	土師器片13点，須恵器片6点	SK-22→本跡
29	D 3 b1		円形	2.0	40	緩斜	平坦	自然	土師器片4点，須恵器片1点	
43	B 2 e3	N－39°－W	楕円形	1.34 × 0.78	58	外傾	平坦	人為	土師器片11点，須恵器片2点	
58	B 2 a7	N－48°－E	楕円形	1.00 × 0.84	11	緩斜	平坦	人為	土師器片22点	SE 7→本跡
61	B 2 b9	N－72°－E	楕円形	0.69 × 0.55	74	垂直	平坦	自然	土師器片1点，須恵器片2点	
67	B 3 i2	N－21°－W	楕円形	1.37 × 0.72	20	緩斜	平坦	人為	須恵器片3点	
88	H 2 b6	N 60°－E	楕円形	1.16 × 0.58	40	外傾	平坦	人為	須恵器片1点	
144	F 3 i2		円形	2.22	84	緩斜	平坦	人為	土師器片22点，須恵器片3点	
162	B 2 c3		円形	2.70	58	外傾	平坦	自然	土師器片35点	
165	E 3 e2	N－60°－E	楕円形	3.65 × 2.42	48	外傾	凹凸	自然	土師器片260点，須恵器片103点，鉄滓3点	
166	E 3 f3	N－39°－E	長方形	5.02 × 4.00	10	緩斜	平坦	不明	土師器片40点，須恵器片7点	
167	A 2 e4		円形	3.02	28	緩斜	平坦	自然	土師器片3点	

(4) 井戸跡

第1号井戸跡（第94図）

位置 調査区域の北部，B 2 b6 区。

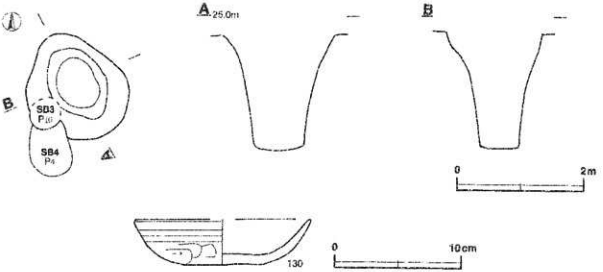
重複関係 本跡の覆土上に第4号掘立柱建物跡のP 4及び第3号掘立柱建物跡のP10が構成されている。

規模と形状 長径1.78m，短径1.54mの楕円形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は，上方は漏斗状を呈し，下方に向かってすぼまる。深さは，1.85mである。長径方向は，N－35°－Wである。

覆土 調査途中で覆土が崩落したため，観察できなかった。

遺物出土状況 土師器片3点が，出土している。第94図P130の土師器坏は，覆土中から出土している。

所見 本跡と第2・3号井戸跡は，調査区域の北西部から南東方向に一直線上に25mの間隔をもって並んでいる。本跡及び第2号井戸跡は平安時代と考えられ，第3号井戸跡は出土遺物がなく時期不明である。本跡の時期は，出土土器から9世紀後葉と思われる。



第94図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
130	土師器	坏	(13.9)	3.6	6.2	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	図.

第2号井戸跡（第95図）

位置 調査区域の北部，A 2 g2 区。

重複関係 東部を第1号溝に掘り込まれている。

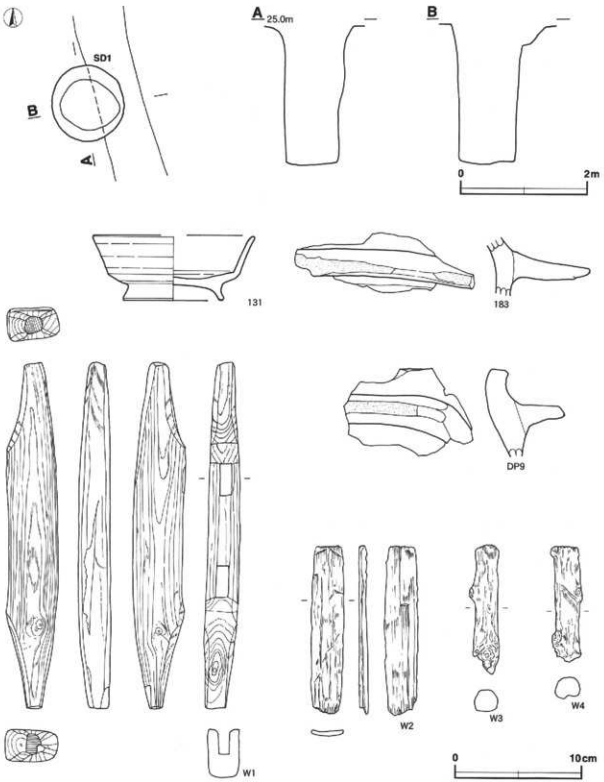
規模と形状 径1.15mほどの円形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は，上方は漏斗状を呈し，確認面から0.35mのところで屈曲して細くなり，下方は径0.85mの円筒状となる。深さは，2.22mである。

覆土 湧水のため上層は，観察できなかった。

遺物出土状況 土師器片7点，須恵器片18点，羽釜1点，置き竈1点，木製の糸巻枠木1点，斎串1点，不明木製品2点が出土している。第95図P131の須恵器高台付坏，P183の羽釜，DP 9の置き竈，W 1の糸巻，W

2の斎串，W3・4の不明木製品は底部付近の覆土中から出土している。

所見　本跡と第1・3号井戸跡は，調査区域の北西部から南東方向に一直線上に25mの間隔をもって並んでいる。本跡及び第1号井戸跡は平安時代と考えられ，第3号井戸跡は出土遺物がなく時期不明である。本跡の時期は，出土土器から9世紀後葉と思われる。



第95図　第2号井戸跡・出土遺物実測図

第２号井戸跡出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
131	須恵器	高台付坏	(13.6)	5.1	8.0	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け 底部内外面ナデ	底部付近覆土中	PL29
183	土師器	甕	－	(4.7)	－	石・砂粒・雲母	橙	普通	胴部内外面ナデ	底部付近覆土中	PL29

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
DP 9	磨き石	(7.0)	(10.3)	(1.6)	(229.3)	長石・石英 にぶい橙	底部は凹む平形　受け部上部に平坦面	底部付近覆土中	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
W 1	米　巻	27.6	4.1	2.5	163.7	マツ	両端はともに 1か所の切欠かり痕跡 両わって割りこみ	覆土中	PL31
W 2	斧　柄	(13.5)	2.7	0.4	(5.5)	スギ	上部 2か所に刻り込み痕	覆土中	PL31
W 3	不明木製品	(10.2)	(2.4)	(1.7)	(7.0)	広葉樹	外面に 1か所加工痕	覆土中	
W 4	不明木製品	(9.3)	(2.5)	(1.7)	(5.8)	広葉樹	外面に 2か所加工痕	覆土中	

第４号井戸跡（第96図）

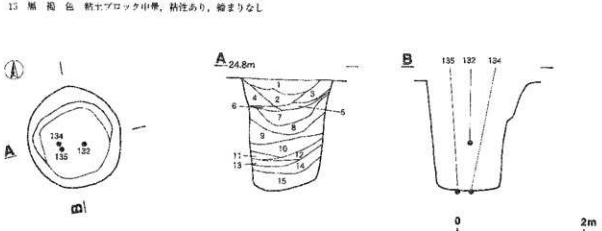
位置　調査区域の中央部，Ｃ２１０区。西側に第５号井戸跡が位置する。

規模と形状　径1.5mほどの円形を呈する素掘りの井戸跡である。底面の形状は，上方でわずかに漏斗状に広がり，下方は径1.16mほどの円筒状を呈する。深さは1.76mである。

覆土　15層からなる。各層がブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

土層所説

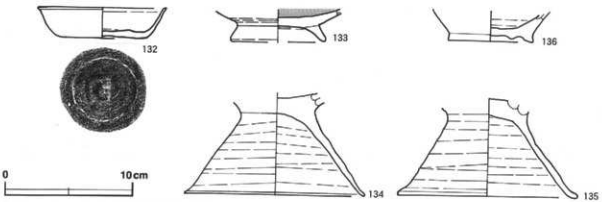
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量，締まりなし
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりなし
4　褐　色　ローム粒子中量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，締まりなし
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，締まりなし
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，締まりなし
8　黒　褐　色　ローム粒子中量，粘性あり，締まりなし
9　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘性あり，締まりなし
10　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性あり，締まりなし
11　褐　色　ローム粒子多量，粘性あり，締まりなし
12　黒　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック中量，粘性あり，締まりなし
13　黒　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック少量，粘性あり，締まりなし
14　黒　褐　色　粘土ブロック少量，粘性あり，締まりなし
15　黒　褐　色　粘土ブロック中量，粘性あり，締まりなし



第96図　第４号井戸跡実測図

遺物出土状況　土師器片16点，須恵器片３点，覆土中層から径40cmほどの石が出土している。第97図Ｐ132の土師器坏は中央部の覆土中層から，Ｐ134の土師器高坏，Ｐ135の土師器高坏は西部の底面から出土している。Ｐ133の土師器椀は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第97図　第４号井戸跡出土遺物実測図

第４号井戸跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
132	土師器	坏	10.2	2.4	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	中央部覆土中層	PL29
133	土師器	椀	－	(2.6)	[7.6]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	
134	土師器	高坏	－	(8.1)	14.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	坏部と脚部に別に成形　内外面に強いロクロ目	西部底面	PL29
135	土師器	高坏	－	(7.8)	14.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部と脚部に別に成形　内外面に強いロクロ目	西部底面	PL29
136	灰釉陶器	長頸瓶	－	(2.5)	6.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部切り離し後，高台貼り付け	覆土中	

第５号井戸跡（第98図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｈ８区。東側に隣接して第４号井戸跡が位置する。

重複関係　上部全体が，第１号溝に掘り込まれている。

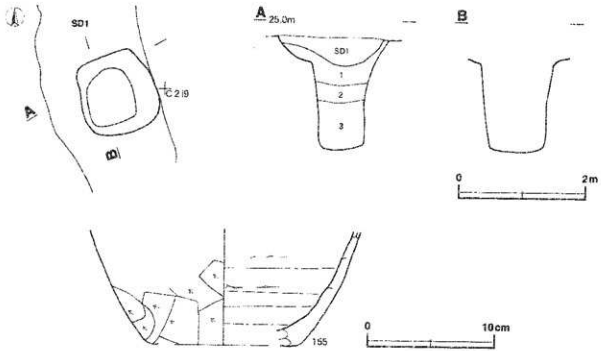
規模と形状　一辺1.28mほどの方形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は，上方は漏斗状を呈し，下方は長径0.86，短径0.76mの円筒状を呈する。深さは1.78mである。

覆土　３層からなる。各層にロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片４点，須恵器片１点が出土している。第98図Ｐ155の須恵器甕は，覆土中から出土している。

所見　当初は土坑として調査したが，掘り進めた結果，規模や形状から井戸跡とした。時期は，出土遺物から９世紀中葉と思われる。



第98図　第5号井戸跡・出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
155	須恵器	甕	－	（9.1）	12.4	長石・石英	灰	普通	体部下端横方向のヘラ削り	覆土中	

表7　奈良・平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径（m）	深さ（m）	断面	出土遺物	備考 遺構番号（通し番）
1	B2b6	N－35°－W	楕円形	1.78×1.54	1.85	（上部）楕円状（下部）円筒状	土師器片3点	本跡→SB3-1
2	A2g2	－	円形	1.15	2.22	（上部）漏斗状（下部）円筒状	須恵器底部片、瓦質土師器片、土師器小型壺片	本跡→SD-1
4	C2i0	－	円形	1.50	1.75	（上部）漏斗状（下部）円筒状	土師器片16点、須恵器片3点、石1点	
5	C2h8	－	方形	1.28	1.78	（上部）漏斗状（下部）円筒状	土師器片1点、須恵器片1点	本跡→SD-1

(5) 溝

第１号溝（第99図）

位置　調査区域の北部から南部，Ａ２ｃ２～Ｅ３ｃ４区。調査区域内を北西から南東方向にほぼ直線的に延びる。

重複関係　北側・南側とも調査区域外に延びている。第13号住居跡の西部，第25号住居跡の中央部，第10号土坑，第２号井戸跡，第５号井戸跡を掘り込んでいる。また，時期不明の第11号掘立柱建物跡及び第25号土坑に掘り込まれている。

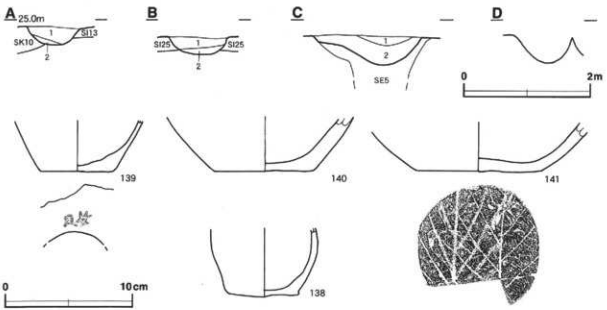
規模と形状　北側・南側とも調査区域外に延びているため，確認できた長さは163.5mで，上幅0.4～1.8m，下幅0.1～0.3m，深さは24～44cmである。断面形はＵ字形である。Ｅ３ｃ４区から北西（Ｎ－13°－Ｗ）に直線的に延びる。

覆土　Ａ・Ｂ・Ｃ断面とも２層に分層される。いずれもレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

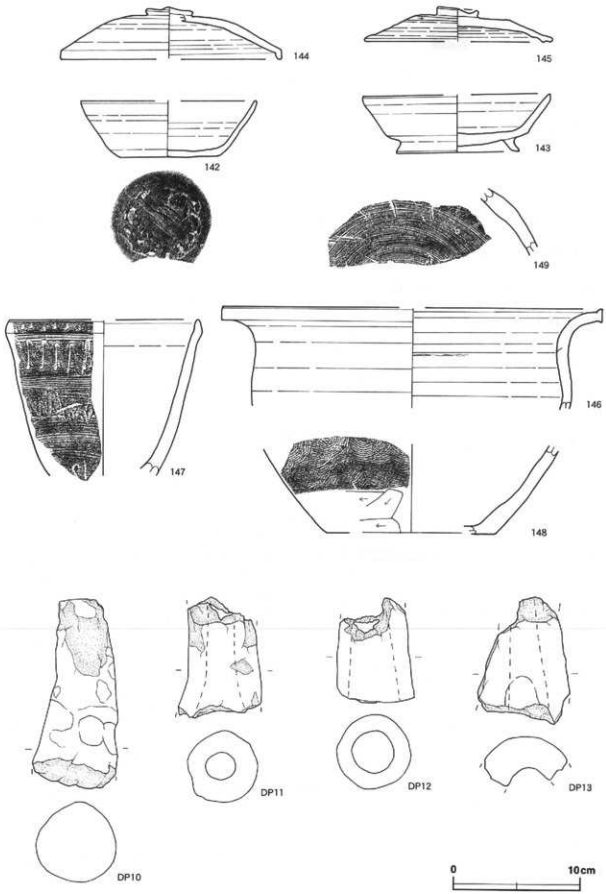
Ａ断面土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
Ｂ断面土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量，締まりなし
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
Ｃ断面土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片1,055点，須恵器片94点，土製支脚１点，土製羽口４点，土製紡錘車１点，鉄滓49点が出土している。遺物は，遺構全体の各層から多量に出土している。第99図Ｐ138・140の土師器甕，第100図Ｐ144の須恵器蓋，Ｐ146・148の須恵器甕，Ｐ147の鉢，第101図DP15の土製紡錘車はいずれも北部の覆土下層から出土している。これ以外の遺物は，中央部から南部にかけての覆土中から出土している。

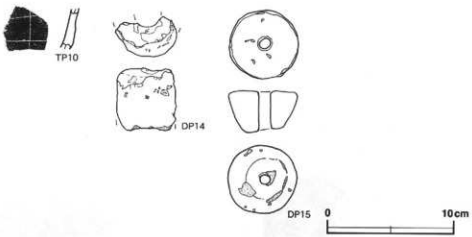
所見　本跡は，調査区域内をほぼ南北に直線的に走る。全体的に浅いが，北部が比較的深く，南部にいくほど浅くなる。当遺跡周辺は微高地で，斜面に沿って直線的に構築されていることから，何らかを区画する溝の可能性が高い。本跡は，出土土器から９世紀後葉には存在していたものと考えられる。



第99図　第１号溝・出土遺物実測図



第100図　第１号溝出土遺物実測図



第101図　第１号溝出土遺物実測図

第１号溝出土遺物観察表（第99～101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
138	土師器	小形甕	－	（5.4）	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	外面被熱による剥離のため底形不明　内面ナデ	北部覆土下層	
139	土師器	小形甕	－	（4.1）	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内外面ナデ，底部木葉痕	北部覆土下層	PL29
140	土師器	甕	－	（4.3）	8.0	長石・石英	にぶい橙	普通	底部一方向の手持ちヘラ削り	北部覆土下層	
141	土師器	甕	－	（3.9）	10.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部木葉痕	覆土中	
142	須恵器	坏	［14.0］	4.5	7.6	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラナデ	覆土中	PL29
143	須恵器	高台付坏	［14.3］	4.6	9.7	長石	灰	普通	高台はハの字状に開く	覆土中	
144	須恵器	蓋	［17.5］	4.2	－	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁端部は真下に垂下	北部覆土下層	PL29
145	須恵器	蓋	［15.1］	2.8	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁内部に短いかえり	覆土中	PL29
146	須恵器	甕	［30.4］	（7.9）	－	長石・石英	灰白	普通	体部内面に輪積み痕	北部覆土下層	PL28
147	須恵器	鉢	［15.3］	（12.3）	－	長石	灰	普通	外面に7本単位の櫛刷毛工具による波状文と櫛点文	北部覆土下層	PL29
148	須恵器	甕	－	（7.1）	［13.6］	長石・雲母	褐灰	普通	外面に同心円状の叩き	北部覆土下層	
149	須恵器	横瓶	－	（5.7）	－	長石・石英	灰	普通	外面に同心円状のカキ目	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
TP10	須恵器	坏	－	（3.3）	－	外面にヘラ記号	長石	褐灰	普通	覆土中	

番号	器種	計測値 径	計測値 長さ	計測値 重量(g)	胎土・色調	特徴	出土位置	備考
DP10	支脚	6.8	(15.2)	(512.5)	長石・石英　にぶい橙	外面被熱による剥離	覆土中	PL32

番号	器種	計測値 径	計測値 長さ	計測値 孔径	計測値 重量(g)	胎土・色調	特徴	出土位置	備考
DP11	羽口	（5.8）	（9.6）	4.2	(267.3)	長石　にぶい橙	先端部灰褐色に変化	覆土中	PL32
DP12	羽口	6.2	（8.3）	4.2	(204.4)	長石　にぶい橙	先端部灰褐色に変化	覆土中	PL32
DP13	羽口	（7.4）	(10.1)	3.3	(210.5)	長石・石英　明赤褐	外面ナデ	覆土中	
DP14	羽口	（4.8）	（4.9）	（2.0）	(41.2)	長石・石英　黄橙	先端部はガラス質で灰褐色に変化	覆土中	

番号	器種	計測値 径	計測値 厚さ	計測値 孔径	計測値 重量(g)	胎土・色調	特徴	出土位置	備考
DP15	紡錘車	5.5	3.3	1.0	99.0	長石　橙	断面は丸みを持つ逆台形状	北部覆土下層	PL31

4　時期不明の遺構と遺物

当調査区域内の遺構は，耕作による削平によって遺存状態がよくない。また時期を確定できる遺物が出土していないため，時期不明の遺構は，竪穴住居跡３軒，掘立柱建物跡３棟，土坑130基，井戸跡１基，溝３条ある。そのうち土坑については，特徴のあるものや遺存状態の良好なものについて解説し，それ以外は平面図と土層図及び一覧表を掲載する。

(1)　竪穴住居跡

第30号住居跡（第102図）

位置　調査区域の南部，Ｄ２ｇ8 区。

重複関係　南部が第40号住居跡に掘り込まれ，西部が調査区域外となっていることから，遺構全体は検出できなかった。

規模と形状　西部が調査区域外となっていることから，確認できた長軸2.24m，短軸1.92mで，平面形は不明である。長軸方向は，Ｎ－81°－Ｅである。上部は削平されており，壁高は１～３cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

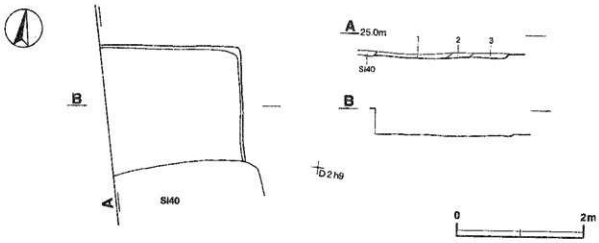
覆土　３層からなる。非常に薄く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，粘性あり
2　灰　褐　色　ロームブロック多量，粘性あり
3　黒　褐　色　ローム粒子多量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　土師器片６点が出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　竈，柱穴などは検出されなかった。時期は，判断できる遺物がなく不明である。



第102図　第30号住居跡実測図

第40号住居跡（第103図）

位置　調査区域の南部，Ｄ２h8区。

重複関係　第30号住居跡の南部を掘り込んでいる。また，西部が調査区域外となっているため，遺構全体は検出できなかった。

規模と形状　西部が調査区域外となっていることから，長軸2.65m，確認できた短軸2.37mで，平面形は不明である。長軸方向は，Ｎ－3°－Ｗである。上部は削平されており，壁高は１～８cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

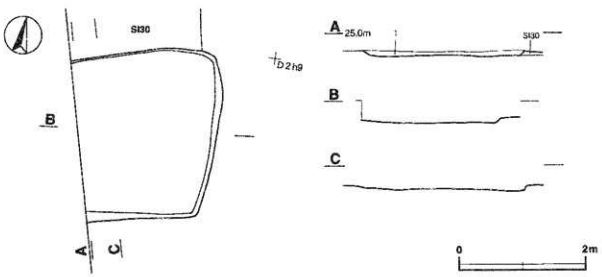
床　平坦である。踏み固められた部分は検出されなかった。

覆土　単一層である。非常に薄く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片５点，須恵器片１点が出土しているが，いずれも細片で図示できなかった。

所見　第30号住居跡同様，覆土が非常に薄い。竈，柱穴などは検出されなかった。時期は，判断できる遺物がなく不明である。



第103図　第40号住居跡実測図

第45号住居跡（第104図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３b3区。

規模と形状　長軸3.94m，短軸3.64mの方形である。主軸方向は，Ｎ－72°－Ｅである。上部は削平されており，壁高は２～５cmで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床　平坦である。踏み固められた部分は，検出されなかった。南西部で焼土塊が少量検出されているが，性格等は不明である。

貯蔵穴　南西コーナー部に付設され，長径68cm，短径56cmの不整楕円形で，深さ30cm，断面形はＵ字形である。

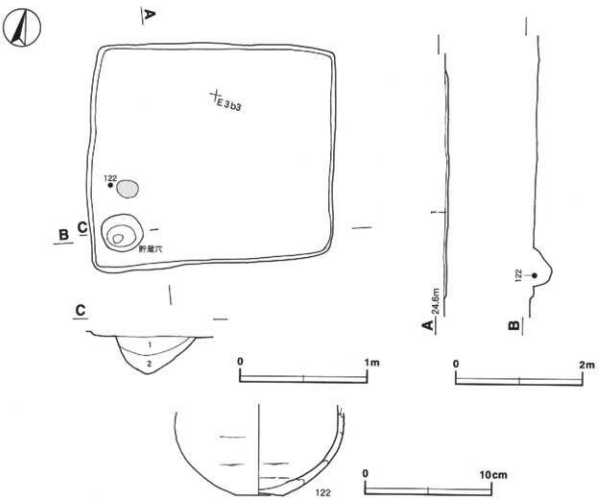
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量，粘性あり
2　極暗褐色　ロームブロック少量

覆土　単一層である。非常に薄く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし

遺物出土状況　土師器片３点が出土している。第104図Ｐ122の土師器甕は，西部の床面から出土している。

所見　土師器の甕が出土しているが，底部から体部にかけての破片で，時期を確定するのは難しく，不明である。



第104図　第45号住居跡・出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
122	土師器	小形甕	－	(7.2)	4.0	長石・石英	にぶい褐	普通	内・外面とも被熱で剥離	西部床面	

表８　時期不明住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設						覆土	出土遺物	重複関係（旧→新）
							壁溝	主柱穴	出入り口ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
30	D 2 g8	N－81°－E	不　明	(2.24)×(1.92)	1～3	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	土師器片６点	本跡→SI-40
40	D 2 h8	N－3°－W	不　明	2.65 ×(2.37)	1～8	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	土師器片５点，須恵器片１点	SI-30→本跡
45	E 3 b3	N－72°－E	方　形	3.94 × 3.64	2～5	平坦	－	－	－	－	－	1	不明	土師器片３点	

(2) 掘立柱建物跡

第11号掘立柱建物跡（第105図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３ａ４区。北側に隣接して第13号掘立柱建物跡が位置している。

重複関係　東側が調査区域外となっている。西側で第１号溝を掘り込んでいる。第13号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じである。

規模と構造　東側が調査区域外となっていることから，確認できた桁行２間，梁行１間の東西棟の側柱建物跡で，桁行はさらに東に延びる可能性がある。規模は確認できた桁行4.90m，梁行3.02mで，面積は不明である。桁行方向は，Ｎ－79°－Ｅである。柱間寸法は桁行2.12～2.14m，梁行3.10mで，確認された柱穴はほぼ規則的に配置され，柱筋はおおむね芯々を通っている。

柱穴　確認できた柱穴は６か所である。Ｐ１～３，Ｐ６は径76～95cmの不整円形，深さ10～43cmである。Ｐ４・５は長径80～95cm，短径72～79cmの不整楕円形，深さ37cmである。

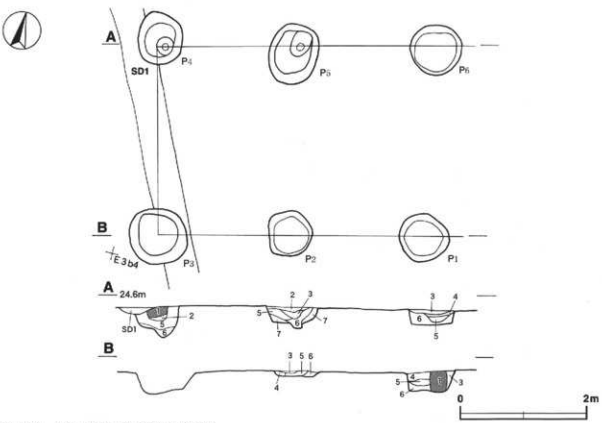
覆土　柱抜き取り痕はＰ１で確認され，ロームブロックや焼土粒子を含む第１層が相当する。その他の土層は，埋土にあたる。柱の太さは，20cm前後と推定される。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，締まりあり
6　黒　褐　色　ロームブロック多量，粘性あり
7　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片１点がＰ６の埋土内から出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　時期は，判断できる土器がなく不明である。



第105図　第11号掘立柱建物跡実測図

第14号掘立柱建物跡（第106図）

位置　調査区域の南部，Ｄ２ｆ０区。東側に第10号掘立柱建物跡，南側に第９号掘立柱建物跡が位置している。

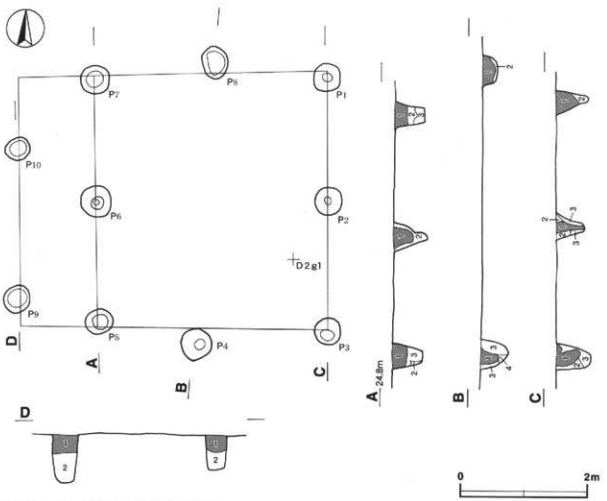
規模と構造　桁行２間，梁行２間の南北棟の側柱建物跡で，西側に庇を持っている。規模は桁行4.12m，梁行3.56m，面積15.67㎡，庇の出は1.20mである。桁行方向は，Ｎ－０°である。身舎の柱間寸法は，桁行1.96～2.16m，梁行1.58～1.98mで，梁行は柱穴の配置が不揃いである。庇の柱穴は２か所検出され，柱間寸法は2.36mである。

柱穴　柱穴は10か所で，身舎の柱穴は，Ｐ１～８，庇の柱穴はＰ９・10である。Ｐ１～７は径44～50cmの不整円形，深さ21～67cmである。Ｐ８は長径50cm，短径40cmの不整楕円形，深さ31cmである。Ｐ９・10は径36～40cmの不整円形，深さ60～93cmである。庇の柱穴の掘り方は，深くしっかりしている。

覆土　柱抜き取り痕はすべての柱穴で確認され，ロームブロックを含む黒褐色土の第１層が相当する。その他の土層は，埋土と考えられる。粘性は普通で，強く突き固められた形跡はない。柱の太さは，15cm前後と推定される。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりなし
4　暗　褐　色　ロームブロック中量



第106図　第14号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片１点がＰ５の埋土内から出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　時期は，判断できる土器がなく不明である。

第15号掘立柱建物跡（第107図）

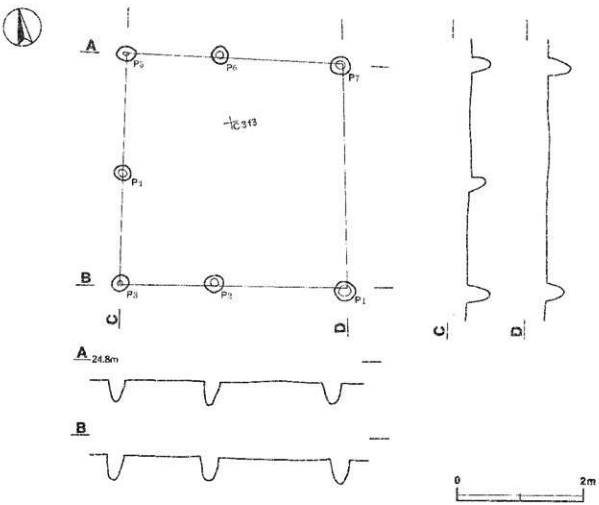
位置　調査区域の南部，C３f２区。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の南北棟の掘柱建物跡である。規模は桁行3.68m，梁行3.60m，面積13.25㎡である。桁行方向は，N－12°－Eである。柱間寸法は桁行1.78～1.90m，梁行1.50～1.96mで，柱筋はおおむね芯々を通っている。

柱穴　柱穴は７か所で，Ｐ１・３，４～７が長径26～35cm，短径23～25cmの不整楕円形，深さ26～40cmである。Ｐ２は径29cmの不整円形，深さ36cmである。攪乱を受けており，土層の観察はできなかった。

遺物出土状況　出土していない。

所見　当調査区域内の他の掘立柱建物跡と比べ，柱穴は小ぶりで浅い。時期は，遺物がなく不明である。



第107図　第15号掘立柱建物跡実測図

表９　時期不明掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁×梁（間）	規模（m）	桁行方向	柱間 桁行間(cm)	柱間 梁行間(cm)	造	構造	柱穴(cm) 平面形	柱穴(cm) 長径×短径	柱穴(cm) 深さ	出土遺物	備考 新旧関係（旧→新）
14	E３a4	２×１	4.50×3.02	N－79°－E	2.12～2.14	3.10	不明	掘柱	楕円形，円形	80～95	72～79	10～43	上師器片１	SD１→６跡
15	C３f２	２×２	3.68×3.60	N－12°－E	1.78～1.90	1.50～1.96	13.27	掘柱	楕円形，円形	40～50	40～44	21～67	土師器片１	

(3) 土坑

第1号土坑（第108図）

位置 調査区域の北部，A 2 h7 区。

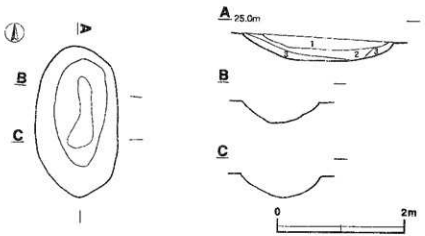
規模と構造 長径2.40m，短径1.31mの不整楕円形で，深さ35cmである。長径方向は，N－1°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2 暗 褐 色 ローム粒子微量，粘性・締まりあり
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

遺物出土状況 遺物は，出土していない。

所見 時期は，遺物がなく不明である。



第108図 第1号土坑実測図

第2号土坑（第109図）

位置 調査区域の北部，B 2 a6 区。第4・5・6号住居跡の南側，第2・3・4・5号掘立柱建物跡の北側に位置している。また，西側6mほどのところに第3号土坑が位置している。

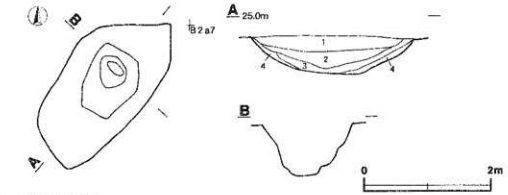
規模と構造 長径2.88m，短径1.47mの不整楕円形で，深さ83cmである。長径方向は，N－44°－Eである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，粘性・締まりあり
3 暗 褐 色 ローム粒子少量，粘性・締まりあり
4 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

遺物出土状況 遺物は，出土していない。

所見 本跡と第3号土坑は，第4～6号住居跡と第2～5号掘立柱建物跡に挟まれるように，東西に並んで位置する。時期は，遺物がなく不明である。



第109図　第２号土坑実測図

第３号土坑（第110図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｂ4 区。第４～６号住居跡の南側，第２～５号掘立柱建物跡の北側に位置している。また，東側６ｍほどのところに第２号土坑が位置している。

規模と構造　長径2.57m，短径1.44mの不整楕円形で，深さ82cmである。長径方向は，Ｎ－11°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面の中央部に，長径30cm，短径15cm，深さ20cmほどの楕円形を呈する掘り込みが検出されたが，性格等は不明である。

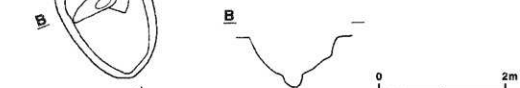
覆土　５層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2　黒　褐　色　ローム粒子多量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりあり
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘性・締まりあり
5　明　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　本跡と第２号土坑は，第４・５・６号住居跡と第２・３・４・５号掘立柱建物跡に挟まれるように，東西に並んで位置する。時期は，遺物がなく不明である。



第110図　第３号土坑実測図

第６号土坑（第111図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｈ２区。.

規模と形状　径1.26mほどの不整円形で，深さ46cmである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

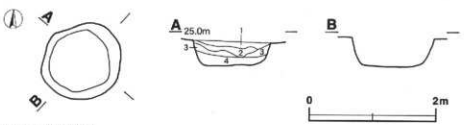
覆土　４層からなる。ロームブロックや焼土粒子，炭化物などを含み，不自然な堆積状況から人為堆積の可能性が高い。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化材微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片５点が覆土中から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはなかった。

所見　断面は逆台形を呈し，掘り方もしっかりしている。時期は，土師器片が覆土中から出土しているが，この土師器の時期を判断するのは難しく不明である。



第111図　第６号土坑実測図

第８号土坑（第112図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｈ３区。東側に隣接して弥生時代後期と思われる第１号住居跡が位置している。

規模と構造　長軸1.62m，短軸1.12mの長方形で，深さ10cmである。長軸方向は，Ｎ－３°－Ｗである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

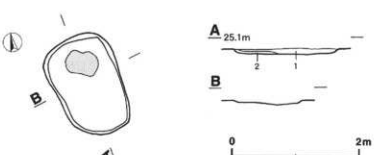
覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　床面の北部から焼土塊が検出されているが，詳細は不明である。遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第112図　第８号土坑実測図

第14号土坑（第113図）

位置　調査区域の北部，B 2 c0 区。

重複関係　東部を第13号土坑に掘り込まれている。

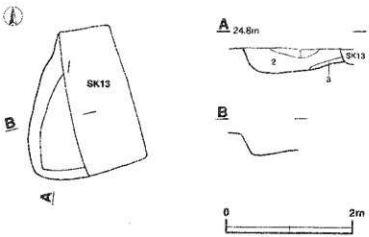
規模と構造　東部を第13号土坑に掘り込まれているため，確認できた長軸2.35m，確認できた短軸0.8mで長方形と推定され，深さ36cmである。長軸方向は，N－16°－Eと推定される。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，平安時代の第13号土坑に掘り込まれていることから，平安時代以前と思われるが，遺物がなく確定するのは難しい。



第113図　第14号土坑実測図

第22号土坑（第114図）

位置　調査区域の北部，B 2 g9 区。

重複関係　南東部を第23号土坑に掘り込まれている。

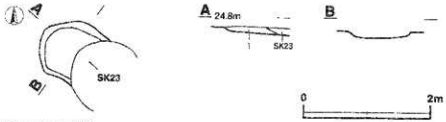
規模と構造　長径0.99m，確認できた短径0.63mで小整楕円形と推定され，深さ10cmである。長径方向は，N－49°－Eと推定される。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　単一層である。焼土粒子やロームブロックを含んでいるが，単一層で自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量，粘性なし

遺物出土状況　土師器片1点が覆土中から出土しているが，図示できなかった。

所見　時期は，平安時代の第23号土坑に掘り込まれていることから，平安時代以前と思われるが，判断できる土器がなく不明である。



第114図　第22号土坑実測図

第25号土坑（第115図）

位置　調査区域の中央部，C 2 d7 区。本跡の西側に接するように，第 1 号溝が南北に走っている。

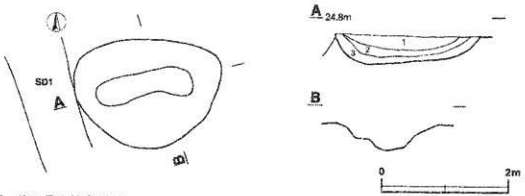
規模と構造　長径2.34m，短径1.79mの不整楕円形で，深さ43cmである。長径方向は，N－78°－Eである。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3 層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第115図　第25号土坑実測図

第32号土坑（第116図）

位置　調査区域の南部，D 2 e8 区。

確認状況　南部を第143号土坑に掘り込まれている。また東側に隣接して，規模がほぼ同じ第33号土坑が，東西に並ぶように位置している。

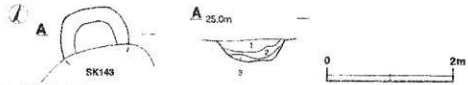
規模と構造　南部を第143号土坑に掘り込まれている。径1.10mほどの不整円形と推定され，深さは35cmである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3 層からなる。ロームブロックを含んでおり，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片１点，須恵器片１点が出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　時期は，土器がいずれも覆土中からの出土であり不明である。



第116図　第32号土坑実測図

第33号土坑（第117図）

位置　調査区域の南部，Ｄ２ｅ9区。西側に隣接して，規模がほぼ同じ第32号土坑が，東西に並ぶように位置している。

重複関係　南西部が第143号土坑に掘り込まれている。

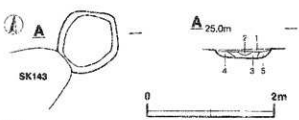
規模と構造　南西部が第143号土坑に掘り込まれているが，径0.98ほどの不整円形と推定され，深さは15cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　５層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量，粘性・締まりなし
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片１点が覆土中から出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　土師器片１点が覆土中から出土しているが，時期を確定するのは難しい。



第117図　第33号土坑実測図

第37号土坑（第118図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｆ6区。

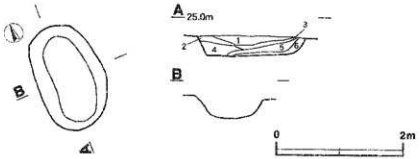
規模と構造　長径1.71m，短径1.08mの不整楕円形で，深さ34cmである。長径方向は，N－4°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　6層からなる。ロームブロックや焼土粒子，炭化物を含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物微量，粘まりあり
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量，締まりあり
4　黒　褐　色　ロームブロック微量，締まりあり
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，粘性・締まりあり
6　灰　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第118図　第37号土坑実測図

第42号土坑（第119図）

位置　調査区域の北部，B 2 d3 区。

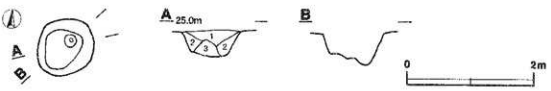
規模と構造　径0.88mほどの不整円形で，深さ52cmである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子などを含み，ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，締まりなし
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，締まりなし
3　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子少量

遺物出土状況　土師器片1点が覆土中から出土しているが，図示できなかった。

所見　土師器片1点が覆土中から出土しているが，時期は確定できない。



第119図　第42号土坑実測図

第55号土坑（第120図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｉ６区。

重複関係　第89号土坑を掘り込んでいる。また，上部の大部分を第16号住居に，南東部を第15号住居に掘り込まれている。

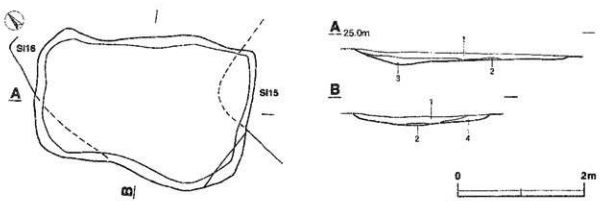
規模と構造　上部の大部分が第16号住居に掘り込まれているが，長軸3.45m，短軸2.18mの長方形と推定され，深さ26cmである。長軸方向は，N－46°－Wと推定される。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘性・締まりあり
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりあり
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　平安時代の第15・16号住居に掘り込まれていることから，平安時代以前のものと思われるが，遺物がなく不明である。



第120図　第55号土坑実測図

第77号土坑（第121図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ２ｃ６区。本跡の周辺には，第78・79・81～84・90号土坑が集中して位置し，本跡及び第78・79・81・83号土坑は平面形が長方形である。

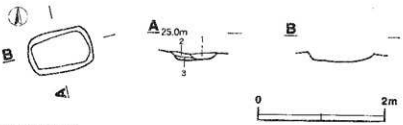
規模と構造　長軸1.04m，短軸0.69mの長方形で，深さ10cmである。長軸方向は，N－76°－Eである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2　黒　褐　色　ロームブロック微量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりなし

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　本跡の周辺から，長軸1.0～1.3m，短軸0.6～0.8mほどの長方形の土坑が5基ほど検出された。本跡及び第78号土坑は長軸方向がほぼ東西，第79・81・83号土坑は長軸方向がほぼ南北である。このような土坑は当調査区域内では他にみられず，墓壙の可能性も考えられるが詳細は不明である。時期は，遺物がなく不明である。



第121図　第77号土坑実測図

第78号土坑（第122図）

位置　調査区域の中央部，C 2 c5 区。本跡の周辺には，第77・79・81～84・90号土坑が集中して位置し，本跡及び第77・79・81・83号土坑は平面形が長方形を呈する。

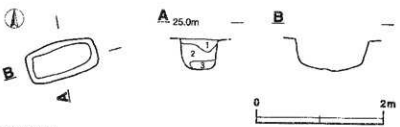
規模と構造　長軸1.13m，短軸0.58mの長方形で，深さ48cmである。長軸方向は，N－72°－Eである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は，一部に凹凸がある。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片1点が出土しているが，図示できなかった。

所見　本跡の周辺から，長軸1.0～1.3m，短軸0.6～0.8mほどの長方形の土坑が5基ほど検出された。本跡及び第77号土坑は長軸方向がほぼ東西，第79・81・83号土坑は長軸方向がほぼ南北である。このような土坑は当調査区域内では他に見られず，墓壙の可能性も考えられるが詳細は不明である。土師器片1点が覆土中から出土しているが，時期を確定するのは難しく不明である。



第122図　第78号土坑実測図

第79号土坑（第123図）

位置　調査区域の中央部，C 2 d5 区。本跡の周辺には，第77・78・81～84・90号土坑が集中して位置し，本跡及び第77・78・81・83号土坑は平面形が長方形を呈する。

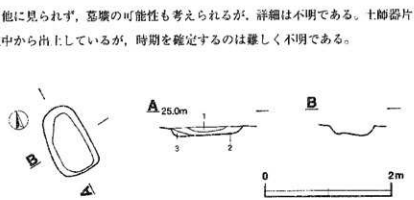
規模と構造　長軸1.14m，短軸0.67mの長方形で，深さ16cmである。長軸方向は，N－10°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし

遺物出土状況　土師器片1点，須恵器片2点，鉄滓1点が，いずれも覆土中から出土している。遺物は，細片で図示できなかった。

所見　本跡の周辺から，長軸1.0～1.3m，短軸0.6～0.8mほどの長方形の土坑が5基ほど検出された。第77・78号土坑は長軸方向がほぼ東西，本跡及び第81・83号土坑は長軸方向がほぼ南北である。このような土坑は当調査区域内では他に見られず，墓壙の可能性も考えられるが，詳細は不明である。土師器片1点，須恵器2点，鉄滓1点が覆土中から出土しているが，時期を確定するのは難しく不明である。



第123図　第79号土坑実測図

第81号土坑（第124図）

位置　調査区域の中央部，C 2 d 5 区。本跡の周辺には，第77～79・82～84・90号土坑が集中して位置し，本跡及び第77～79・83号土坑は平面形が長方形を呈する。

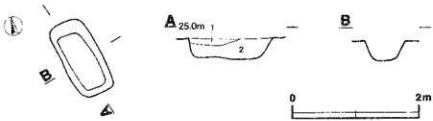
規模と構造　長軸1.32m，短軸0.66mの長方形で，深さ32cmである。長軸方向は，N－18°－Wである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含んでおり，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりなし

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　本跡の周辺から，長軸1.0～1.3m，短軸0.6～0.8mほどの長方形の土坑が5基ほど検出された。第77・78土坑は長軸方向がほぼ東西，本跡及び第79・83号土坑は長軸方向がほぼ南北である。このような土坑は当調査区域内では他に見られず，墓壙の可能性も考えられるが，詳細は不明である。時期は，遺物がなく不明である。



第124図　第81号土坑実測図

第83号土坑（第125図）

位置　調査区域の中央部，C 2 d5 区。本跡の周辺には，第77～79・81・82・84・90号土坑が集中して位置し，本跡及び第77～79・81号土坑は平面形が長方形である。

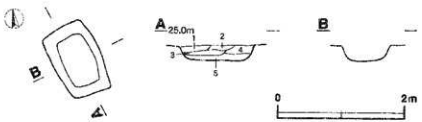
規模と構造　長軸1.16m，短軸0.78mの長方形で，深さ25cmである。長軸方向は，N－18°－Wである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　5層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりなし
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりなし

遺物出土状況　土師器片1点が覆土中から出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　本跡の周辺から，長軸1.0～1.3m，短軸0.6～0.8mほどの長方形の土坑が5基ほど検出された。第77・78号土坑は長軸方向がほぼ東西，本跡及び第79・81号土坑は長軸方向がほぼ南北である。このような土坑は当調査区域内では他に見られず，墓壙の可能性も考えられるが，詳細は不明である。土師器片1点が出土しているが，時期を確定するのは難しく不明である。



第125図　第83号土坑実測図

第84号土坑（第126図）

位置　調査区域の中央部，C 2 d5 区。本跡の周辺には，第77～79・81～83・90号土坑が集中して位置する。

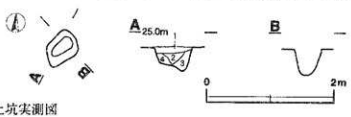
規模と構造　長径0.56m，短径0.46mの不整楕円形で，深さ42cmである。長径方向は，N－20°－Eである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　4層からなる。ロームブロックなどを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりなし
3　暗　褐　色　ロームブロック微量，粘性・締まりなし
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片1点が覆土中から出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　土師器片1点が出土しているが，覆土中からの出土で時期を確定することは難しく不明である。



第126図　第84号土坑実測図

第89号土坑（第127図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｉ６区。

重複関係　上部に，第55号土坑，第16号住居が構築されている。

規模と構造　長径1.76m，短径0.88mの不整楕円形で，深さ39cmである。長径方向は，Ｎ－58°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

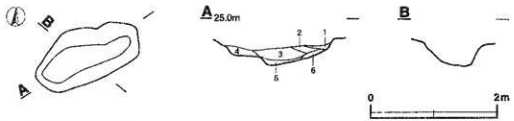
覆土　6層からなる。ロームブロックや焼土粒子などを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量，粘性なし
2　暗褐色　ロームブロック多量，焼土粒子微量，締まりあり
3　黒褐色　ローム粒子微量，粘性なし
4　暗褐色　ローム粒子微量，粘性なし，締まりあり
5　暗褐色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり
6　褐　色　ロームブロック多量，粘性あり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第127図　第89号土坑実測図

第97号土坑（第128図）

位置　調査区域の中央部，Ｃ３ｄ１区。

規模と構造　長径1.34m，短径0.94mの不整楕円形で，深さ22cmである。長径方向は，Ｎ－77°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

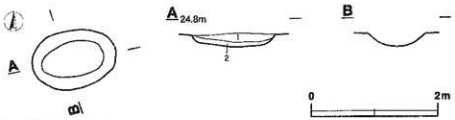
覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第128図　第97号土坑実測図

第112号土坑（第129図）

位置　調査区域の中央部，C 2 h8 区。東側に接するように，第 1 号溝が南北に走っている。

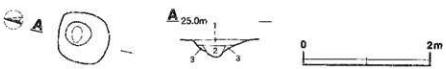
規模と構造　径0.78mほどの不整円形で，深さ28cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。ロームブロックなどを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第129図　第112号土坑実測図

第114号土坑（第130図）

位置　調査区域の中央部，C 2 h7 区。

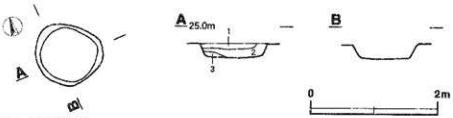
規模と構造　径1.0mほどの不整円形で，深さ25cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片 1 点が出土しているが，破片で図示できなかった。

所見　時期は，遺物が 1 点だけで確定することが難しく不明である。



第130図　第114号土坑実測図

第116号土坑（第131図）

位置　調査区域の中央部，C 2 i 8 区。北西部を第115号土坑に掘り込まれている。

重複関係　北西部を第115号土坑に掘り込まれている。

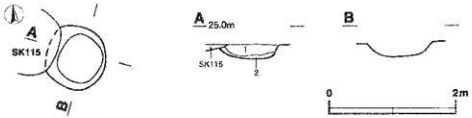
規模と構造　径0.98mほどの不整円形と推定され，深さは22cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第131図　第116号土坑実測図

第117号土坑（第132図）

位置　調査区域の中央部，C 2 i 7 区。

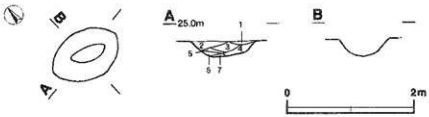
規模と構造　長径1.15m，短径0.80mの不整楕円形で，深さ29cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。長径方向は，N－77°－Wである。

覆土　7層からなる。ロームブロックを含み，ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第132図　第117号土坑実測図

第120号土坑（第133図）

位置　調査区域の中央部，D２a6 区。西部が調査区域外となっている。

規模と構造　西側が調査区域となっていることから，確認できた南北軸1.60m，東西軸0.75m，深さ68cmで，平面形は不明である。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。南北軸方向は，不明である。

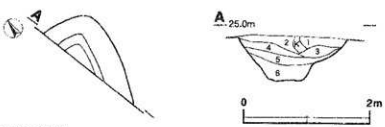
覆土　6層からなる。ロームブロックを含み，またブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐	色	ロームブロック少量
2	黒褐	色	ローム粒子少量
3	暗褐	色	ロームブロック中量
4	黒褐	色	ロームブロック微量
5	暗褐	色	ロームブロック中量
6	黒褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第133図　第120号土坑実測図

第122号土坑（第134図）

位置　調査区域の中央部，D２a7 区。

規模と構造　長径0.78m，短径0.51mの不整楕円形で，深さ28cmである。長径方向は，N－78°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

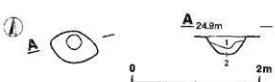
覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1	黒	色	ロームブロック少量
2	暗褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第134図　第122号土坑実測図

第123号土坑（第135図）

位置　調査区域の中央部，Ｄ２ａ8 区。

重複関係　古墳時代のものと思われる第35号住居跡の北部を掘り込んでいる。

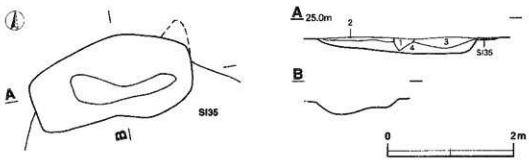
規模と構造　長軸2.59m，短軸1.36mの長方形で，深さ25cmである。長軸方向は，Ｎ－75°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　4層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　古墳時代後期の第35号住居跡を掘り込んでおり，古墳時代後期以降のものと思われるが，遺物がなく時期を確定するのは難しい。



第135図　第123号土坑実測図

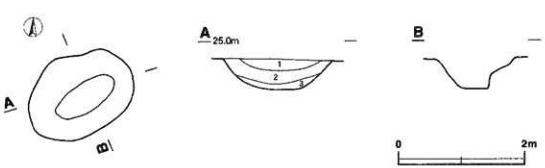
第124号土坑（第136図）

位置　調査区域の中央部，Ａ２ｂ8 区。

規模と構造　長径1.78m，短径1.34mの不整楕円形で，深さ50cmである。長径方向は，Ｎ－60°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘性・締まりあり



第136図　第124号土坑実測図

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。

第126号土坑（第137図）

位置　調査区域の中央部，D２b8区。第35号住居跡の南西コーナー部に接するようにして位置する。

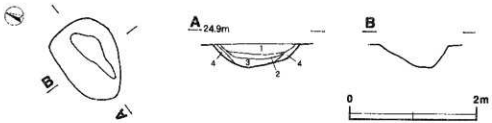
規模と構造　長径1.37m，短径0.98mの不整楕円形で，深さ35cmである。長径方向は，N－31°－Eである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第137図　第126号土坑実測図

第132号土坑（第138図）

位置　調査区域の南部，D２f8区。

重複関係　平安時代の第37号住居跡の北西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と構造　長径0.97m，短径0.75mの不整楕円形で，深さ70cmである。長径方向は，N－65°－Eである。壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　４層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

第138図　第132号土坑実測図

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，平安時代の第37号住居跡を掘り込んでいることから，平安時代以降と思われるが，遺物がなく確定するのは難しい。

第141号土坑（第139図）

位置　調査区域の南部，D3i4区。

重複関係　上部を第164号土坑に掘り込まれている。

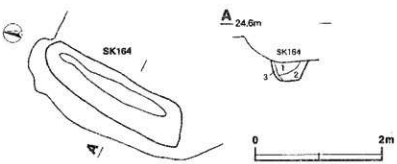
規模と構造　長径2.54m，短径0.68mの不整楕円形で，確認できた深さは30cmである。長径方向は，N－27°－Eである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含み，またブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量，粘性あり
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，締まりなし

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第139図　第141号土坑実測図

第142号土坑（第140図）

位置　調査区域の南部，E2e0区。

確認状況　西側が，調査区域外になっている。

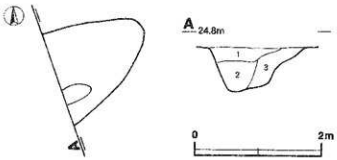
規模と構造　西側が調査区域外になっていることから，確認できた長径1.64m，短径1.48mで不整楕円形と推定され，深さは70cmである。長径方向は，N－64°－Eである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含み，またブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　明　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片3点が覆土中から出土しているが，細片で図示できなかった。

所見　土師器片が覆土中から出土しているが，細片で時期を確定するのは難しい。



第140図　第142号土坑実測図

第143号土坑（第141図）

位置　調査区域の南部，D２e8区。

重複関係　第32号土坑の南部及び第33号土坑の西部を掘り込んでいる。

規模と構造　長径3.88m，短径1.30mの不整楕円形で，深さ100cmである。長径方向は，N－37°－Eである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

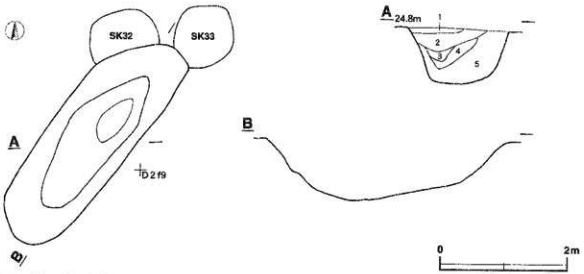
覆土　5層からなる。ロームブロックを含み，またブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片１点，須恵器片１点が覆土中から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，確定できる遺物がなく不明である。



第141図　第143号土坑実測図

第147号土坑（第142図）

位置　調査区域の北部，Ｂ２ｂ7区。

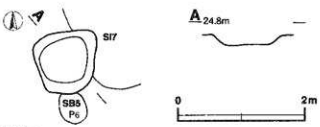
重複関係　第７号住居跡の西部及び第５号掘立柱建物跡のＰ６を掘り込んでいる。

規模と構造　長軸1.0m，短軸0.95mの方形で，深さ16cmである。長軸方向は，Ｎ－15°－Ｗである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　大部分が撹乱を受けており，土層の観察はできなかった。

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明であるが，平安時代の第７号住居跡や第５号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから，平安時代以降と考えられる。



第142図　第147号土坑実測図

第148号土坑（第143図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｉ4区。第13号掘立柱建物跡の北側に位置している。また北部で，第164号土坑と接している。

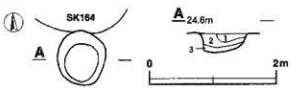
規模と構造　径0.86mほどの不整円形で，深さ30cmである。壁は，外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量，締まりあり
2　黒　褐　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック多量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第143図　第148号土坑実測図

第152号土坑（第144図）

位置　調査区域の南部，Ｅ３ｄ4区。

確認状況　東部が調査区域外になっていることから，全体は検出できなかった。

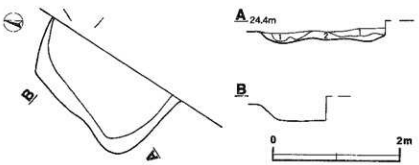
規模と構造　東部が調査区域外となっているため，長軸2.42m，確認できた短軸1.17mで長方形と推定され，深さ30cmである。長軸方向は，N－31°－Eと推定される。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　にぶい褐色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片1点が覆土中から出土しているが，破片で図示できるものはなかった。

所見　土師器片1点が覆土中から出土しているが，時期は確定するのが難しく不明である。



第144図　第152号土坑実測図

第153号土坑（第145図）

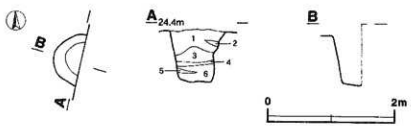
位置　調査区域の南部，E 3 g 3 区。

確認状況　東部が調査区域外になっている。

規模と構造　東部が調査区域外になっているため，確認できた長径0.84m，短径0.46mで平面形は不明で，深さ80cmである。長径方向は，N－15°－Eと推定される。壁は，外傾して立ち上がる。断面は逆台形状で，底面は平坦である。

覆土　6層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを含み，またブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，砂粒微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　　色　ロームブロック微量，締まりなし
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，締まりなし
5　黒　　色　ロームブロック微量，締まりなし
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，締まりなし



第145図　第153号土坑実測図

遺物出土状況　土師器片１点，須恵器片１点が覆土中から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはなかった。

所見　時期は，確定できる遺物がなく不明である。

第156号土坑（第146図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｊ4 区。

重複関係　第157号土坑の西部及び第４号溝の南部を掘り込んでいる。

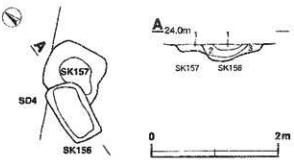
規模と構造　長軸0.94m，短軸0.44mの長方形で，深さ27cmである。長軸方向は，Ｎ－19°－Ｅである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム ブロック中量，締まりなし
2　褐 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子多量，締まりなし
3　黒　褐　色　ローム ブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。



第146図　第156・157号土坑実測図

第157号土坑（第146図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｊ4 区。

重複関係　第４号溝の南部を掘り込み，西部が第156号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　西部が第156号土坑に掘り込まれていることから，長軸0.95m，確認できた短軸0.85mで長方形と推定され，深さ10cmである。長軸方向は，Ｎ－２°－Ｅと推定される。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　単一層で，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量，締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，遺物がなく不明である。

第163号土坑（第147図）

位置　調査区域の南部，D2g0区。

確認状況　大形の土坑で，住居跡として調査を進めたが，炉，竈などは検出されず土坑とした。

規模と構造　長軸3.45m，短軸2.72mの長方形で，深さ6cmである。長軸方向は，N－75°－Wである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。当調査区域内では比較的大形の土坑であるが，上部が削平されており，覆土は非常に薄い。

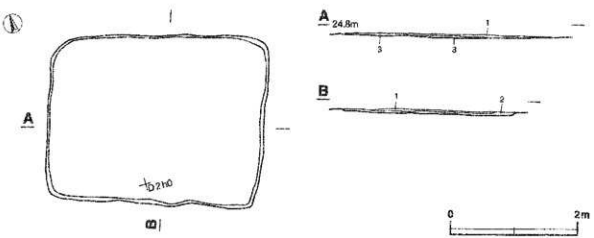
覆土　3層からなる。腹土が薄く，自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘性・締まりあり
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　土師器片3点が出土しているが，いずれも破片で図示できなかった。

所見　時期は，判断できる遺物がなく不明である。



第147図　第163号土坑実測図

第164号土坑（第148図）

位置　調査区域の南部，D3i4区。

確認状況　住居跡として調査を進めたが，炉や竈などは検出されず土坑とした。第141号土坑の上部を掘り込んでいる。

規模と構造　長径4.10m，短径2.90mの不整楕円形で，深さ36cmである。長径方向は，N－0°である。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

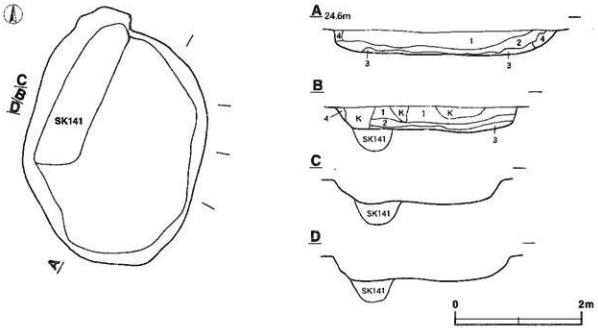
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

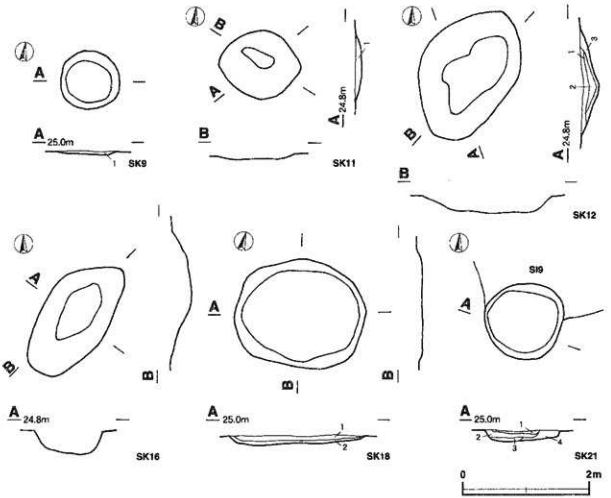
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　にぶい褐色　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片5点が出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。

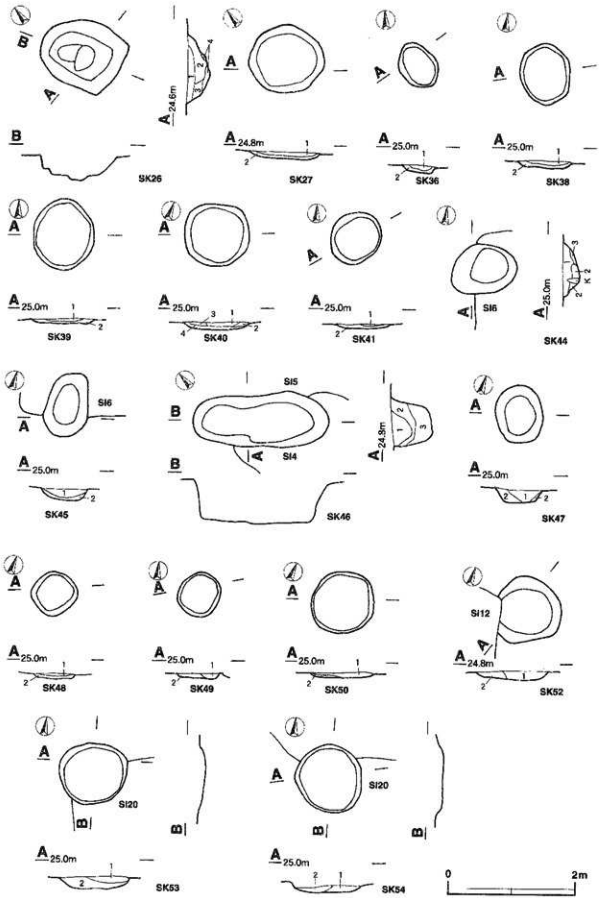
所見　時期は，判断できる遺物がなく不明である。調査区域内では，比較的大形の土坑である。



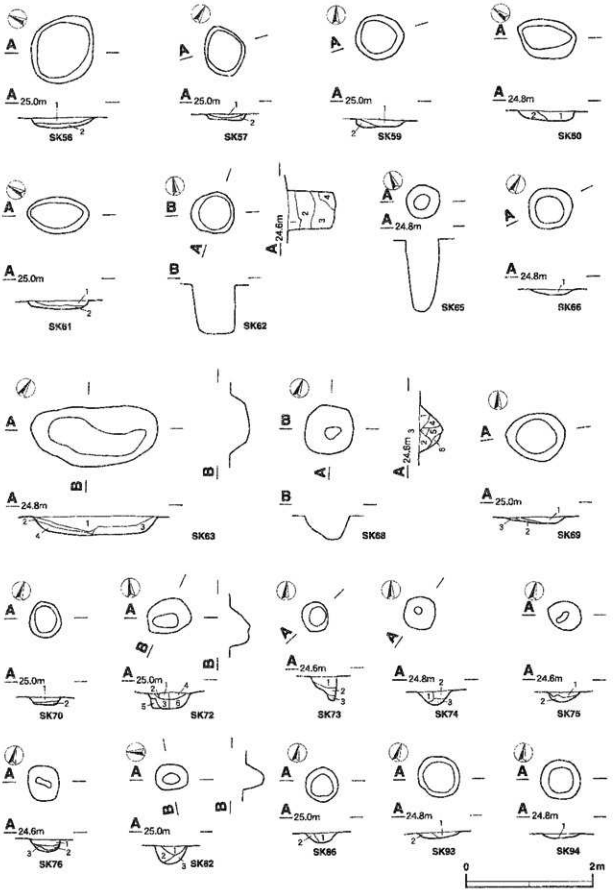
第148図　第164号土坑実測図



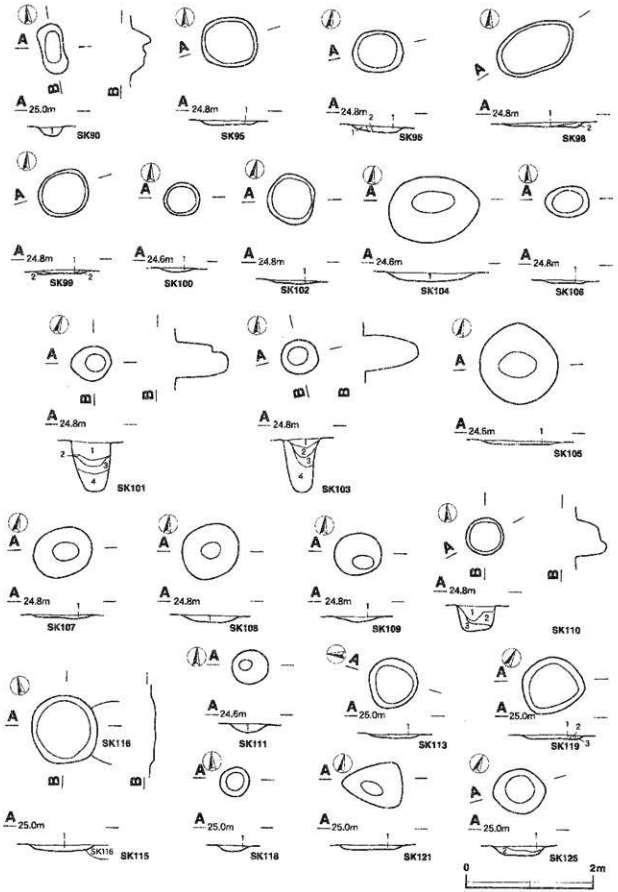
第149図　時期不明土坑実測図(1)



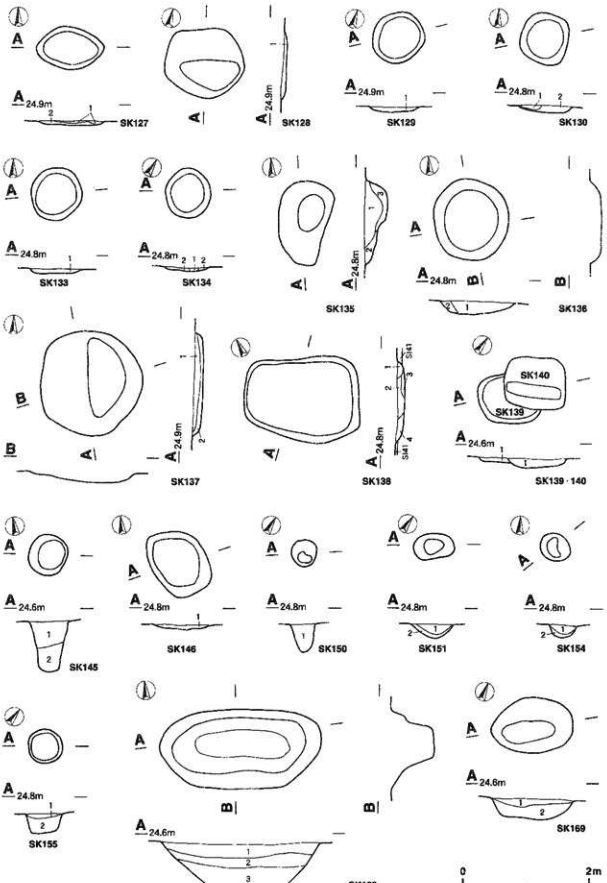
第150図　時期不明土坑実測図(2)



第151図　時期不明土坑実測図(3)



第152図　時期不明土坑実測図(4)



第153図　時期不明土坑実測図(5)

その他の土坑土層解説

第9号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第12号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり
3 暗 褐 色 ローム粒子多量，粘性・締まりあり

第21号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量，締まりあり，粘性なし
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量，粘性なし
3 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘性なし
4 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量

第27号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第36号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第40号土坑土層解説
1 極暗褐色 ロームブロック少量
2 極暗褐色 ロームブロック微量，締まりあり
3 暗 褐 色 ロームブロック中量，締まりあり
4 褐 色 ロームブロック中量，粘性・締まりあり

第45号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第47号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第48号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第50号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第53号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第56号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量，粘性・締まりなし
2 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりなし

第59号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第61号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量，粘性・締まりあり
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第63号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，粘性・締まりあり
3 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり
4 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第66号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第11号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第18号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり
2 暗 褐 色 ロームブロック中量，ローム粒子少量，粘性・締まりあり

第26号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量，締まりなし
2 黒 褐 色 ロームブロック中量，粘性あり
3 黒 褐 色 ロームブロック中量，粘性あり，締まりなし
4 黒 褐 色 ロームブロック微量，粘性・締まりあり

第38号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量，締まりあり
2 褐 色 ローム粒子少量

第39号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第41号土坑土層解説
1 黒 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量，粘性・締まりあり
2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第44号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第46号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第49号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第52号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第54号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第57号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック微量，粘性・締まりあり
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第60号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第62号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック微量

第68号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量
4 黒 褐 色 ロームブロック中量
5 黒 褐 色 ロームブロック少量
6 黒 褐 色 ローム粒子微量

第69号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量

第72号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック微量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量

第75号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量，粘性なし
2 黒 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子少量，焼土ブロック微量，粘性なし

第82号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第90号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘性・締まりなし

第94号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第96号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第99号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第101号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック微量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量
4 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりなし

第104号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第105号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量，粘性・締まりあり

第107号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

第109号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック微量

第111号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第115号土坑土層解説
1 黒 褐 色 炭化物少量，ロームブロック微量

第118号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック中量

第121号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第70号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第73号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量，締まりなし
3 黒 褐 色 ローム粒子少量

第74号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量，粘性なし
2 褐 色 ロームブロック多量，粘性なし，締まりあり
3 黒 褐 色 焼土粒子少量，焼土ブロック微量

第76号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，粘性なし
2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 褐 色 ロームブロック多量，粘性・締まりあり

第88号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり
2 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり

第93号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり

第95号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第98号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりあり

第100号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第102号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第103号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第106号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第108号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量，粘性・締まりあり

第110号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘性・締まりあり
3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第113号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量，粘性・締まりなし

第119号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2 黒 褐 色 ローム粒子微量，粘性・締まりなし
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，粘性・締まりなし

第125号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第127号土坑土層解説
1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，粘性・締まりなし
2 暗褐色 ロームブロック少量

第128号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック微量

第133号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量

第135号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり
2 暗褐色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり
3 暗褐色 ロームブロック中量，粘性・締まりあり

第137号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック微量，粘性・締まりあり
2 暗褐色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり

第139号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子微量，粘性・締まりあり

第140号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量

第146号土坑土層解説
1 黒 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

第151号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第155号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック多量，粘性・締まりあり
2 褐 ローム粒子多量，粘性・締まりあり

第169号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第128号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック微量

第130号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

第134号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第136号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量，粘性・締まりなし
2 黒褐色 ロームブロック少量，粘性・締まりなし

第138号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量，粘性・締まりあり
2 黒褐色 ロームブロック少量，粘性・締まりあり
3 暗褐色 ロームブロック中量，粘性・締まりあり
4 黒褐色 ロームブロック少量

第145号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量，締まりなし
2 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量，締まりなし

第150号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量

第154号土坑土層解説
1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量，粘性・締まりあり

第168号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム粒子少量，締まりなし
2 褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック多量

表10 時期不明土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径m×短径m×深さm	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 関連遺構（ピット）
1	A2b7	N-1°-W	楕円形	2.49 × 1.31	35	緩斜	平坦	自然	
2	B2a6	N-16°-E	楕円形	2.88 × 1.47	83	外傾	平坦	自然	
3	B2b4	N-11°-E	楕円形	2.57 × 1.44	82	緩斜	平坦	自然	
6	A2b2		円形	1.86	16	外傾	平坦	人為	
8	A2b3	N-3°-W	長方形	1.62 × 1.12	10	垂直	平坦	自然	
9	B2d1		円形	0.95	8	緩斜	平坦	自然	
11	B2e3	N-68°-W	円形	1.14 × 1.07	7	緩斜	平坦	自然	
12	B2e9	N-50°-E	楕円形	2.15 × 1.50	32	緩斜	平坦	自然	
14	B2e6	N-16°-E	長方形	(2.35) × (0.80)	36	外傾	平坦	自然	4号→SK-13
16	B2e9	N-40°-E	楕円形	2.05 × 1.10	38	外傾	平坦	自然	
18	B2f5		円形	2.0	14	緩斜	平坦	自然	
21	B2f6		円形	1.26	16	緩斜	平坦	人為	SI 9→4号
22	B2g3	N-59°-E	楕円形	0.99 × (0.83)	10	緩斜	平坦	不明	上師器片1点	4号→SK-23
25	C2d7	N-78°-E	楕円形	2.34 × 1.79	43	緩斜	平坦	自然	
26	B3i2	N-30°-W	楕円形	1.31 × 1.10	38	緩斜	凹凸	人為	土師器片1点

土坑番号	位置	主軸方向(真北方向)	平面形	規模 長径×短径×深さ(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
27	B 2 g8		円形	1.13	9	緩斜	平坦	自然		
32	D 2 c8		円形	1.10	35	外傾	平坦	人為	土師器片1点, 須恵器片1点	本跡→SK 145
33	D 2 e9		円形	0.98	15	緩斜	平坦	人為	土師器片1点	本跡→SK 143
36	A 2 f6	N 33°-W	楕円形	0.79 × 0.56	12	緩斜	平坦	人為		
37	A 2 f6	N 4°-W	楕円形	1.71 × 1.06	34	緩斜	平坦	人為		
38	A 2 f5	N-17°-W	楕円形	0.97 × 0.61	8	緩斜	平坦	自然		
39	A 2 f5	N-1°-W	楕円形	1.13 × 0.95	8	緩斜	平坦	人為		
40	A 2 f5		円形	1.02	12	緩斜	平坦	自然		
41	A 2 g4	N 56°-E	楕円形	0.85 × 0.76	7	緩斜	平坦	人為	土師器片1点	
42	B 2 d3		円形	0.88	52	外傾	平坦	人為	土師器片1点	
44	A 2 j3	N-60°-E	楕円形	1.04 × 0.82	23	緩斜	平坦	人為		SI-6→本跡
45	A 2 j5	N-15°-E	楕円形	1.06 × 0.70	18	緩斜	平坦	自然		SI-6→本跡
46	A 2 j5	N-46°-W	楕円形	2.17 × 0.89	64	外傾	平坦	人為		SI-4・5→本跡
47	B 2 a5	N-23°-W	楕円形	0.92 × 0.76	22	緩斜	平坦	人為		
48	B 2 g6		円形	0.72	7	緩斜	平坦	自然		
49	B 2 g6		円形	0.68	7	緩斜	平坦	人為		
50	B 2 g6		円形	0.88	5	緩斜	平坦	人為		
52	B 2 e8		円形	1.10	13	緩斜	平坦	自然		本跡→SI 12
53	C 2 a8		円形	1.04	9	緩斜	平坦	人為	土師器片1点	SI-20→本跡
54	C 2 a9		円形	1.07	11	緩斜	平坦	人為		SI-20→本跡
55	B 2 i6	N-16°-W	長方形	3.45 × 2.18	26	緩斜	平坦	自然		SK-89・本跡→SI-15・16
56	B 2 i6	N-66°-W	楕円形	1.18 × 1.00	17	緩斜	平坦	自然		
57	A 2 h5	N-52°-W	楕円形	0.82 × 0.55	10	緩斜	平坦	自然		
59	B 2 c7	N-71°-E	楕円形	0.78 × 0.70	12	緩斜	平坦	人為		
60	B 2 c8	N-29°-W	楕円形	0.95 × 0.63	16	緩斜	平坦	人為		
61	B 2 d8	N-19°-W	楕円形	0.97 × 0.58	13	緩斜	平坦	自然	土師器片1点	
62	B 2 d9		円形		79	垂直	平坦	人為		
63	B 2 h9	N-58°-E	楕円形	2.02 × 0.94	31	緩斜	平坦	人為		
65	B 2 i9		円形	0.53	114	垂直	平坦	不明		
66	B 2 h9		円形	0.70	9	緩斜	平坦	自然		
68	B 3 i2	N-16°-W	方形	0.78 × 0.77	36	外傾	平坦	人為		
69	C 2 a7	N-80°-E	楕円形	0.94 × 0.78	10	緩斜	平坦	人為		
70	C 2 a6	N-29°-W	楕円形	0.58 × 0.50	12	緩斜	平坦	人為		
72	B 2 d3	N-88°-W	楕円形	0.70 × 0.55	31	緩斜	平坦	人為	土師器片1点	
73	B 3 i1	N-35°-W	楕円形	0.48 × 0.40	38	外傾	平坦	人為		
74	B 3 j1		円形	0.51	22	緩斜	平坦	人為		
75	B 3 j2	N-86°-W	楕円形	0.55 × 0.46	18	緩斜	平坦	人為		
76	C 3 a1	N-10°-W	長方形	0.95 × 0.50	20	緩斜	平坦	人為	土師器片1点	
77	C 2 c6	N 76°-E	長方形	1.06 × 0.69	10	緩斜	平坦	人為		
78	C 2 c5	N 72°-E	長方形	1.13 × 0.38	18	外傾	凹凸	人為	土師器片1点	
79	C 2 d5	N-10°-W	長方形	1.14 × 0.67	16	緩斜	平坦	自然	土師器片1点, 須恵器片2点, 鉄滓1点	
81	C 2 d5	N-18°-W	長方形	1.32 × 0.66	32	外傾	平坦	人為		
82	C 2 d5	N-7°-W	楕円形	0.53 × 0.41	30	外傾	平坦	人為	羽口1点, 鉄滓1点	
83	C 2 d5	N-18°-W	長方形	1.16 × 0.78	25	外傾	平坦	人為	土師器片1点	
84	C 2 d5	N-20°-E	楕円形	0.56 × 0.46	42	外傾	平坦	人為	土師器片1点	
86	B 2 j7		円形	0.53	15	緩斜	平坦	人為		

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模		深さ(cm)	平面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（旧→新）
				長軸(m)×短軸(m)							
89	B 2 i6	N－58°－E	楕円形	1.76 × 0.88	20	緩斜	平坦	人為			SK 55→本跡→SI-16
90	C 2 d5	N－6°	楕円形	0.81 × 0.41	32	緩斜	凹凸	自然			
93	C 3 c1		円形	0.66	9	緩斜	平坦	自然			
94	C 3 c2		円形	0.62	8	緩斜	平坦	自然	土師器片2点		
95	C 2 g0		円形	0.85	7	緩斜	平坦	自然			
96	C 3 f1	N－72°－E	楕円形	0.80 × 0.69	10	緩斜	平坦	人為			
97	C 3 d1	N－77°－E	楕円形	1.34 × 0.94	22	緩斜	平坦	自然			
98	C 2 b9	N－59°－E	楕円形	1.30 × 0.80	8	緩斜	平坦	自然			
99	C 3 g1		円形	0.76	5	緩斜	平坦	人為	土師器片1点		
100	C 3 f2		円形	0.55	4	緩斜	平坦	自然			
101	C 3 h1	N－63°－E	楕円形	0.65 × 0.55	80	垂直	平坦	人為	土師器片1点		
102	C 3 h1		円形	0.80	6	緩斜	平坦	自然			
103	C 2 h0		円形	0.57	85	垂直	平坦	人為			
104	C 3 i2	N－81°－E	楕円形	1.45 × 1.07	14	緩斜	平坦	自然			
105	C 3 i3		円形	1.28	5	緩斜	平坦	自然			
106	C 3 j1	N－86°－W	楕円形	0.89 × 0.51	4	緩斜	平坦	自然			
107	C 3 j1	N－72°－E	楕円形	0.96 × 0.70	5	緩斜	凹凸	自然			
108	C 3 j1		円形	0.90	11	緩斜	平坦	人為	土師器片1点		
109	D 3 a1		円形	0.71	9	緩斜	凹凸	自然			
110	C 2 j0		円形	0.60	48	垂直	平坦	人為			
111	C 3 f3		円形	0.57	17	緩斜	平坦	自然	土師器片1点		
112	C 2 h8		円形	0.78	28	緩斜	平坦	人為			
113	C 2 h8		円形	0.80	5	緩斜	平坦	自然			
114	C 2 h7		円形	1.00	25	緩斜	平坦	自然	土師器片1点		
115	C 2 i8		円形	1.04	9	緩斜	平坦	人為			SK 116→本跡
116	C 2 i8		円形	0.98	22	緩斜	平坦	自然			本跡→SK 115
117	C 2 i7	N－77°－W	楕円形	1.15 × 0.80	29	緩斜	平坦	人為			
118	C 2 i7		円形	0.47	9	緩斜	平坦	自然			
119	C 2 i8		不整円形	1.00 × 0.95	7	緩斜	平坦	自然			
120	D 2 a6	不明	不明	(1.60 × 0.25)	68	外傾	平坦	人為			
121	D 2 a7	N－69°－E	楕円形	0.95 × 0.75	10	緩斜	平坦	自然			
122	D 2 a7	N－78°－W	楕円形	0.78 × 0.51	28	緩斜	平坦	自然			
123	D 2 a8	N－75°－E	長方形	2.59 × 1.36	25	緩斜	平坦	人為			SI-35→本跡
124	A 2 b8	N－60°－E	楕円形	1.78 × 1.34	50	緩斜	平坦	自然			
125	D 2 b7	N－75°－E	楕円形	0.82 × 0.72	17	緩斜	平坦	人為			
126	D 2 b8	N－31°－E	楕円形	1.37 × 0.98	35	緩斜	平坦	自然			
127	D 2 c9	N－83°－W	楕円形	1.08 × 0.69	8	緩斜	平坦	人為			
128	D 2 c9	N－87°－E	楕円形	1.29 × 1.11	8	緩斜	平坦	自然			
129	D 2 c9		円形	0.84	8	緩斜	平坦	自然			
130	D 3 c1	N－8°－E	方形	0.80 × 0.76	12	緩斜	平坦	人為			
132	D 2 f8	N－65°－E	楕円形	0.97 × 0.75	70	外傾	平坦	人為			SI 37→本跡
133	D 3 g2		円形	0.85	10	緩斜	平坦	自然	土師器片1点		
134	D 2 e7		円形	0.76	5	緩斜	平坦	人為			
135	D 2 f8	N－18°－E	楕円形	1.34 × 0.89	35	外傾	平坦	人為			
136	D 2 j9		円形	1.26	21	外傾	平坦	人為			
137	D 2 e0		円形	1.69	16	緩斜	平坦	自然			

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	深さ(cm)	傾斜	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係（旧→新）
138	D3j2	N－61°－W	長方形	1.92 × 1.34	12	緩斜	平坦	人為		SI 41→本跡
139	D3i3	N－36°－E	楕円形	(1.06) × 0.80	8	緩斜	平坦	自然		本跡→SK 140
140	D3i3	N－58°－E	長方形	0.86 × 0.82	12	緩斜	平坦	自然		SK-139→本跡
141	D3i4	N－27°－E	楕円形	2.54 × 0.68	30	緩斜	平坦	人為		
142	E2e9	N－64°－E	楕円形	(1.64) × 1.48	70	緩斜	平坦	人為		
143	D2e8	N－37°－E	楕円形	3.82 × 1.36	100	緩斜	平坦	人為	土師器片1点，須恵器片1点	SK 32・33→本跡
145	F3a1		円形	0.68	82	外傾	平坦	人為		
146	E3b1	N－41°－W	楕円形	1.22 × 0.90	8	緩斜	平坦	自然		
147	D2h7	N－15°－W	方形	1.00 × 0.85	16	緩斜	平坦	不明		SI－7→本跡
148	D3i4		円形	0.86	20	外傾	平坦	自然		
150	E2d6		円形	0.43	46	外傾	平坦	人為		
151	E2d6	N－23°－E	楕円形	0.67 × 0.49	24	緩斜	平坦	自然		
152	E2d4	N－51°－E	長方形	2.42 × (1.17)	30	緩斜	平坦	人為	土師器片1点	
153	E3g4	N－15°－E	不明	0.64 × (0.46)	80	外傾	平坦	人為		
154	E2d6	N－56°－W	楕円形	0.54 × 0.44	22	緩斜	平坦	自然		
155	E2d6		円形	0.56	22	外傾	平坦	人為		
156	D3i4	N－19°－E	長方形	0.94 × 0.44	27	緩斜	平坦	自然		SK-157，SD-4→本跡
157	D3i4	N－2°－E	長方形	0.95 × (0.85)	10	緩斜	平坦	不明		SD 4→本跡→SK-156
162	D2g9	N 75°－W	長方形	3.65 × 2.72	6	緩斜	平坦	不明	上師器片3点	
164	D3i4	N－0°	楕円形	4.30 × 2.90	35	急斜	平坦	自然		
168	E3g1	N－85°－W	楕円形	2.58 × 1.27	70	緩斜	平坦	自然		
169	E3e2	N 63°－E	楕円形	1.30 × 0.90	32	緩斜	平坦	人為		

(4) 井戸跡

第3号井戸跡（第154図）

位置 調査区域の北部，B2f0区。

規模と形状 長径1.40m，短径1.24mの楕円形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は，上方は漏斗状を呈し，確認面から0.6mの深さにテラス状の段を持ち，さらに下方に向かってすぼまる。深さは，1.40mである。長径方向は，N－27°－Wである。

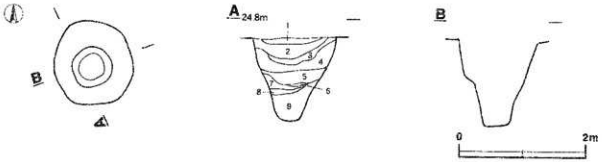
覆土 9層からなる。各層にローム ブロックや焼土粒子を含み，ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム ブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 焼土ブロック少量，ローム ブロック微量
3 黒褐色 ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
4 暗褐色 ローム ブロック少量，焼土ブロック微量
5 暗褐色 焼土粒子少量，ローム ブロック微量
6 黒褐色 ローム ブロック多量
7 黒褐色 ローム ブロック微量
8 暗褐色 ローム ブロック少量
9 暗褐色 ローム ブロック微量

遺物出土状況 遺物は，出土していない。

所見 時期は，遺物がなく不明である。



第154図　第３号井戸跡実測図

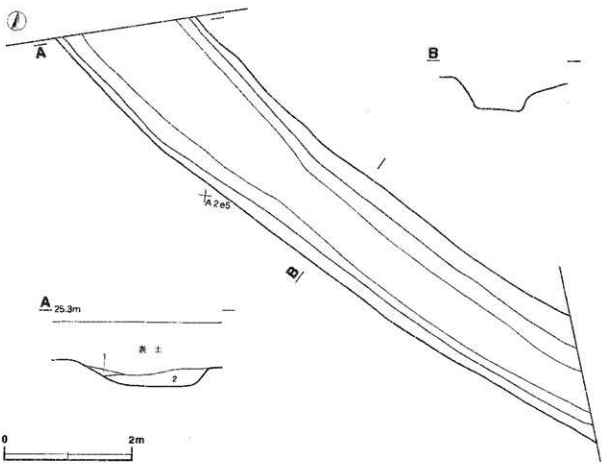
(5) 溝

第２号溝（第155図）

位置　調査区域の北部，Ａ２ｄ4～Ａ２ｅ6区。

確認状況　北部及び東部が調査区域外に延びている。

規模と形状　北部及び東部が調査区域外になっているため，確認できた長さは9.6mで，上幅1.5～1.9m，下幅0.5～1.2m，深さは42cmである。断面形は逆台形である。調査区域内では，Ａ２ｅ6区から北西に（N－58°－W）ほぼ直線的に延びる。



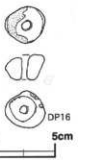
第155図　第２号溝実測図

覆土　2層からなる。ローム粒子や焼土粒子を含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，粘性あり
2　にぶい橙色　ローム粒子少量，粘性あり

遺物出土状況　土師器片46点，須恵器片1点，土製紡錘車1点が覆土中から出土しているが，いずれも破片で図示できるものはなかった。DP16の紡錘車は，覆土中から出土している。

所見　掘削の仕方はしっかりとしているが，北部と東部が調査区域外となっていることから，全体の状況を把握することは難しく性格も不明である。時期は，判断できる遺物がなく不明である。



第156図　第2号溝出土遺物実測図

第2号溝出土遺物観察表（第156図）

番号	器種	計測値 径(cm)	厚さ(幅)	孔径(cm)	重量(g)	胎土・色調	特徴	出土位置	備考
DP16	紡錘車	(3.2)	2.1	0.8	(15.0)	長石・石英　橙	断面逆台形　内外面ナデ	覆土中	

第3号溝（第157図）

位置　調査区域の北部，A2j7～A2j8区。

確認状況　東側が調査区域外に延びている。

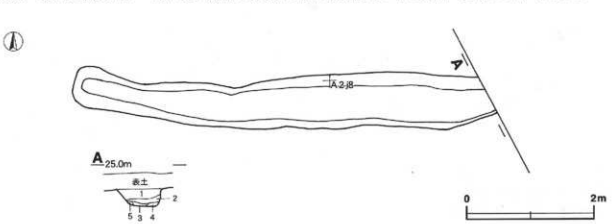
規模と形状　東側が調査区域外に延びているため，確認できた長さは6.64mで，上幅0.5～0.9m，下幅0.2～0.6m，深さは28cmである。断面形は逆台形である。A2j7区から東（N－87°－W）に直線的に延びる。

覆土　5層からなる。ロームブロックなどを含み，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，締まりあり
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，粘性・締まりあり

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　検出されたのは，一部分であり規模や形状などは不明な点が多い。時期は，遺物がなく不明である。



第157図　第3号溝実測図

第４号溝（第158図）

位置　調査区域の南部，Ｄ３ｊ4～Ｄ３ｊ5区。

重複関係　北東部及び西端が第13号掘立柱建物跡の柱穴に掘り込まれ，東部が調査区域外に延びている。また，中央部を第156号及び第157号土坑に掘り込まれている。

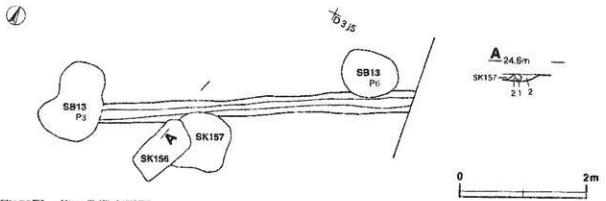
規模と形状　東部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは5.0mで，上幅0.2～0.3m，下幅0.1～0.2m，深さは10cmである。断面形はＵ字形と推定される。Ｄ３ｊ4区から北東（Ｘ－62°－Ｅ）に直線的に延びる。

覆土　２層からなる。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム ブロック多量，粘性あり
2　黒　褐　色　ローム ブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　検出されたのは，一部分であり規模や形状なども不明な点が多い。時期は，遺物がなく不明である。



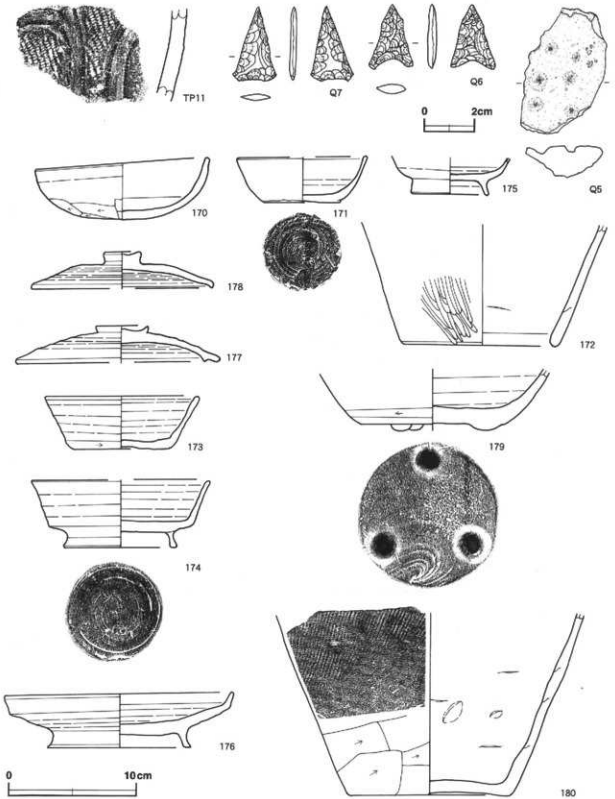
第158図　第４号溝実測図

表11　時期不明溝一覧表

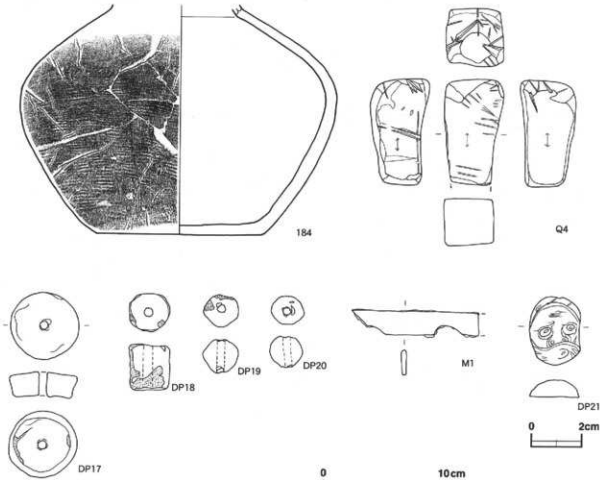
番号	位置	主軸方向	形状	規模 長径(m)	規模 上幅(m)	規模 下幅(m)	規模 深さ(cm)	断面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（旧→新）
2	Ａ２d4～Ａ２e6	(N－28°－W)	直線	(9.6)	1.5～1.9	0.5～1.2	42	∪	平坦	人為	土師器甕片，須恵器片	
3	Ａ２j7～Ａ３j8	(N－87°－W)	直線	(6.64)	0.5～0.9	0.2～0.6	28	∪	平坦	人為		
4	Ｄ３j4～Ｄ３j5	(X－62°－E)	直線	(5.0)	0.2～0.3	0.1～0.2	10	∪	平坦	人為		本跡→SB-13，SK-156・157

5　遺構外出土遺物

今回の調査で，遺構に伴わない縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺物が出土している。ここでは，これらの出土遺物を一括して実測図（第159・160図）と観察表を掲載する。



第159図　遺構外出土遺物実測図(1)



第160図　遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表（第159・160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	特徴	胎土	色調	焼成	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	縦に撚糸を施し、間に単節縄文を施文	長石	にぶい橙	普通	遺構外	PL31

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
170	土師器	坏	13.8	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	遺構外	PL30
171	土師器	坏	[10.1]	3.6	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	遺構外	
172	土師器	甕	－	(9.6)	12.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面下位縦方向のヘラ磨き	遺構外	PL30
173	須恵器	坏	12.3	4.2	7.6	長石・石英	褐灰	良好	底部一方向の手持ちヘラ削り　体部外面に強いロクロ目	遺構外	PL30
174	須恵器	高台付坏	[14.2]	5.4	8.9	長石・石英	灰	普通	底部ヘラ起こしのち回転ヘラ削り後、高台を付ける	遺構外	PL30
175	須恵器	高台付坏	－	(3.0)	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	遺構外	
176	須恵器	盤	18.3	4.4	11.4	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	遺構外	PL30
177	須恵器	蓋	[16.4]	2.9	－	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁部内面に短いかえり	遺構外	PL30
178	須恵器	蓋	[14.4]	2.9	－	雲母	灰白	普通	口縁端部は真下に垂下	遺構外	PL30
179	瓦質土器	甕	－	(4.9)	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後、半球状の3足貼り付け	遺構外	PL30
180	須恵器	甕	－	(14.5)	13.0	長石・石英	灰白	良好	体部外面上位に斜め方向のタタキ、下位縦方向のヘラ削り	遺構外	
184	須恵器	壺	－	(18.3)	13.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面に横方向の平行タタキ	遺構外	PL30

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		径	長さ	孔径	重量(g)				
DP17	紡錘車	5.5	2.1	0.5	60.9	長石 にぶい橙	断面楕円形	遺構外	PL31
DP18	管状土錘	3.3	3.7	0.8	37.6	長石 にぶい橙	断面長方形 内・外面ナデ	遺構外	PL32
DP19	土玉	2.8	2.6	0.6	16.1	長石 にぶい橙	内・外面ナデ	遺構外	PL32
DP20	土玉	2.6	2.4	0.6	13.5	長石 にぶい橙	内・外面ナデ	遺構外	PL32

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
DP21	混紡糸	2.7	2.0	0.7	3.9	赤色粒子 橙	外面ナデ 「ひょっとこ」か	遺構外	PL32

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
Q 4	砥石	(8.5)	4.6	4.7	(264.9)	凝灰岩	砥面4面 溝状の砥面8か所	遺構外	PL32
Q 5	凹石	(10.0)	(7.0)	(2.5)	(120.3)	花崗岩	くぼみ6か所	遺構外	PL32
Q 6	石錘	2.6	1.8	0.4	1.2	黒曜石	無茎鏃	遺構外	PL32
Q 7	石錘	3.0	1.7	0.3	1.1	黒曜石	無茎鏃	遺構外	PL32

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量(g)				
M 1	刀子	(10.5)	2.1	0.5	(30.8)	鉄	切先から刀身部で一部欠損	遺構外	PL32

第4節　ま　と　め

今回の調査では，縄文時代，弥生時代，古墳時代及び奈良・平安時代の遺構と遺物が検出された。各時代ごとにみると，弥生時代の竪穴住居跡5軒，古墳時代の竪穴住居跡2軒，奈良・平安時代の遺構としては竪穴住居跡29軒，掘立柱建物跡11棟，土坑18基，井戸跡4基，溝1条，時期不明の遺構としては竪穴住居跡3軒，掘立柱建物跡3棟，土坑130基，井戸跡1基，溝3条が検出されている。縄文時代の遺構は検出されておらず，土器片が出土しただけである。なお旧石器時代については剥片が出土しただけである。

ここでは，各時代ごとに遺構と遺物について概要を述べ，まとめとしたい。

1　縄文時代

今回の調査では，縄文時代の遺構は検出されていないが，遺物としては縄文土器，石鏃，凹石などが出土している。縄文土器はいずれも破片でり，中期後葉の加曽利E Ⅲ式期に比定される土器片が多い。石鏃は2点出土しており，いずれもチャート製である。これらの事実から，当遺跡では縄文時代の人々の生活の跡は確認できなかったが，狩猟の場であった可能性が高く，また周辺に集落があったことが推定できる。

2　弥生時代

今回の調査で検出された弥生時代の遺構は竪穴住居跡5軒で，第1・11・13・19・25号住居跡が該当する。ただし耕作によると思われる削平によって遺存状態はよくない。第1・11・13号住居跡は調査区域の北部から，第19・25号住居跡は中央部から検出されている。住居跡の平面形は長方形が中心で，第25号住居跡だけは楕円形を呈する。規模は長軸(径)4.2～4.7m，短軸(径)3.3～3.9mの範囲内で，第1号住居跡だけが長軸3.3m，短軸2.9mで，他に比べて小さい。主軸方向は平面形が不明である第13号住居跡を除いて，N－32°－WからN－47°－Wの範囲内にあり，いずれも真北から西方向を意識して構築されている。住居の内部施設としては，いずれも主柱穴が4か所，出入り口施設に伴うピットが1か所検出されており，中央部に炉を持っている。炉は床面を掘り下げた地床炉で，炉の平面形は第19号住居跡が円形で，これ以外は楕円形である。炉の大きさは，さまざまである。

出土遺物は弥生土器の広口壺が中心で，他に土製の紡錘車が出土している。広口壺は遺存状態が比較的良好で，胴部に附加条1種（附加2条）の縄文を施したものが多く，単節縄文を施したものもある。頸部は，櫛歯状工具による波状文，横走文，鋸歯状文などを施したものが多いが，無文のものもある。底部には木葉痕が残るものが多い。これらの土器は，その特徴から二軒屋式土器が中心となる。当時代の紡錘車は3点出土しており，いずれも断面は長方形を呈し，径はDP1が5.2cmと大きく，DP2・3は3.8cm前後である。文様としては，上下2面及び側面に櫛歯状工具による放射状文や棒状工具による刺突文が施されているものと全く文様が施されていないものがあった。

以上の事実から，当遺跡では弥生時代に小規模ながら集落が形成されていたことが判明した。

3　古墳時代

今回の調査で検出された古墳時代の遺構は，竪穴住居跡2軒で第20号及び第35号住居跡が該当し，いずれも後期のものと思われる。遺存状態が悪く出土遺物も少ないが，出土土器から古墳時代の竪穴住居跡と判断した。第35号住居跡は特に遺存状態が悪く，遺物や焼土，粘土等の散らばりから平面形や竈の位置を推定した。第20

号及び第35号住居跡はともに調査区域の中央部で検出されている。平面形は，第20号住居跡の南部が調査区域外となっているため不明であるが，第35号住居跡は長方形と推定される。規模は第20号住居跡が東西軸4.98mで大形の住居跡の可能性が高く，第35号住居跡は長軸3.7m，短軸3.4m程度と推定される。主軸方向はN－9°－WからN－17°－Eの範囲内にあり，ほぼ北方向を意識して構築されている。住居の内部施設としては，第20号住居跡で主柱穴が2か所検出され，掘り方はしっかりしている。出土土器は土師器12点で，坏と甕の破片が大部分である。

古墳時代は，後期に集落が形成され竪穴住居跡2軒が検出された。弥生時代に比べると集落の規模が縮小する傾向が窺える。

4　奈良・平安時代

奈良・平安時代は当遺跡の中心となる時期で，竪穴住居跡29軒，掘立柱建物跡11棟，土坑18基，井戸跡4基，溝1条が検出されている。奈良・平安時代は3期に分けて，それぞれの概要を述べることにする。

第1期（8世紀）

当遺跡の8世紀代の遺構は，第8・9・15・28号住居跡，第64・67・88号土坑が該当する。8世紀の掘立柱建物跡は検出されていない。竪穴住居跡，土坑とも調査区域内の北部に位置している。住居跡の平面形は方形あるいは長方形で，規模は長軸，短軸ともほとんど3～4m未満である。主軸方向はN－11～22°－Wの範囲内にあり，すべて真北から西を意識して構築されている。住居の内部施設は，第9号住居跡は主柱穴が4か所検出されたが，出入り口施設に伴うピットは検出されなかった。第8・28号住居跡は主柱穴は検出されず，出入り口施設に伴うピット1か所が検出されただけである。竈は第9号住居跡が第8号住居に掘り込まれており検出されなかったが，第8・28号住居跡で検出された。上部が削平され遺存状態は悪かったが，北壁に付設され火床面が赤変しているのが確認された。

出土遺物としては，土師器の坏，甕，須恵器の坏，甕，高台付坏，蓋，土製支脚などがある。須恵器の坏は遺存状態の良好なものは少なかったが，口径は12～14cm前後，底径は6～7cmが中心で，口径に比べて底径の比率が大きかった。体部下端の調整については，手持ちヘラ削り調整されているものとされていないものがあった。蓋はほとんど内面にかえりをもっていた。須恵器は遺構外からも出土しており，胎土から新治窯産のものが中心のようである。

当遺跡は8世紀に規模は小さいながら，集落が形成されていることが判明した。

第2期（9世紀）

9世紀代の遺構は多く，竪穴住居跡10軒，掘立柱建物跡9棟，土坑11基，井戸跡3基，溝1条である。第5・6・12・16・17・22・24・27・31・36号住居跡，第1～5，8～10・13号掘立柱建物跡，第7・10・13・15・17・23・29・43・144・165・166号土坑，第1・2・5号井戸跡，第1号溝が該当する。遺構の配置を住居跡と掘立柱建物跡からみると，北部に第5・6号及び第12・16・17号住居跡と第1～5号掘立柱建物跡，中央部に第22・24・27・31・36号住居跡と第8号掘立柱建物跡，南部に第9号掘立柱建物跡と大きく3つのブループに分けられるようである。住居跡は当調査区域内の全体から検出されているが，8世紀あるいは10世紀の住居跡と重複しているものが5軒ほどある。住居跡の平面形は方形あるいは長方形で，規模は2～3mのものがほとんどで，第12・16・17・22号住居跡だけが4m以上である。主軸方向は，N－31～3°－WとN－2°－Eの範囲内にあり，8世紀代の住居跡と比べて真北から東に振れるものが出てくる。住居の内部施設としては，主柱穴が4か所検出されたのが第16・17・27号住居跡だけで，他は検出されなかった。竈は第27号住居跡が第26

号住居に掘り込まれており，焼土の散らばりが検出されただけであったが，他はすべて検出されている。貯蔵穴は第6号と第31号住居跡の南東コーナーで検出され，規模は40～50cmで円形あるいは楕円形である。掘立柱建物跡は9棟で，すべて側柱建物跡である。北部に第1～5号，中央部に第8号，南部に第9・10・13号掘立柱建物跡と大きく3か所に分かれる。第2～5号掘立柱建物跡は重複しており，建て替えの可能性が考えられる。第2～5・10・13号掘立柱建物跡は東西棟，第1・8・9号掘立柱建物跡は南北棟である。第1号掘立柱建物跡と第2～4号掘立柱建物跡は桁行方向が直交するように位置している。掘立柱建物跡は，収穫した稲などを保管するために使用したものと思われる。

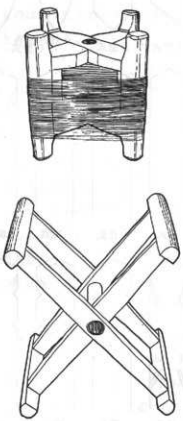
第165・166号土坑からは，多量に土器が出土している。特に第165号土坑から土師器片268点，須恵器片107点などが出土している。土器はいずれも覆土の中層や下層から出土しており，廃棄したものと考えられる。なお第165号土坑からは，墨書土器が3点出土している。

井戸跡は3基で，このうち第1・2号井戸跡と出土遺物がなく時期不明とした第3号井戸跡は調査区域の北西部から南東方向に25mの間隔をもってほぼ一直線上に並んでいることがわかった。

第1号溝は調査区域内を南北にほぼ一直線に走っている。調査区域全体が削平されており，検出された部分は浅いが，遺物は多量に出土している。集落は水田に面した微高地に立地していたと考えられ，第1号溝はその斜面に沿って走っており，何らかを区画する溝の可能性が高い。

出土遺物は，土師器の坏，椀，甕，甑，土製紡錘車，支脚，羽口，須恵器の坏，高台付坏，甕などである。8世紀代と比べて，須恵器の割合が減少する傾向にある。須恵器の坏は口径に比べて底径の比率が小さくなる。体部下端の調整については，8世紀のものと同様に手持ちヘラ削り調整されているものと，されていないものがあった。土師器の坏は，口径，底径，高さともに小さくなり皿状になる。またこの時期に高台を持つ椀が出土してくる。土師器の坏，椀，高台付皿については，内面を黒色処理されたものが多い。図示できた坏，椀，高台付皿をみると，坏43点の中で内面を黒色処理されたものは22点，椀25点の中で内面を黒色処理されたものは14点，高台付皿3点の中で内面を黒色処理されたものは2点で，それぞれ約半数ほどが内面を黒色処理されている。土師器の高台付皿は高台部が高く，第5号住居跡から1点と第165号土坑から2点が出土している。土師器の甕は，口縁部が残っているものはほとんど端部がつまみ上げられ，体部下端は横方向のヘラ削りが施されている。またこの時期，墨書土器が出土している。第1号溝から1点，第165号土坑から3点である。第1号溝出土の墨書土器は「貝女」，第165号土坑出土の墨書土器は「山」，「舌」「壬万」と書かれていた。

当遺跡から出土した遺物で注目したいものに糸巻と斎串がある。糸巻は紡織具の一種である。木器集成図録　近畿古代篇によれば「紡織具の中心は糸巻類と紡輪（円板の中心に糸巻棒をとおす紡錘車）であって，2，3の例を除くと織機の出土例は少ない。

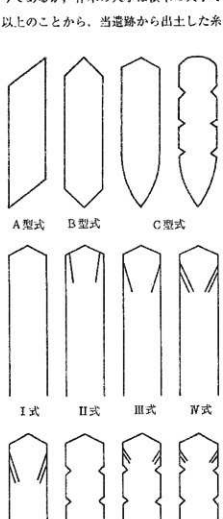


第161図　糸巻
（註1文献より転載）

糸巻の構造は数本の枠木とそれを固定する横木，横木の心にと

おす軸棒からなる。軸棒をつけた状態で発見された例はなく，また多くの木製品のなかから軸棒に該当するものは発見されていない。構造によってA・Bの2型式に大別できる。A形式は，枠木が4本からなりそれぞれの枠木の両端から内寄りの腹面に2個所の　孔をあけて，ここに横木を結合する。2本の横木はそれぞれ2枚の板を十字形に相欠きでかみあわせ，中心に軸孔をあけ，四方の端を棒状に削る。出土品の糸巻の大多数はこの型式をとる。B型式は6本の枠木からなり，それぞれの枠木の両端から内寄りの腹面に2個所の切欠きをいれる。つまり，枠木と六角形の1枚板の横木とは相欠きの仕口で結合するのである。B型式糸巻はいまのところ1例しか発見されていない。枠木の形状はおよそ4つに大別できる。Ⅰは断面を円形に近い棒状につくるもの，Ⅱは枠木の腹面を平坦にして断面がカマボコ形を呈し，横木の結合部から両端に向かって斜めに削り込むもの。ⅢはⅡの2個所結合部間に浅く刻るもの。Ⅳは Ⅲの形態をとるが，両端の側面形を刀身形にとがせたもの。また枠木の長さによって，長さ16cm前後の小形，長さ24～28cm前後の中形，32cm以上の大形に区別できるようであるが，枠木の大小は横木の大小できまる糸巻の直径にかならずしも相関していない」[11]。

以上のことから，当遺跡から出土した糸巻は，枠木の1つで，型式としてはAのⅢ型式に近いものと思われる。また大きさは，中形といえる。分析の結果，使われている木材はマツ類であることがわかった。時期は，同じ井戸跡から出土した遺物から平安時代と判断できる。当時の生活の道具の一つとして使用されたものであろう。



第162図　斎串
（註2文献より転載）

木器集成図録　近畿古代篇によれば，「斎串は，『いぐし』あるいは『いわいぐし』ともよばれ，木製の祭祀具の一つである。木製の祭祀具の基本形態は，実際の器物や禽獣を抽象化したものであり，一般に形代（かたしろ）とよばれているものである。概して1回限りの使用の後，遺棄される。斎串，人形，馬形，鳥形，刀形，刀子形，鎌形，下駄形，船形，陽物形などに分類される。多くは板を切り抜いてつくる平面的な形態をとるが，人形の一部や舟形・陽物形には立体的に表現するものがある。人形は罪穢や悪気を移し，流れに投げ捨てる祓いがその一般的な使用法で，馬形は水神への祈願に流れに投じたとする見方が一般的である。斎串については諸説あるが，結界をあらわし，外部の悪気を遮断するとともに，人形の負った罪穢を外に漏らさぬ役割を果たしたと考えられている。

斎串は薄板の両端をとがらせ，両側に切込み（削りかけ）などをほどこした出状品で，多くの場合，加工は周縁の形を粗くととのえる程度におわり，丁寧な加工は行わない。薄板の両端の形状によって，つぎの4型式に区分できる。A型式は板材の両端をそれぞれ一側面から鋭く斜めに切り落としたもの，B型式は細長い板材の両端を圭頭状につくったもの，C型式は細長い板材の上端を圭頭状にして下端を剣先状につくったもの，D型式は上記の3型式に属さないもの。他方，板材の側面からの切り込み方によって8式に分類できる。Ⅰ

式は切り込みを入れないもの。Ⅱ式は側面を割り裂くように上端木口から割目をいれるもの。Ⅲ式は上端近くの側面の左右1個所に切り込みをいれるものを主とし，上端の斜辺から切り込むものもふくむ。Ⅳ式は上端近くの側面の左右2個所以上に切り込みをいれるもので，この場合1個所の切り込み回数は1回，Ⅴ式は側面の左右2個所以上に切り込みをいれるもので，この場合1個所の切り込み回数が4～5回におよぶことがある。Ⅵ式は両側面の左右対称位置を三角形に切欠くものである。Ⅶ式はⅢ式とⅥ式が組み合わされたものである。Ⅷ式はⅤ式とⅥ式とが組み合わされたものである。上のような形状と切り込みの手法を組み合わせて，ＡⅠ型式，ＢⅡ型式などとよび分けることにする。Ａ型式は6世紀後半から，Ｂ型式やＣ型式の一部は7世紀第Ⅲ四半期に出現し，8・9世紀にはＣ型式が展開する。斎串の寸法は，8世紀の平城宮・京の出土例では全長14～24cm前後のものが一般的である」[9]。当遺跡から出土している斎串は，ＡⅠ型式に属するものと考えられる。全長は14.5cmである。分析の結果，使用された木材はスギ類であることがわかった。県内での斎串の出土例はなく，詳細な分析は今後の調査や研究を待たなければならないが，何らかの祭祀行為が行われたものと思われる。時期は，前述の糸巻と同じ第2号井戸跡から出土しており，土器から9世紀代と推定される。

以上の遺物から，糸巻は実生活の道具として，斎串は祭祀のための道具として使用されたものと考えられる。斎串が井戸跡から出土していることについては，不明な点が多いが，当時の人々の祭祀行為の一端が垣間見られた気がする。当遺跡から出土した木器は，前述の糸巻，斎串のほか，不明木器2点が出土している。不明木器については加工痕がみとめられるが，詳しい性格などは不明である。また調査時遺存状態が悪く，使用された木材も広葉樹までしかわかっていない。

9世紀は8世紀に比べて集落の規模が拡大し，住居跡と掘立柱建物跡がセットで大きく3つのグループに分けられる。遺物としては，支配者層や役人などの身分や役職をあらわすものは出土しておらず，当遺跡は一般の農民の集落で，掘立柱建物跡は収穫した稲などを保管するためのものと考えられる。

第3期（10世紀）

10世紀の遺構は9世紀同様に多く，第4・7・10・21・23・26・29・32～34，37・41・46号住居跡，第6・7号掘立柱建物跡，第5・58・162・167号土坑，第4号井戸跡が該当する。遺構の配置を住居跡と掘立柱建物跡でみると，北部に第4・7・10号住居跡，中央部に第21・23・26・29・32～34号住居跡と第6・7号掘立柱建物跡，南部に第37・41・46号住居跡というように大きく3つのグループに分けられる。

住居跡の平面形は方形あるいは長方形で，規模は一辺が2～4mでさまざまだが，4mを超えるものが5軒あり，9世紀よりやや大形になる。主軸方向はN－68～4°－WとN－1～94°－Eの範囲内にあり，主軸方向が真北から東に振れているものが多くなる。また東壁に竈が付設されているものが7軒ある。住居の施設としては4か所主柱穴が検出されたものはなく，第7・23号住居跡が1か所である。また出入り口施設に伴うピットが検出されたのは3軒である。貯蔵穴が検出されたのは第4・33・34号住居跡で，北東コーナーあるいは南西コーナーに付設され，規模は50～70cm程度の円形や楕円形である。

掘立柱建物跡は9世紀のものと同様側柱建物跡で，第6・7号掘立柱建物跡は中央部に位置する。柱穴の規模は，9世紀代が長径（長軸）が50cm～1m程度に対して30～60cmと小ぶりになる。土坑は第5・58・162・167号土坑が該当する。第162号土坑からは土師器の坏や椀などの破片が35点ほど出土している。井戸跡は第4号井戸跡が該当し，形状は上方が漏斗状，下方が円筒状を呈しており9世紀代のものとほとんど変わらない。

出土遺物は，土師器の坏，椀，皿，甕，甑，羽釜，置き竈などで，須恵器はほとんど出土せず，土師器が中心となる。土師器の坏は器高が低く皿状で，底部は回転ヘラ削りのものに加えて回転糸切り離しのものが出てくる。甕は口縁端部が上方につまみ上げられ，体部下端は横方向のヘラ削りが施され，底部には木葉痕がみえ

た。この他土師器の羽釜が第21・32号住居跡から，鬼瓦が第7号住居跡から出土している。

10世紀は9世紀と同様に集落としての規模は大きく，住居跡と掘立柱建物跡がセットで3つのグループになり，稲などの収穫物は掘立柱建物跡に保管されたものと思われる。

5　時期不明の遺構と遺物

時期を判断できる遺物がなく時期不明とした遺構は，第30・40・45号住居跡，第11・14・15号掘立柱建物跡，第3号井戸跡，第2・3・4号溝で，この他土坑130基がある。掘立柱建物跡は，掘立柱建物跡そのものが出土遺物が少ないことが多く，配置から平安時代の集落との関連も推定できるがここでは時期不明とした。土坑では，第77・78・79・81・83号土坑は調査区域中央部の西端に集中して位置しており，出土遺物がなく時期不明としたが平面形から中世の墓壙の可能性も考えられる。遺構外から出土した遺物としては，土製羽口が多かった。製鉄関連の遺構は，当遺跡内からは検出されていないが，第1号溝からも羽口や鉄滓が出土しており，当時期近に製鉄関連の遺構が存在した可能性が考えられる。鉄製品は1点だけで，刀子が出土している。

6　小結

今回の調査で当遺跡は縄文時代から奈良・平安時代にかけての複合遺跡であることが判明した。

当遺跡は縄文時代には狩猟の場として利用され，集落は弥生時代後期に小規模ながら出現し，古墳時代後期に再び形成され，奈良・平安時代に入ると拡大し，9世紀から10世紀にかけて最大になる。歴史的にみるとこの時期は，律令時代で，当遺跡の集落は班田農民のものと推定される。これまでの調査で当遺跡周辺の真壁，筑波地方の水田は当時現在とほぼ同じ場所にあったと推定されている。明野町は真壁郡に属し，町内の集落跡と考えられる遺跡は，ほとんどが台地上でなく水田に面した微高地に位置している[3]。これは水田の耕作や管理に適した場所に集落が形成されたためと考えられる。さらに集落が律令制下の8世紀に形成され，9世紀から10世紀にかけて規模が急激に拡大したことは，計画的に配置された班田農民の集落であった可能性も考えられる。

当遺跡は弥生時代後期と古墳時代後期に集落が形成され，奈良・平安時代の8世紀初めから10世紀初めにかけて班田農民の集落があり，律令体制と盛衰を共にし，その崩壊とともに集落も終焉を迎えることになったと考えられる。

註

1）奈良国立文化財研究所　『木器集成図録　近畿古代篇』　史料第27冊　1985年3月

2）註1）に同じ

3）明野町史編さん委員会『明野町史』1985年7月

付章　館野遺跡第２号井戸跡出土木製品の樹種同定結果

㈱吉田生物研究所　汐見　真
京都造形芸術大学　岡田　文男

１．試料

試料は館野遺跡第２号井戸跡から出土した祭祀具１点，紡織具１点，用途不明品２点の合計４点である。

２．観察方法

剃刀で木口（横断面），柾目（放射断面），板目（接線断面）の各切片を採取し，永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３．結果

樹種同定結果（針葉樹２種，広葉樹１種）の表と顕微鏡写真を示し，以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）マツ科マツ属［二葉松類］（Pinus sp.）

（遺物 No.1）（写真 No.1）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内壁に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で１～15細胞高のものと，水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属［二葉松類］はクロマツ，アカマツがあり，北海道南部，本州，四国，九州に分布する。

２）スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D.Don）

（遺物 No.2）（写真 No.2）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州，四国，九州の主として太平洋側に分布する。

３）広葉樹

（遺物 No.3）（写真 No.3）

乾燥と収縮で同定できる切片が採取できなかった。木口では年輪界は不明であった。道管以外の要素は不明。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。放射組織は直立，方形と平伏細胞からなり異性である。道管放射組織周壁孔は対列ないし階段状である。板目では放射組織は一部に２細胞列の組織が見える以外は不明である。

4）広葉樹

（遺物 No.4）（写真 No.4）

乾燥と収縮で同定できる切片が採取できなかった。木口では年輪界は不明であった。周囲状の軸方向柔細胞が見られる。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。放射組織は直立、方形と平伏細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は中型である。板目では放射組織はほとんど不明である。

◆参考文献◆

鳥地謙・伊東隆夫　「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

鳥地謙・伊東隆夫　「図説木材組織」　地球社（1982）

伊東隆夫　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」　保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

◆使用顕微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

第２号井戸跡出土木製品樹種同定表

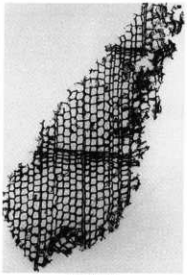
No.	品　　名	樹　　種
1	糸巻の一部	マツ科マツ属「二葉松類」
2	斎串	スギ科スギ属スギ
3	不明木製品	広葉樹
4	不明木製品	広葉樹

木口×40

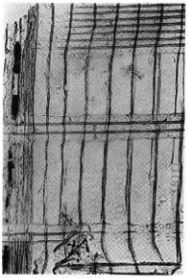
柾目×100

板目×40

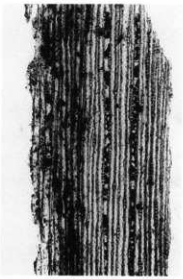
No.1　マツ科マツ属［二葉松類］



木口×40

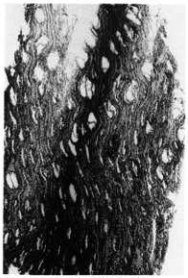


柾目×100



板目×40

No.2　スギ科スギ属スギ

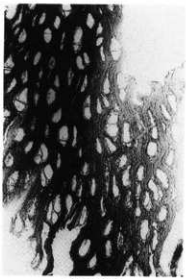


木口×40

柾目×40

板目×40

No.3　広葉樹



木口×40

柾目×40

板目×40

No.4　広葉樹

写　真　図　版

館野遺跡遠景

館野遺跡完掘状況

PL 2

北部完掘状況

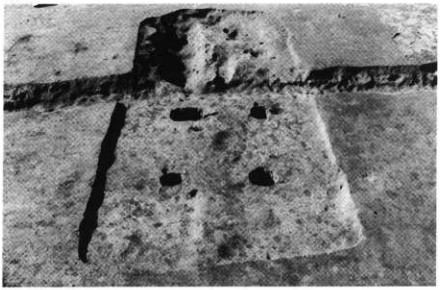
西部完掘状況

南部完掘状況

第１号住居跡
完掘状況

第11号住居跡
完掘状況

第11号住居跡
遺物出土状況



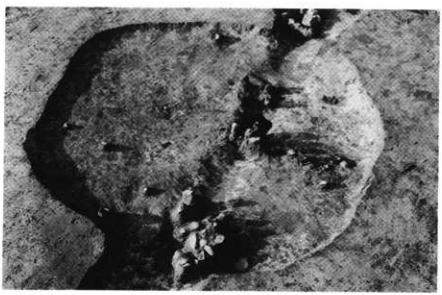
第13号住居跡
完掘状況

第13号住居跡
遺物出土状況

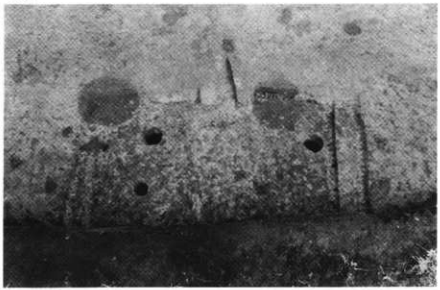
第19号住居跡
完掘状況

第19号住居跡
遺物出土状況

第25号住居跡
完掘状況



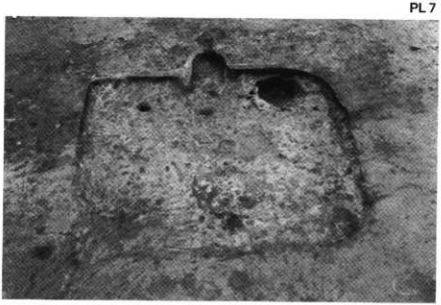
第25号住居跡
遺物出土状況



第20号住居跡
完掘状況

第20号住居跡竈
完掘状況

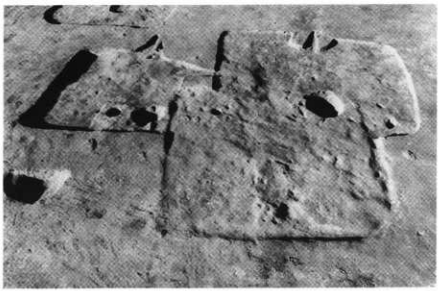
第 2 号住居跡
完掘状況



第 4 号住居跡
完掘状況

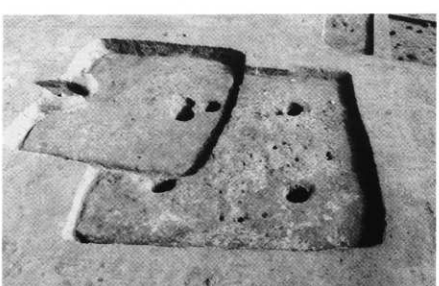
第 4 号住居跡
遺物出土状況

第 4 号住居跡
遺物出土状況



第4・5・6号住居跡
完掘状況

第7号住居跡
遺物出土状況

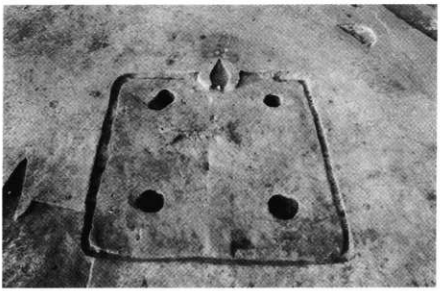


第8・9号住居跡
完掘状況

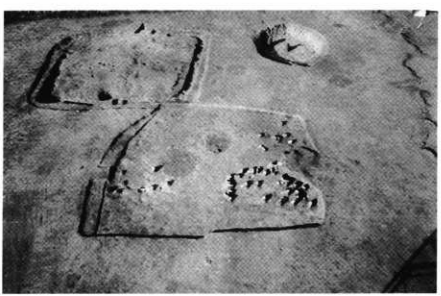
第10号住居跡
完掘状況

第12号住居跡
完掘状況

第15・16・17号住居跡
完掘状況



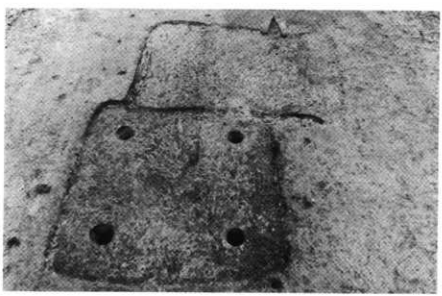
第17号住居跡
完掘状況



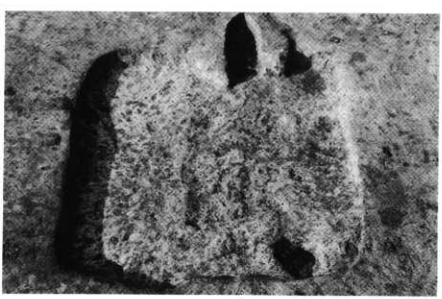
第21号住居跡
遺物出土状況

第22号住居跡
完掘状況

第24号住居跡
完掘状況



第26・27号住居跡
完掘状況

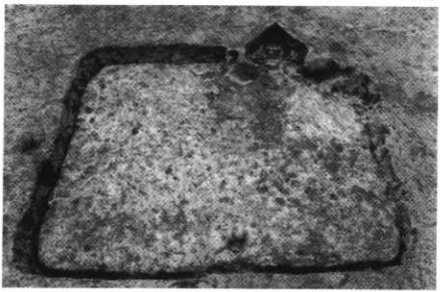


第31号住居跡
完掘状況

第31号住居跡
遺物出土状況

第32号住居跡
完掘状況

第32号住居跡
遺物出土状況

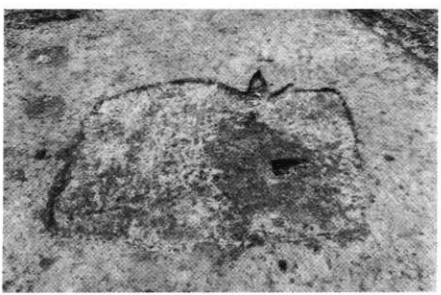


第36号住居跡
完掘状況

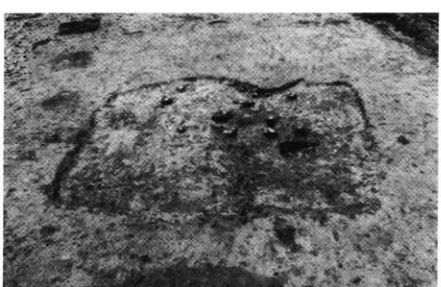
第36号住居跡
遺物出土状況

第36号住居跡
竈遺物出土状況

第37号住居跡
完掘状況



第41号住居跡
完掘状況



第41号住居跡
遺物出土状況

第１号掘立柱建物跡
完掘状況

第２号掘立柱建物跡
完掘状況

第２・３・４・５号掘立柱
建物跡完掘状況

第 7 号掘立柱建物跡
完掘状況

第 8 号掘立柱建物跡
完掘状況

第 9 号掘立柱建物跡
完掘状況

第10号掘立柱建物跡
完掘状況

第11・13号掘立柱建物跡
完掘状況

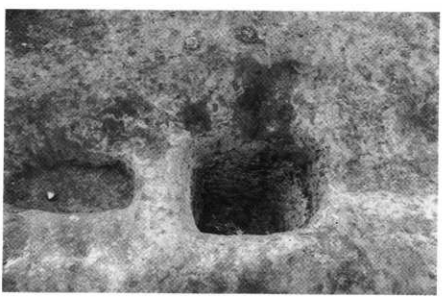
第13号掘立柱建物跡P3
遺物出土状況

第 1 号井戸跡
完掘状況

第 3 号井戸跡
完掘状況

第 4 号井戸跡
完掘状況

第 4 号井戸跡
遺物出土状況



第 5 号井戸跡
完掘状況

第 5 号井戸跡
遺物出土状況

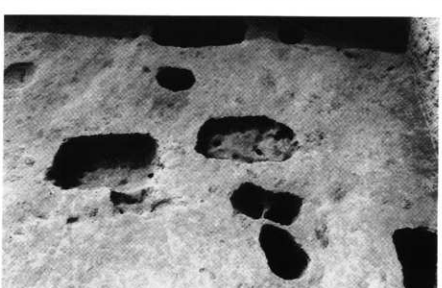
第1号溝北部
完掘状況

第2号溝
完掘状況

第3号溝
完掘状況

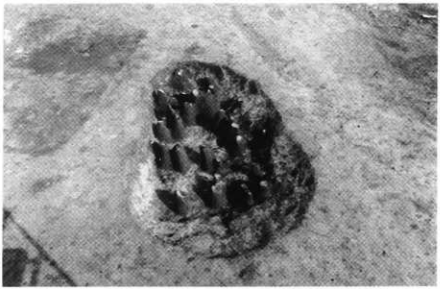
第５号土坑
遺物出土状況

第58号土坑
遺物出土状況



第79～84・90・92号土坑
完掘状況

第162号土坑
遺物出土状況



第165号土坑
遺物出土状況

第167号土坑
完掘状況

S I 19-6

S I 1-1

S I 25-7

S I 11-3

S I 11-4

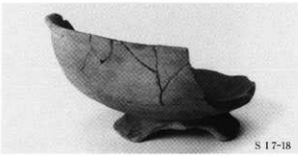
S I 19-5

第1・11・19・25号住居跡出土遺物

S I 5-14

S I 10-27

S I 7-21


S I 7-18

S I 9-25

S I 12-30

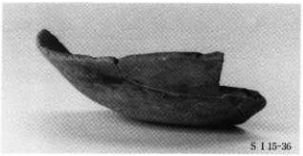
S I 17-41

S I 12-31

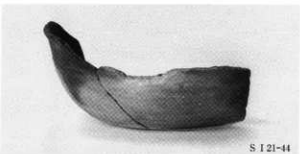
S I 12-35

S I 7-22

第5・7・9・10・12・17号住居跡出土遺物

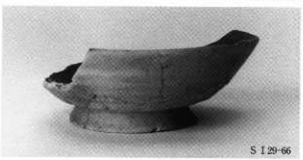

S I 15-36

S I 28-65


S I 21-44

S I 21-47

S I 21-48


S I 29-66

S I 21-181

S I 21-51

S I 21-50

S I 22-54

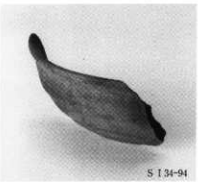
第15・21・22・28・29号住居跡出土遺物

S I 31-76

S I 32-82

S I 34-97

S I 34-93


S I 34-94

S I 33-89

S I 34-96

S I 32-86

S I 32-87

S I 32-85

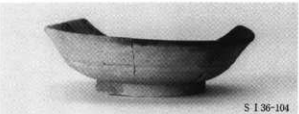
S I 33-92

S I 29-69

第29・31～34号住居跡出土遺物

S I 36-100

S I 36-101


S I 36-104

S I 46-123

S I 36-106

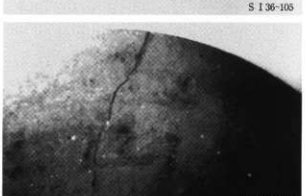
S I 36-109

S I 36-112

S I 36-111

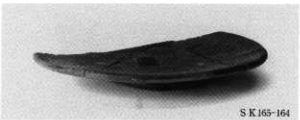
S I 36-105

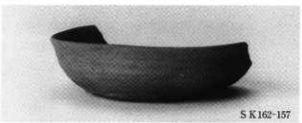
S K 165-162


S K 165-164

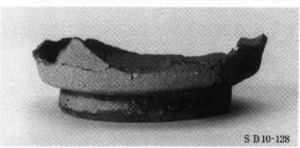
第36・46号住居跡，第165号土坑出土遺物

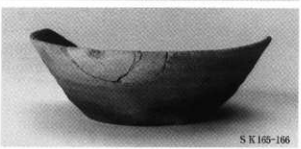
SK165-163


SK165-164


SK162-157

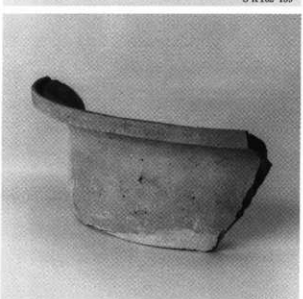
SB13-129


SB10-128


SK165-166

SK162-159

SK165-169

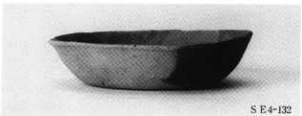

SD1-146

SK165-165

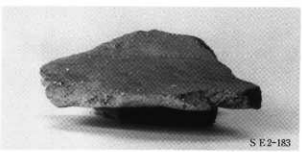
第10・13号掘立柱建物跡，第162・165号土坑，第1号溝出土遺物

S D1-144

S D1-145


S E4-132

S D1-142


S E2-183

S E2-131

S E4-134

S E4-135

S D1-147

S D1-139

第2・4号井戸跡，第1号溝出土遺物

遺構外-177

遺構外-178

遺構外-173

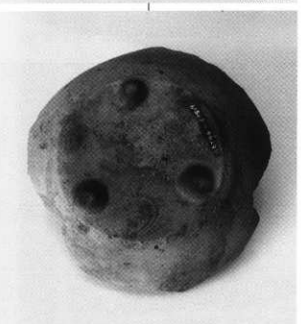
遺構外-170

遺構外-174

遺構外-176

遺構外-179

遺構外-172



遺構外-184

遺構外出土遺物

遺構外-TP11

SI11-TP1

SI25-TP6

SI13-TP2

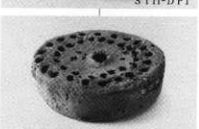
SI25-TP7

SI25-TP8

SI25-TP9

SI11-DP1

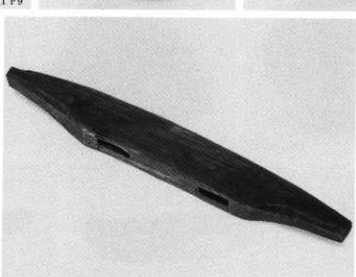
SI13-DP2



SI19-DP3

遺構外-DP17

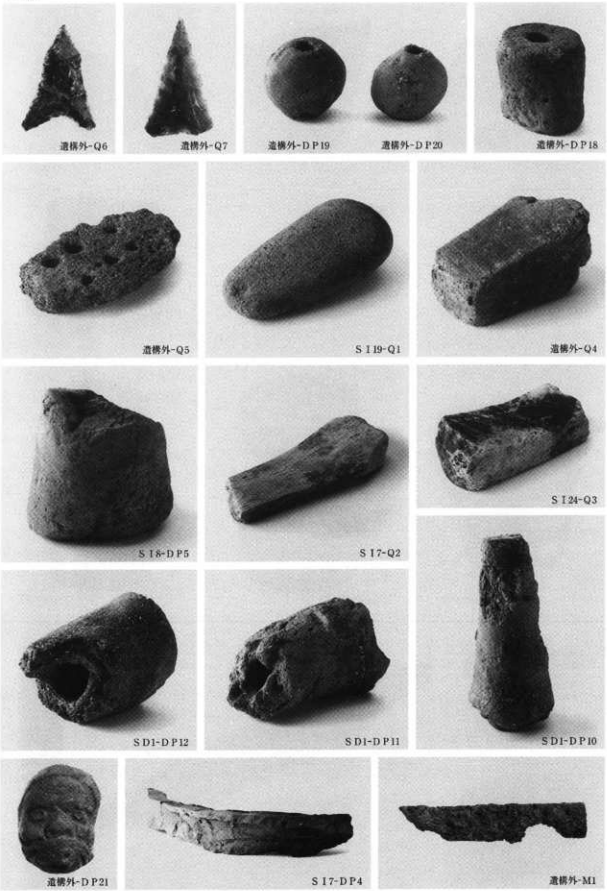
SD1-DP15


SE2-W1

SE2-W2

第11・13・19・25号住居跡，第2号井戸跡，第1号溝，遺構外出土遺物

PL 32



第7・8・19・24号住居跡，第1号溝，遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第189集

館野遺跡

平成14（2002）年3月20日 印刷
平成14（2002）年3月25日 発行

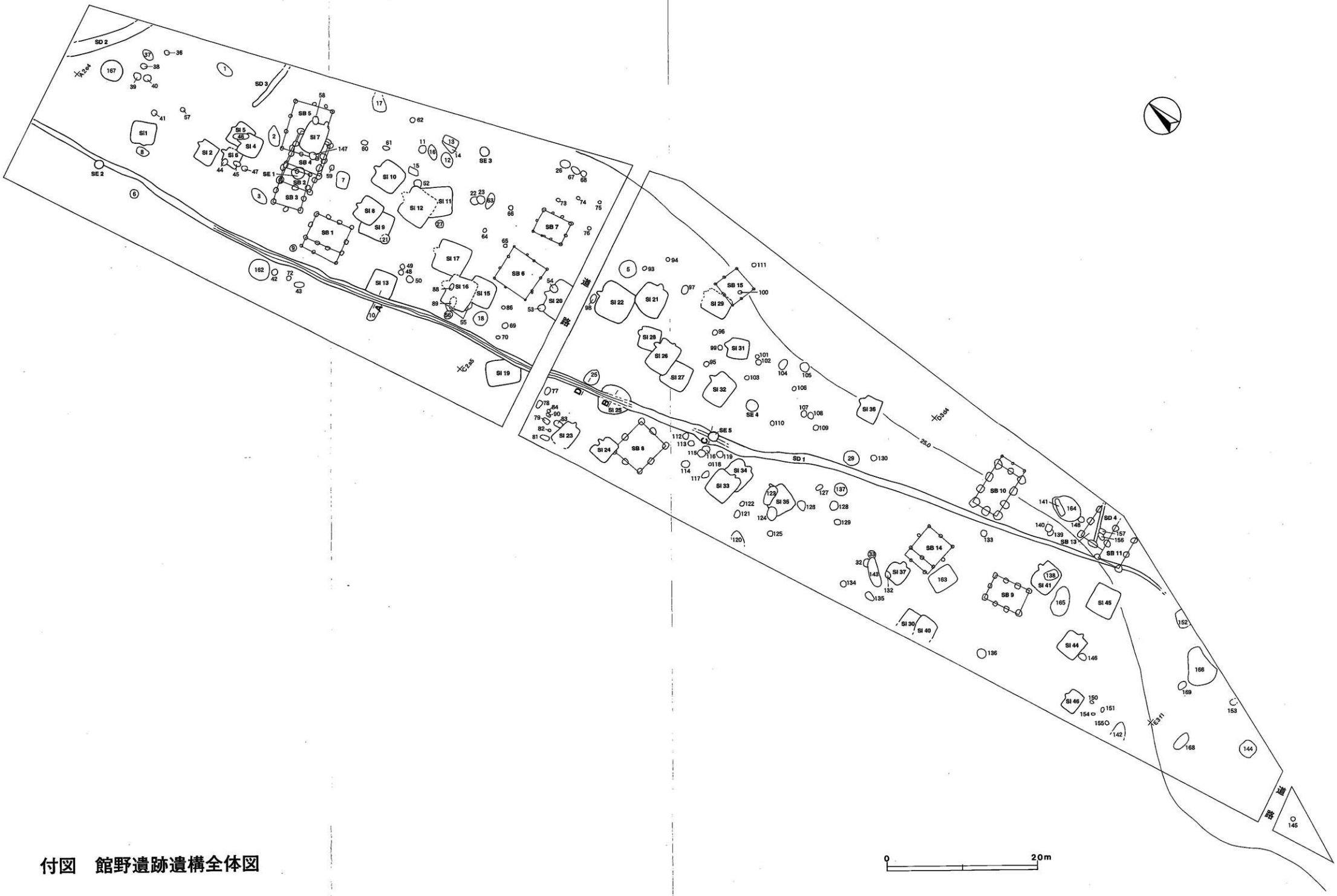
発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸市生涯学習センター分館内
TEL 029－225－6587

印刷 株式会社 エリート印刷
〒300-1211 牛久市柏田町3259
TEL 0298－73－2231

付　　図

茨城県教育財団文化財調査報告書第189集

館野遺跡



付図　館野遺跡遺構全体図